

八) の祈禱法に付(鹽尻一五ノ一五)  
 尻二(一八)  
 の宮七門徒(鹽尻五二ノ三二)  
 上總の一目(南留五ノ二六)  
 の五番善神(鹽尻五ノ七)  
 「アイ」愛染明王ヲ見ヨ

日蓮大菩薩記 (一話二〇ノ四二)

●ニツ

日下奮闘 といふ書(松筆一七ノ五七)  
 日角 龍庭云々の一解(鹽樓上ノ一七)  
 日記 物語ふみ草子一等のさだめ(三一)  
 「かな文の旅路の」(松落四ノ二七)  
 「サッ」草子モノ(物語ヲモ見ヨ)

日輝和尚 遠徳碑(如開二八ノ二四)  
 日給簡 (安隨九ノ八)

日光 燈籠銘并序(一話二九ノ二四)  
 寶殿にやらす 參詣を許す(續燈)  
 燒尖(一話三ノ四)  
 中禪寺(一話三ノ四)  
 佛會の事(鹽尻一五ノ一七)  
 の梶金平(孝經二ノ一八)  
 奉行の庭松倒れて自ら立つ事(白柳八ノ一)  
 と三荒山(鹽江七ノ七二)  
 頂の四十八海(平日六ノ二)

日光山

下野三荒山神社の祭神(鹽尻二三ノ二)  
 日光三社権現 (一話一ノ二八)  
 日光御社參 に付供奉の人々(一話三二ノ六)  
 被仰出(平日二ノ二)(同二ノ二)  
 供手當、行列役人付(平日三ノ一三)  
 紀尾兩公の (鹽尻三七ノ三九)  
 日光責 (婚遊五ノ五) (提醒三ノ二二)  
 日光門主 寬永寺當代住職(平日四ノ一)  
 日光新宮の遷去(平日二ノ二四)  
 の著(平日二ノ二五)  
 日光例幣使 の文書二通(一話二六ノ二五)  
 日觀要考 といふ書(一話二〇ノ三七)  
 日蝕 日月の蝕をヘエといふ(比古二ノ二八)  
 金環蝕(見陽一七ノ二)  
 元且の節公儀の禮式(瀬田一五ノ五)  
 「クッ」月蝕ヲモ見ヨ

日潮、月潮 といふ地名(鹽尻一ノ二六)  
 日潮 身延山の一人(一話四一ノ三三)  
 日暮里 入堀といふ所(望海一八)  
 新堀山(京都前上ノ七)  
 の花(婚遊七ノ五)  
 のうた(一話二〇ノ三七)

戸田茂睡のうた(一話四〇ノ二七)  
 仁木頼景 (法師)がみまかれる時の事(玉ッ七ノ六)  
 新田氏 さい世良田氏(鹽尻二四ノ二五)  
 新田義貞 の正統(白遺考卷二)(白雜記)の十六騎(安隨二〇ノ四三)  
 新田義重 の卒去年并贈官の事(鹽尻二六ノ一八)  
 新田義助 の感狀并花押(鹽尻五五ノ一三)  
 新田義隆 さい貞方(燕石三ノ二)(京雜前下ノ四二)  
 新田義則 底倉にて弑せらるる事(鹽尻一九ノ一八)(同三七ノ一五)  
 新田義治 を殺さん隠謀の事(鹽尻八ノ一五)

●ニチ

二條氏 代々の事(鹽尻三七ノ二八)  
 御子左(一話九)  
 二條后 (春淡中ノ一四)  
 耳鳥齋 狂僧師(葉叢三ノ二五)  
 似て非なる者 (安隨一七ノ六二)(婚遊附ノ一四)

●ニト

煎鯉汁 (一話二一ノ二三)

●ニナ

蜷 字訓、結(安隨一ノ四二)  
 蜷川親長 (安隨一五ノ一〇)  
 蜷川親元 (白神一〇ノ一九)  
 蜷川日々記 (安隨九ノ一八)

●ニ、

二人丸秘抄 といふ書の事(鹽江一ノ四四)  
 ●ニノ

二の宮 尾張 大縣神社々主略系圖(鹽尻八ノ四三)  
 二の宮君 横死の舊跡(鹽尻三四ノ一)  
 二宮與三右衛門 の功名(白秘一三ノ一八)

●ニハ

にはたみづ いさらみつと(同)  
 庭園 (婚遊一ノ上ノ三〇)  
 つくり庭の蹟(花月二八)  
 注の一場(婚遊一ノ上ノ三七)  
 庭の石立(春淡下ノ一六)

立石(婚遊一ノ上ノ三〇)(三三)  
 石立方位の事(婚遊一ノ上ノ三二)  
 鴨會(婚遊一ノ上ノ三一)  
 〇(山水を鳥といふ)(婚遊一ノ上ノ三)  
 砂(婚遊一ノ上ノ三二)  
 手水鉢あたりの砂利(婚遊一ノ上ノ三四)  
 砂石(婚遊一ノ上ノ三五)  
 菊山(婚遊一ノ上ノ三六)  
 林檎(婚遊一ノ上ノ三七)  
 假山(婚遊一ノ上ノ三三)  
 假山作方の二流(婚遊一ノ上ノ三五)  
 假山に松葉を布く事(婚遊一ノ上ノ三五)  
 盆山大湖石(婚遊一ノ上ノ三五)  
 作れる人の言(花月七七)  
 宋の徽宗の萬歳山、明の崇禎の小樓閣(婚遊一ノ上ノ三四)  
 致思養許石を求む(婚遊一ノ上ノ三四)  
 京都の名園(安隨六ノ二)  
 「サン」山茶寮セツ(小山園ヲモ見ヨ)

庭窟 (婚遊一ノ下ノ一一)  
 庭息草 「ハセ」芭蕉ヲ見ヨ  
 庭守 (婚遊一ノ上ノ三五)  
 丹羽正伯 の著述(一話四〇ノ四一)  
 丹羽長重 の事附長東氏戸田氏の事(白神二ノ三)  
 丹羽長秀 の姓(白神一〇ノ一七)  
 俄 (俄々茶番との別)(俗耳八)  
 「サヤ」茶番「イッ」遊師ヲモ見ヨ

接骨木 (松筆九五ノ六八)  
 鶏 をハタ、鳥又カケといふ(圓珠四)  
 の倭名長鳴の鳥(鹽尻四八ノ一九)  
 方遊に鳴をとる事(四方雪ノ二)  
 三木編をつけて聞の明神させし事(鹽尻三四ノ四)  
 の夜鳴を不詳とする事(鹽尻五ノ二三)  
 神社に「ハタ」を納むる事(鹽尻七ノ二七)  
 雌雄不接生卵(鹽尻一ノ一八)  
 聲には「ハタ」を殺せし歌(松筆五ノ一七)  
 吉田久左衛門陣中に「ハタ」を畜ふ事(白秘一七)  
 養一千餘頭(松筆七八ノ三六)  
 一足の「ハタ」(見小中ノ一九)  
 かりあはせ(如開一七ノ二七)  
 「關雞必勝法」(松筆六ノ一七)  
 「ハタ」をくたかけヲモ見ヨ

●ニヒ

鈍色 (松筆七ノ九、八七ノ一四)  
 新嘗祭 普新(鹽尻四二)  
 の詩(鹽尻三七ノ四四)  
 新和泉 さいふ地名(松筆一五ノ一四)

●ニフ

にふない雀 「ヌ」雀ヲ見ヨ  
 にふなみ といふ古語(碩鼠三ノ二五)  
 入院 といふ語(孝經四ノ七)  
 入眼 (松筆六ノ一一)

**入花** の始(奴風二五)  
**入唐** といふ語(南留四ノ二三)南留二〇)  
**入道** の事(南留五ノ一一)の名稱(安隨一七ノ二九)と新發意(安隨三ノ五三)女にも(安隨五ノ二三)に廻り道にもいふ(松筆四〇ノ一三)「ソウ」僧尼ヲモ見ヨ  
**入定** 土定の行者不死(宛小中ノ四八)の僧(春波七四)  
**入梅** 「ハイ」梅雨ヲ見ヨ  
**入麴** (玉ヲ二ノ二〇)松筆九二ノ二七)唐人ハ「セ」オソい事(世界九六)「フ」風呂ヲモ見ヨ  
**入浴** 考(維江一ノ二九)  
**丹生川** 考(維江一ノ二九)  
**丹生高野使者** 二ノ一五) 聖徳(松筆二分)の解(一話一ノ三三)  
 ●ニ  
**仁倍魚** 「ハラ」腹赤ヲ見ヨ  
 ●ニホ  
 にほひか 「エウ」寝寝ヲ見ヨ  
 にほふ 九(南留八) 南留一ノ二 さいふ言葉(年打上ノ三八) 鵜鳥 「カト」河東節ヲ見ヨ 鵜の海 (閑次三ノ一六)

**句ひ袋** (閑次三ノ一六) 誰か袖句の玉(嬉遊二ノ上ノ四三) 誰か袖(加拾中ノ一七)のたしなみ(賤小ノ一八) 蚊蠅に (松筆九五ノ五二) (柳筆中ノ三六) (川拾下ノ七) 「ウ」浮世袋ヲモ見ヨ  
**日本** 本朝國號考(一話三八ノ一九)魏苑(維江三ノ一) (乘廻二ノ一) 漢籍に記せるの諸名稱(海四一ノ一) 君子國(隨意八ノ二) (提醒一ノ一) 老牛中(松筆一九) 日出国(如關二ノ一〇) 大日の本國(南留二ノ二六) 倭國(安隨九ノ二) (白筆上ノ三) 倭(如關一ノ二) (安隨一四ノ五) 倭奴國(如關二ノ一四) (隨意二八ノ五) 南倭(如關二ノ一三) 耶馬臺(海四一ノ六二) 三(倭國と別國とする説(隨意七ノ三八) 浮屠氏「を聖散國といふ(隨意一〇ノ二四) (安夜五ノ九) (安隨八ノ二九) (南留二ノ一四) (隨意五ノ四) 「タイ」大養德國ヲモ見ヨ 地理 東西の幅員(白紳九ノ八)

行程(松筆四ノ一五) 古今國數の多寡(春梧二ノ一) 輿地古圖(海四二ノ二五) 西川 怒斬の土地(南留三ノ一) (安隨九ノ二二) (老牛中ノ一三) 人口 上古の人口(柳菴三ノ九) 國の人口(一話二〇ノ三四) 海國見開録中の記事、外國竹枝中の記事(隨意七ノ一八) 漢籍に見えたるの記事(松筆一ノ一) 魏志東夷傳(後漢書東夷傳の記) 潘祖謙所載の記事(隨意二〇ノ二四) 潘祖謙所載の記事(隨意三ノ一八) 陳氏雜書所載の記事(隨意五ノ四四) 杜陽雜編所載の記事(隨意三ノ一八) 歷朝樂事所載の記事(隨意三ノ一九) 漢入九) 羅山集詩(松筆五ノ二二) 吳孫權將攻(隨意四ノ五) 倭國求道表文(隨意五ノ二五) 勅日本國王(隨意八ノ三三) 爲慶於元朝(安隨七ノ一六) 不臣於元朝(安隨七ノ一六) の開化と人智(春波七四) との差別(如關三五ノ八) 古傳の得失(如關三五ノ八)

△雜  
 の三不足(續尾二八ノ二五) の三無(松筆八ノ一一) の五奇異(發埃四ノ二七) 日本一 (嬉遊九ノ四〇)  
**日本紀** 日本書紀考(比古一ノ一) 日本書紀の題號(安隨九ノ二三) (二上三三) (論小五ノ九) 年曆考(比古一ノ二) 竟養歌の註(維江七ノ三九) (松筆一五) 欽明天皇の卷(玉一ノ四) 孝徳天皇大化二年の條の註に付て(發小四ノ二) 日本書紀の文詞(安隨一三ノ四〇) 日本書紀の文は淮南子を拾綴せる事(繼尾二ノ一七) 日本書紀の文体(南留一ノ二四) (南留一ノ二四)  
 の訓(安隨七ノ二七) の今の訓(年々五ノ二七) の點(南留一ノ一八) 可讀不可讀の事(安隨六ノ二三) の註釋なき法師沙汰(からず) (松筆七ノ九) 書紀の本書に書し八百萬神といふ(松筆九ノ三五) 萬神と記されたる事(玉か) 然田神宮古寫本の(推書一ノ二二) 吉田兼俱の談義(玉一ノ二二) 印本の跋(松筆七ノ二二) 假名 「カナ」假名ヲモ見ヨ  
**日本紀纂疏** の撰者(安隨四ノ二九)

**日本紀通證** の評(安隨七ノ九)  
**日本紀傳** の跋(如關二九ノ二二)  
**日本紀略** といふ書(維江五ノ九六)  
**日本見在書目録** の事(比古九ノ一九) 編者(維江四ノ七九)  
**日本後紀** 四十卷ものある事(白紳八ノ二七) 編輯の時(日并)に授筆(繼尾三四) (白筆下ノ一三) 及新國史は世上不傳のものなり(流布の) (白筆上ノ三三) 温故堂 出版の次第(論小五ノ三三) 授筆數條(孝經四ノ一九) (繼小一一)  
**日本左衛門** 大盜(意二三九) 日本寺 正東山 (松筆六ノ一三) 日本詩紀 の引用書 (話三〇ノ二〇) 日本人 は吳秦伯の子孫なるの説(安隨一話八ノ七) (多波上ノ三) 徐福の後(隨意七ノ七) は徐福の性實潔白なる事(橋菴初ノ三) の氣象(春波一三) 勇武(我宿三九) 後奴の狡(安隨七ノ二九)  
**日本土風記** 本朝の書にあらず(白筆上ノ二九) 日本内海 山陽の江と稱する説(松筆一ノ一六)

**日本橋** 江戸 邊の様(業ゆ一四)  
**日本文字** 本朝の文字(白紳四ノ二二) 我國文字傳來考(世談一四五) (隨意二ノ九) 和字(牛馬一八) (開新四ノ三五) 和製の文字(燕石三ノ四三) (六) 上代にも一種の文字ありけんといふ事(玉一ノ一四) 神代文字(安隨五ノ一七) (二二) (五) (牛馬一七) (後言四ノ二五) 出雲の大社なる竹筒の文字の事(白紳一〇ノ一六) 「イロ」いろは「カナ」假字「ヨシ」五十音 「モン」文字ヲモ見ヨ  
**二本松左京** 子孫(半日五ノ六)  
 ●ニマ  
**二萬里** 備中國 (鴨軒二五) 播磨國 (東屋下ノ二二)  
**煎豆** 座禪豆(嬉遊二ノ上ノ二六) (松筆九ノ二二)  
 烹雜の記 の結言(意雜前ノ五)  
 ●ニヤ  
 にやけ 若氣といふ詞(嬉遊九ノ三四) (松筆六ノ五九)  
 にやく 若と弱と相通(筆中ノ二五)  
 ●ニヨ  
 によひ (松筆一〇ノ二)

により試角 といふ事 (老樂六)  
 如意 圖説(傍廂一〇)(勝餘三ノ二)  
 如意寶珠 (安隨一七ノ八)  
 如一國師 智恩寺(一)  
 如是我聞 (南留三ノ一三)(玉カ一四ノ三四)  
 如大禪尼 「チヨ」千代能尼ヲモ見ヨ  
 如々 智(松筆八四ノ二三)  
 如法 (松筆七二ノ一)  
 如來 (松筆九一ノ四)  
 如來寺 芝高繩の由緒(望海五二)  
 如來出現品 抄(松筆三九ノ七)  
 女一宮 女二宮なきいふ唱へ(玉カ四ノ二)  
 女御 (玉カ一三ノ三七)(松筆六三ノ四六)  
 女御入眼 (松筆一八ノ四〇)  
 女房 (梅日三ノ三〇)(南留四ノ二二)  
 女房 (梅日三ノ三〇)(南留四ノ二二)(安隨四ノ一三七)(安隨

七ノ五二)(安夜三ノ二〇)  
 女房宣 (松筆一八ノ一七)  
 女房文 日月日しるす(松筆三八ノ五)  
 苦吟 (松筆五二ノ六)  
 ●ニラ  
 にらめくら 目比(嬉遊六ノ下ノ六)  
 上ノ一)  
 非 (骨董下後ノ一八)(南留三ノ一五)  
 非 (骨董下後ノ一八)(南留三ノ一五)  
 非山 伊豆(支同二ノ下ノ八)  
 ●ニリ  
 二倫行實圖 の作者(勝餘二ノ六)  
 ●ニレ  
 二王 寺門の(鹽尻四六ノ六二)(松筆二ノ二九)(九一ノ二七)  
 門(松筆七八ノ九一)  
 ●ニソ  
 二王 寺門の(鹽尻四六ノ六二)(松筆二ノ二九)(九一ノ二七)  
 門(松筆七八ノ九一)

仁 俗稱栗核中子日(隨憲五ノ二二)  
 仁寛 好僧(鹽尻五ノ七)  
 仁壽殿 の顔倒(玉カ一四ノ一五)  
 仁德紀 の筑前の字及全宛の義(比古三ノ三)  
 仁德天皇 讀(二話四一ノ三)  
 大鷲鷲尊(道雅郎と國を譲り給ふ事(南留三ノ二))  
 仁の御陵(自神五ノ二五)  
 高き屋のうたは(如蘭一ノ八)  
 (燕石一ノ二二)(北邊一ノ五)(年打下ノ一八)  
 高津宮をよめさうた(鹽尻三四ノ二三)  
 仁和寺見法師 徒然草にある(支同三ノ下ノ八)  
 仁和寺本 (雜米四ノ四五)  
 仁明紀 長歌論(ウタ)歌ヲ見ヨ  
 仁明天皇 深草天皇(玉カ二ノ三四)  
 仁法親王 東南院の宮と稱す(鹽尻九ノ二)  
 人形 土人(桂林下ノ五)  
 古代の土偶(輪軒四ノ八)  
 操の進歩(雲錦四ノ八)  
 操(おやま)のるま、笠(ハ)、基盤、芥子、今戸土、り四、ぼ、鹽尻(嬉遊六ノ上ノ三九)歌、

五六ノ下ノ三九、四〇)  
 右近、小兵衛(後書一四)  
 おとろん、居龍三九)  
 鹿島、の衣袋(奇跡七)  
 野呂松、の道化(雲錦四ノ七)  
 七小町、(柳筆上ノ一四三)  
 合點音、(嬉遊六ノ下ノ三五)  
 若葉、(遊魂上ノ七)  
 柳原家の古、(閑自三ノ八)  
 柳原詩、(遊遊六ノ上ノ四一)  
 「アヤ」あや人形「テク」てくの坊  
 「タル」樽人形ヲモ見ヨ  
 人形遣 傀儡(藝苑五ノ二二)  
 八) 傀儡師(鹽塚九)(松筆九六ノ二一九)  
 野呂間、おやま、出つかひ(世談二一九)  
 人形の出遣ひ(嬉遊六ノ上ノ四一)  
 まやのく衣(柳記下ノ五一)  
 人形原 久留米の(輪軒一四)  
 人形筆 (嬉遊六ノ下ノ四五)  
 人形店 鳥原(嬉遊九ノ二二)  
 人魚 (松筆五一ノ二六)(二二)  
 人魚塚 (閑耕一ノ三〇)  
 人間の皮を被つた畜生 (松筆四ノ二)

人相 (雲華二ノ二二)(閑自四ノ二三)  
 相人法(隨憲五ノ一)  
 親相の事(花月四七)  
 見(くせ)二四(春波四八)  
 の中(松筆八二ノ六)  
 貴人の相(松筆四二ノ四)  
 加藤清正相法を學びし事(茶筆三ノ二)  
 相學者神谷登と平左内(賤小六六)  
 「サ」相觀ヲモ見ヨ  
 人情 和漢同日(四方書ノ一六)  
 義季(東西同)(幽遠下ノ三〇)  
 羞惡の情(茶筆四ノ二五)  
 哀妻不哀父母(隨憲一ノ一九)  
 盗人殺死を止めし話(茶筆三ノ二)  
 は通し難きものなり(假世六二)  
 事(鹽尻一ノ一五)  
 吳士不及北狄(松筆八七ノ四〇)  
 「ウキ」浮世ヲモ見ヨ  
 人參 和名考(支同二ノ一四)(同三ノ下ノ三)  
 我國に産す(自神八ノ二二)  
 の効用(隨憲三ノ二五)(世談一六一)  
 有毒(續昆二四)  
 の價(見陽六四)  
 朝鮮の事(鹽塚五ノ五)  
 人々の事(鹽塚四一)  
 人足 かなすとといふ(秋齋二ノ五)

人足寄場 石川島(續燒九七)  
 同場書留并給圖(二話三七ノ四四)  
 寛政二年寄場人足(被仰渡候書付(半日七ノ三))  
 人別帳 「コセ」戸籍ヲ見ヨ  
 人面瘡 (茶筆四ノ一五)  
 人面獸心 「シン」一ヲ見ヨ  
 刃傷 酒狂の上(せ)しもの及人を打擲せしもの(一話三三ノ一三)  
 小兒の裁判(一話三五ノ三七)  
 元祿十二年比谷門番家來(正徳四年常盤橋門(元文四年竹橋(半日二ノ二九三))  
 麻布山下兩士(半日一四ノ八)  
 上野山下兩士(半日二〇ノ三一)  
 胡蘿蔔 (續昆二二)  
 廂(二二) を煎して藥としたる話(傍廂二二)  
 忍辱 さいふ佛語(松筆一八ノ二三、一八ノ三〇)  
 忍性 祈異國(一話三〇ノ四二)  
 忍冬 (安隨一九ノ二四)  
 忍の功能(笈埃二ノ七)(鹽尻七ノ九)  
 蒜 誤(爲蘇(鹽塚下ノ四))  
 ●ヌ  
 ぬ 停字を「とよむ事(南留三ノ八)  
 「む」との假字遣(自筆二〇ノ二二)

●ヌエ

鶴 鶴付毛米(善港一ノ三)の事(閑次四ノ四二)考(理齋二ノ一〇)池(石並に岸氏)の寫生(雲錦二ノ一四)

●ヌカ

ぬかり 塗布(圓珠二四)ぬかり者(四ノ四七)額(ひたひ又ぬが(圓珠二六))

額田宗繼 (自紳一〇ノ二六)

額田王 鏡女王(玉か二ノ二八)

額つく といふ言葉(秋齋一ノ二二)

馨 「カミ鬘ノ風ヲ見ヨ」

辣味噌 五斗味噌(安隨二ノ三三)

●ヌキ

ぬき衣紋 (松筆九三ノ五一)

脱きかへて とつかへる例(難江五ノ四六)

抜簀 (安隨一四ノ七)貫簀(松筆九三ノ四二)

●ヌク

ぬくい さいふ俗語(桶菴二ノ五ノ九)

ぬくめ鳥 (梅日三ノ七)(松筆九二ノ一六)

●ヌケ

ぬけ足 (松筆八五ノ六七)

抜け參 「イセ伊勢參宮ヲ見ヨ」

●ヌサ

幣 (桂林下ノ二二)(自紳二ノ二六)幣帛の字(安隨三ノ二六)御(老牛上ノ二二)和幣水縮(兼烟四ノ二六)上古の物(安隨一ノ六四)神社の(鹽尻五ノ一〇)奉(班)六(松筆一ノ九ノ三)「アラ」被テ見ヨ

麻箱 千度万度なと記す事(鹽尻七ノ三三)

麻袋 (牛馬二ノ一)(難遊七ノ一)

●ヌシ

ぬし 人か(又はウシ)いふ(北邊四ノ一五)(隣女二ノ七)

主 物各有(松筆八六ノ一七)

●ヌス

盗人なる心 といふ詞(松筆一〇六ノ三五)

盗人に負錢 といふ事(松筆九三ノ二〇)

●ヌタ

ぬた 「アへ」騰テ見ヨ

ぬたうつ といふ詞(玉か八ノ二六)

●ヌナ

停中倉之長峽 (松筆一ノ一九)

●ヌノ

布 手作(提書一ノ七)

布子 (難遊二ノ上ノ六)(世談三〇)黄絹襖子(一話四ノ二三)

布た、美 といふ地(一話三ノ三八)

布のもこう (安隨一九ノ五三)

布引 といふ遊戯(安隨二〇ノ三〇)の日(安隨四ノ五二)

●ヌハ

ぬばたま 又うばたま(玉か一三ノ三一)

●ヌヒ

奴婢 (松筆三ノ一八)おさめすまし(みやうと)(安隨四ノ五)

賢買(如蘭七ノ一〇、二五ノ一八)

白膠木 考(安隨二ノ一五)(松筆九二ノ二四)

●子

ね 物價かといふ「アツ」物價ヲ見ヨ

●子ア

蘭茹 (略語下ノ二六)

●子イ

寝入る といふ詞(松筆一〇四ノ二二)

寧馨 の義(鹽意二ノ二八)(兼烟三ノ二二)倭臣 日本の後倭傳に入るべきもの(格拾二)

●子ウ

鍍鍔は胡器なり(鹽意八ノ二九)

●子オ

ねをの兎耳 (松筆五ノ二三)

●子キ

禰宜 といふ名(圓珠六五)神職を(さいふ事(安隨一七ノ一八))

大夫人の稱(鹽尻一九ノ五)女(松筆一〇六ノ二)

●葱

と葱(字同)下ノ九)「子キ」マキ「カリキ」ある事又一ともトといふ事(留留三ノ一四)樓(一話二ノ一七)

葱吹 小兒の戯(難遊六ノ下ノ四七)(梅日四ノ二二)

根岸 江戸に人家増加せし事(寛天二六)

繁華は衰微の基(宮川一ノ二)

●子ク

ねくさし といふ詞(玉か八ノ四八)

●子コ

ねこかい の木字(鹽尻三三ノ一〇)

ねこかき といふ席(安隨四ノ三七)

備 子こいふ名(圓珠七二)(南留五ノ一)

子こま(安隨五ノ八)子こま和名考(宛小上ノ四三)

手飼(傍廬一)

は婦人に似たり(唐韻四)

の鼠(鹽尻三〇ノ一七)

の乳母(鹽尻七二ノ三)

のちよつかい(一話)に袋破らす戯、

黒の効能(一話二九ノ三五)  
 洗面過耳則雨(隨意一ノ三七)  
 一の眠に時を知る(松筆七ノ三五)  
 性鼠にしかす(提燈五ノ八)  
 不飼ふ心得(提燈一ノ二四)  
 迷たるの歸來(提燈八ノ一七)  
 疫流行(一話一六ノ一六)  
 治病法(燕石五ノ五)  
 昔宮中にて(爲に官吏調度を置れし事  
 (鹽尻三ノ三))  
 恩を報す(宮川四ノ六)  
 柳原家の(閑歌一ノ二二)(花月五九)  
 にさられし盗人の話(奥波三ノ三)  
 の怪(苑小中ノ二六三)(奥波四八)  
 六足二尾の(鹽尻三四ノ一八)  
 のら(のうた)(秋聲二ノ二四)  
 備 隱賣女金(銀)(奴風二ノ〇)

猫繪師 (一話二六ノ三八)  
 猫瀬戸 (秋里中ノ一〇)  
 猫爪をかくす (さいふ謬)(松筆九六ノ  
 九七)  
 猫頭鳥 (極端上ノ二四)  
 猫の双紙 (一話三ノ三)  
 猫の蚤取 (骨董上ノ一九)  
 菜箱 (極端上ノ四ノ一三)  
 寢言 (さいふ事のあらはれし話(折々度  
 意)(極端上ノ三))

根來同心 火消(瀧田二七)の喧嘩(平日

根來塗 (一三ノ三四)  
 といふ漆器(辯遊二ノ下ノ一九)  
 根小屋 「シヤ」城下ヲ見ヨ

子ヤ  
 ねさめ視 抄録(一話六ノ三八)  
 寢覺里 閑居に(鹽尻五〇ノ二六)  
 記(漢文)(鹽尻三四ノ一〇)  
 寢覺のすさひ 雅望(後言二六)(難後  
 一)

子ス  
 鼠の調(隣女一ノ一三)  
 白を疑さい(苑小中ノ一八八)  
 三ヶ日に(を嫁)君(さいふ事)(柳筆  
 下ノ一)  
 嫁の子といふ名(松筆九ノ二一)  
 曲の性(し)かす(提燈五ノ八)  
 駿州の酒店に白(を多く)養ふ話(鹽尻三  
 五ノ二七)  
 衣を昨(は)福ありといふ事(葦樓下ノ  
 一)  
 小瓶ふ事の流行(笑埃一ノ二)  
 鹿兒島の奇(笑埃八ノ八)  
 田の害(隨意一ノ〇)(平日四ノ二六)  
 豫知災變(隨意一ノ一七)  
 奥州にて(海を渡る事)(一話四八ノ三五)  
 の怪(苑小中ノ一八)  
 を落して(宮殿を焚く)(松筆六二ノ三四)  
 大(我撥二ノ二七)

鼠色 一の祠(松筆八〇ノ八、九一ノ四四)  
 (玉か一三ノ三三)  
 鼠こつこ と馳こつこ(辯遊二ノ八)  
 鼠啼き の習俗(おろ下ノ一七)  
 鼠の猫に逢へるか如し といふ事(松  
 九六)  
 鼠嫁入 (世事二二)(辯遊二ノ六)

子セ  
 寝小便 の妙薬(安隨二ノ一三)

子タ  
 ねたば といふ文字(安隨三ノ五二)(南  
 嶺三ノ一五)  
 早 の方(安隨二ノ一)  
 ねだる といふ文字(安隨三ノ三九)

子ツ  
 ねつる といふ詞(松筆九七ノ二七)  
 根津 の景況(武俗二九)  
 根津神社 (望海二六)  
 日一ノ三 隨身門の像(一話二一ノ二)(半  
 上ノ一八) 祭禮(附)(一話九ノ三七)(曲漫  
 の祭禮(一話二一ノ四〇))

祭禮と養永祭(辯遊七ノ二五)  
 詩(松筆一四ノ一)  
 根付 (辯遊二ノ中ノ一八)  
 熱病 の治方(松筆七ノ一六)

子ナ  
 根なし言 (松筆九〇ノ二二)

子ノ  
 子ノ日菴三我 「サ」三我ヲ見ヨ  
 子ノ日遊 付小松引(年々五ノ四)  
 圓融太上天皇葉野御子の日の事  
 (玉子二ノ二)  
 子ノ日の宴 「キノ」甲子ヲ見ヨ  
 子ノ日鋤 (安隨二〇ノ四五)  
 子ノ日待 (孝經四ノ一)

子ハ  
 涅槃 といふ語(隨意七ノ三三)(松筆八〇  
 ノ三六、八四ノ二二)  
 涅槃會 (藝苑六ノ一六)

子フ  
 合歡花 ねふの木又(う)の木 (閑耕三ノ  
 九)(松筆六三ノ九)  
 根太 さいふ腫物の妙薬(白紳九ノ二二)

子ホ  
 寝ぼけ といふ詞(松筆九二ノ五六)

子ミ  
 寝耳に水 といふ事(松筆九三ノ三三)

子ム  
 眠り薬 (安隨二ノ二二)

子ヤ  
 寝様 臥寝の心得(雲錦四ノ二〇)  
 東枕(安隨一五ノ二四)  
 伏して寝るものは病む(橋本初ノ五ノ九)  
 根山 連れて行の歌なる(考)(鹽尻六ノ  
 三一)

子ヨ  
 ねよとの鐘 の解(年打下ノ五六)

子リ  
 練 といふ名(鹽尻三〇ノ二二)(松筆八七  
 ノ一八)  
 一歩(安隨一五ノ一七)  
 一歩通(早)あら(松筆九一ノ  
 二二)  
 片色(安隨九ノ二二、二〇ノ三三)  
 一の薄物(安隨一四ノ一八、二〇ノ五)  
 「キノ」細ヲモ見ヨ

子シ  
 練歩 (辯遊二六)(白紳五ノ二六)  
 練色 (安筆一八ノ四二)  
 練綆 の平緒(安隨一五ノ三八)  
 練偉 「チリ」織物ヲ見ヨ  
 練物 祭禮の(木字)(一話三ノ三八)  
 「サイ」祭禮ヲモ見ヨ

子ン  
 ねんがら といふ遊戯(鹽尻二一ノ五)  
 ねんね さいふ兒語(おひ下ノ一八)  
 ねんくころり (辯遊六ノ下ノ一)  
 念 の字を廿に代用する事(乘欄四ノ一)  
 (隨意七ノ一三)(葦樓下ノ二二)(如關  
 三四ノ八)  
 念佛の(の)字(鹽尻五〇ノ一六)  
 念者 (松筆六六ノ七二)  
 念人 (松筆九七ノ三四)  
 念佛 (松筆一四ノ一五、八〇ノ三七、八一  
 ノ二二)  
 の二義(消閑四〇)  
 の決定(往生)(鹽尻三八ノ二二)  
 の功德(鹽尻五ノ二二)  
 往生(鹽尻五ノ一七)  
 難に臨みて 稱咒の事(鹽尻三四ノ二  
 五)  
 に貴賤都部の別ある(からす(鹽尻  
 二二ノ二〇) 縁起抄(一話九ノ四三))



櫛 といふ名稱(圓珠六六)

●ノク 男女の中絶るを——といふ(幽遠上ノ五)

●ノケ 女の衣紋 (松筆九三ノ五二)

●ノコ 鋸 (ハノホキリ)なる事(燕石一ノ二三)鋸引 の刑(松筆一〇九ノ六二)鋸山 上總——(松筆五〇ノ三)風聲 (松筆八九ノ七四)拭た様に といふ詞(松筆九五ノ九三)残りの雪 の弁(難江二ノ八九)

●ノサ のさばる といふ詞(嬉遊九ノ二五)荷前 古一ノ二〇(橋巻二ノ一四)比「ハツ」初穂「サイ」賽銭ヲモ見ヨ

●ノシ のし 紫苑を——といふ(圓珠七)

●ノソ 慰斗 (閑散四ノ八)(如蘭二ノ二二)鮑 (松筆九三ノ七三)(四ノ四四)手 (孝經四ノ二)を賜ふといふ事(安隨一七ノ三五)慰斗地 (松筆一〇四ノ一〇)(橋巻初「子」練「オ」織物ヲモ見ヨ)野島地藏 の開帳(平日三ノ一五)(同一四ノ三)

●ノス 野摺 (安隨一四ノ一九)

●ノツ のそく といふ詞(松筆六一ノ一四)覗からくり (嬉遊六ノ上ノ四四)及子供狂言(我衣二四)荻戸太華 土雲傳(眼雲一ノ二七)

●ノタ 宜ふ といふ訓(安隨五ノ二六)篋ため形 (松筆三八ノ六)

●ノチ 後悔大將 のよみ方(難江二ノ六九)

●ノテ 野寺 (閑散一ノ二〇)武州の鐘(世事三四)の歌(茶筆四ノ一)

●ノト 咽喉 餅飯の——に詰たるを治す法、小兒の鐘を吞て——に詰たるを治す法(雲錦四ノ一八)に魚島の骨の立たるを抜く法(兼霞三ノ一二)(松筆七ノ三三)錢釘を過て吞たるを下す法(兼霞三ノ一五)

咽喉か乾く といふ諺(嬉遊九ノ四三)(遺魂上ノ一七)

咽喉もと過れば熱忘る (松筆九二ノ二)

能登國 (香梧二ノ六)

能登瀬川 の國考(閑耕一ノ三六)

●ノチ 野中兼山 の逸事(閑散一〇ノ二五)或人 の横死を豫言せし事(鹽尻一三ノ二)

●ノ、 のいさま (嬉遊六ノ下ノ二九)

罵る 善罵人者亦善被罵於人(松筆八一ノ四三)

野々宮定基 (中納言)の逸事(大海一〇ノ二)

●ノフ 納袈裟 (松筆九一ノ二二)野臥 (孝經三ノ二)は出家なる事(唐龍四四)

●ノホ のほり 「エタ」穢多ヲモ見ヨ能保野 伊勢の石文「ヤマ」日本武織の始(鹽尻七ノ八)給紙(嬉遊六ノ下ノ四一)

●ノリ 登戸 (松筆八三ノ八)

●ノマ 野間藤六 咄の上手——(嬉遊九ノ五)

●ノミ 而已 を「ミ」と訓む(松筆二ノ一)蚤とり眼 (嬉遊二ノ三)野見宿禰 論(如蘭三三ノ一五)呑乾す といふ語(松筆八〇ノ二六)

●ノム 野麥 (鹽尻三二ノ二)

●ノモ 野もせ (牛馬三五)野本安房 土佐——の治蹟(松筆一〇四ノ一七)野守 てふ蟲(折々夏ノ一七)

●ノラ のら猫 「子」猫ヲモ見ヨのらう さいふ字(南辨三二)

●ノリ 後言 (松筆九六ノ二二)後の春 さよめる歌(隣女一ノ二九)後ハ昔物語 解題(後昔一)野路篠原 地名考(閑耕一ノ一六)

●ノツ 野槌 林道春——を刊行せる事(長頭三)祝詞 (三ノ下ノ六)神に奉るものを——にさきやうに申す事(松筆四ノ二)天皇元服の時のこと(玉が七ノ二〇)即位後奉幣諸神——(玉が二ノ一)大板(北邊二ノ八)「サイ」祭祀ヲモ見ヨ

●ノテ 野寺 (閑耕一ノ二〇)の鐘(世事三四)

●ノト 咽喉 餅飯の——に詰たるを治す法、小兒の鐘を吞て——に詰たるを治す法(雲錦四ノ一八)に魚島の骨の立たるを抜く法(兼霞三ノ一二)(松筆七ノ三三)錢釘を過て吞たるを下す法(兼霞三ノ一五)

咽喉か乾く といふ諺(嬉遊九ノ四三)(遺魂上ノ一七)

海苔 淺草——(安隨九ノ二二)(嬉遊一〇ノ上ノ一七)(奇跡二二)(松筆九七ノ五四)十六島 (三養四ノ八)(松筆三八ノ七)糊 のよみ方(松筆六〇ノ一)糲 (橋巻初ノ五ノ四)乗尻 さいふ事(松筆六六ノ二四)法の舟 といふ佛語(松筆一八ノ一九)乗輿 (世談八七)(談正八七)(松筆一四ノ一六)(六三ノ四五)與、肩輿、網代輿、鹿取、徳輿(嬉遊二ノ下ノ九)の起り圖付(鹽尻四六ノ二二)歴取付あんだ(柳記上ノ一九)春日驗記にあるの圖(梅日四ノ一六)「カゴ」駕籠ヲモ見ヨ

●ノル 乘輿御免 御番衆——(松筆六二ノ三九)憲朝 掃部助——(松筆一三ノ八)

●ノレ のる 罵るを——といふ(南留五ノ二)

●ノレ 暖簾 (嬉遊一ノ二)帆(銀府五)の耳(嬉遊二ノ中ノ二〇)

●ノロ のろける さいふ俗語(雲錦四ノ七)

狼烟 (松葉一五ノ一) 小勢の時をあくる事(自秘四〇)

野呂間入形 「ニン」入形ヲ見ヨ

野分け (松葉八六ノ二四)

のんこ 陶工 (婦遊二下ノ二六)

の字 (白筆上ノ八、二二) (南留一ノ二)

歯 齒 (安隨一ノ三三) (安夜一ノ二)

老女生 (隨意一ノ二七) 花月三九  
小兒の按を佛堂へ納むる事 (梅日二ノ四)  
鬪を治する法 (兼石五ノ二) (理齋五ノ二六)

葉 「カシ」がしハ見ヨ

ばあ 小兒を愛するに (骨董下ノ後ノ一四)

馬鞍山 貞神蘇州神遊殿 (松葉一ノ四) 一を建築す

はいつら 伏見殿の文 (松葉一ノ四)

俳優 彼者の異名 (俗耳八) (松葉一ノ四)

河原者 (婦遊五ノ三三)  
荒原 (婦遊五ノ三三)  
芝居 (松葉一ノ四)  
女方の始 (松葉一ノ四)

のせりふの事 (一話四五ノ三八)

玉川 (松葉一ノ四) 足跡三ノ一

玉川 (松葉一ノ四) 足跡三ノ一

玉川 (松葉一ノ四) 足跡三ノ一

玉川 (松葉一ノ四) 足跡三ノ一

玉川 (松葉一ノ四) 足跡三ノ一

玉川 (松葉一ノ四) 足跡三ノ一

玉川 (松葉一ノ四) 足跡三ノ一

百韻の事 (幽遠下ノ一)  
切り字の例 (一話二五)  
切字の例 (一話二五)

高尾の發句 (一話四三ノ二)  
新吉原九郎助 (松葉一ノ四)

賣買 竹像同畫記 (松葉一ノ七)

狼烟 (松葉一五ノ一) 小勢の時をあくる事(自秘四〇)

野呂間入形 「ニン」入形ヲ見ヨ

野分け (松葉八六ノ二四)

のんこ 陶工 (婦遊二下ノ二六)

の字 (白筆上ノ八、二二) (南留一ノ二)

歯 齒 (安隨一ノ三三) (安夜一ノ二)

老女生 (隨意一ノ二七) 花月三九  
小兒の按を佛堂へ納むる事 (梅日二ノ四)  
鬪を治する法 (兼石五ノ二) (理齋五ノ二六)

葉 「カシ」がしハ見ヨ

ばあ 小兒を愛するに (骨董下ノ後ノ一四)

馬鞍山 貞神蘇州神遊殿 (松葉一ノ四) 一を建築す

はいつら 伏見殿の文 (松葉一ノ四)

俳優 彼者の異名 (俗耳八) (松葉一ノ四)

河原者 (婦遊五ノ三三)  
荒原 (婦遊五ノ三三)  
芝居 (松葉一ノ四)  
女方の始 (松葉一ノ四)

のせりふの事 (一話四五ノ三八)

玉川 (松葉一ノ四) 足跡三ノ一

玉川 (松葉一ノ四) 足跡三ノ一

玉川 (松葉一ノ四) 足跡三ノ一

玉川 (松葉一ノ四) 足跡三ノ一

玉川 (松葉一ノ四) 足跡三ノ一

玉川 (松葉一ノ四) 足跡三ノ一

玉川 (松葉一ノ四) 足跡三ノ一

百韻の事 (幽遠下ノ一)  
切り字の例 (一話二五)  
切字の例 (一話二五)

高尾の發句 (一話四三ノ二)  
新吉原九郎助 (松葉一ノ四)

賣買 竹像同畫記 (松葉一ノ七)



買春錢 (松筆五二ノ六)
倍日并行 (松筆六五ノ二)
陪臣 (松筆六五ノ二)
陪膳 (松筆六五ノ二)
拜賀 (松筆六五ノ二)
拜見 (松筆六五ノ二)
拜殿 (松筆六五ノ二)
拜禮 (松筆六五ノ二)
拜禮 (松筆六五ノ二)
拜禮 (松筆六五ノ二)

坊 (松筆二二ノ一)
坊主 (松筆二二ノ一)
坊主 (松筆二二ノ一)
坊主 (松筆二二ノ一)
坊主 (松筆二二ノ一)
坊主 (松筆二二ノ一)
坊主 (松筆二二ノ一)
坊主 (松筆二二ノ一)

望一 (松筆五三ノ七)
望遠鏡 (松筆八六ノ七)
望海每談 (松筆八六ノ七)
望夫石 (松筆八六ノ七)
望夫石 (松筆八六ノ七)
望夫石 (松筆八六ノ七)
望夫石 (松筆八六ノ七)

方齋 (松筆二〇ノ一)
方相 (松筆二〇ノ一)
方丈 (松筆二〇ノ一)
方便 (松筆二〇ノ一)
方便 (松筆二〇ノ一)
方便 (松筆二〇ノ一)
方便 (松筆二〇ノ一)
方便 (松筆二〇ノ一)

寶引 (松筆四ノ一)
寶物 (松筆四ノ一)
寶物 (松筆四ノ一)
寶物 (松筆四ノ一)
寶物 (松筆四ノ一)
寶物 (松筆四ノ一)
寶物 (松筆四ノ一)
寶物 (松筆四ノ一)

放生 (松筆九八ノ三)
放生 (松筆九八ノ三)
放生 (松筆九八ノ三)
放生 (松筆九八ノ三)
放生 (松筆九八ノ三)
放生 (松筆九八ノ三)
放生 (松筆九八ノ三)
放生 (松筆九八ノ三)

**薄木** (傍州三)(笑埃六ノ二)(松筆一七ノ六)  
**慧星** (松筆八六ノ五二)  
 見はる (平日二ノ二)  
 文化八年の (春波八四)  
**鮎魚** さいふもの (松筆一七ノ六七)  
**包極** を圓羅と仇名せし事(嬉遊附ノ一三)  
**卯花園漫筆** の事(一話三六ノ九)  
**卯酒** (梅日四ノ三八)  
**保元ノ亂** の亂末(羅江六ノ二)  
**保元物語** の作者(龜尻九ノ七)(安隨二ノ九)(一五ノ九)  
**保戸令** (安隨四ノ四六)  
**保長** (松筆一〇五ノ六一)  
**傍見** の説(花月三九)  
**傍示** (松筆九五ノ三四)  
**傍若無人** さいふ語(龜尻二ノ二七)(松筆八八ノ一五)(九二ノ二六)  
**傍輩笑敵** (松筆九三ノ二二)  
**茅柴** の説(サケ酒ヲ見ヨ)  
**疱瘡** 「トウ」痘瘡ヲ見ヨ  
**疱瘡婆** 七ツ漬の (奥波一六)  
**帽子** 中ほうし、綿、薄の糸、瀬川、角つくし、覆面、頬つぶり(嬉遊二ノ上ノ一九)

**遊二ノ上ノ一九** (我衣一四)(世談二六、二七)  
**薄之糸** 綿(世談二六、二七)  
**砲術** 古幕大筒稽古(續編七九)  
**砲臺** 文化五年(松筆一〇九ノ一四)  
**苞草** の字義(松筆一〇九ノ一三)  
**防人** (松筆八七ノ九)  
**野星** カスハル星といふ(嬉遊附ノ三)  
**祝園村** 山城相樂郡(世談八五)(談正二)  
**葉唄** 五條(一話一三ノ四三)  
**庵丁** (柳記上ノ三三)  
**庵丁汁** (嬉遊二ノ上ノ二二)  
**抱腹** 温湯を(松筆一〇六ノ五四)  
**抱腹** といふ語(如蘭二ノ六)  
**抱杵子** (松筆六二ノ五)  
**房老** (實苑三ノ二五)  
**亡慮** といふ語(隨意一ノ四五)  
**菘菘草** の名(松筆一〇六ノ五四)  
**砲録** 埴田(世談七三)(談正三七)

**ハエ**  
 日月の蝕を(比古二ノ一)  
 三不開の名あり(松筆一〇九ノ二五)  
**馬喬孫** 〇九ノ二五)  
**ハオ**  
**羽織** (安隨九ノ三一)(嬉遊二ノ上ノ五)  
 (春淡中ノ七)  
 道服(袴初ノ三ノ一六)(老牛中ノ三六)  
 は物具上の着物(松筆九三ノ八三)  
 と道服(世談二五)  
 草(松筆一〇六ノ二八)  
 草(松筆一〇六ノ二八)  
 草(松筆一〇六ノ二八)  
**ハカ**  
 はがくれにけり(松筆六六ノ二二)  
 はからい衆(松筆一〇五ノ七)  
 はかり 幾つ(安隨三ノ四六)

**は風** に二あり(圓珠四三)  
**芳賀氏** の姓(白神一〇ノ一九)  
**堀和氏** の姓(白神一〇ノ一九)  
**馬鹿** といふ俗語(隨意二ノ三六)(唐龍三ノ五)  
 を十九日といふ(奴風一〇)  
 「オロ」愚者ヲモ見ヨ  
**馬鹿の糟食** といふ諺(松筆七八ノ八四)  
**墓** 「フン」墳墓ヲ見ヨ  
**墨譜** 茶(松筆七二ノ三四)  
**博多** の古壘(一話一〇ノ三七)  
**齒固** 「モチ」餅ヲ見ヨ  
**袴** 一、さしおき、布、長、小(松筆二ノ五三)和(安隨一ノ一七)  
 大(安隨一四ノ二〇)(嬉遊二ノ上ノ二)  
 小(白筆下ノ八三)(南留五ノ五)  
 大(小口、前張、下、腰次(安隨一五ノ三六))  
 大(口、口、口、口(安隨二ノ七七))  
 大(口は薄にあらず(年々四ノ八))  
 小(口(安隨四ノ三二)(八ノ一八)(安夜四ノ二四))  
 小(口(安隨九ノ八)(二上ノ二二))  
 小(口(柳記下ノ五七))  
 招(國説(安隨一ノ八))  
 野(遊遊二ノ上ノ一)  
 紅(下女も着せり(安隨五ノ三三))  
 四(布(孝經三ノ七)(五樂一ノ一四))  
 廣(島屋(の仕立(殿小五))

**萩**  
 一の仕立欄左衛門たち(八水五)  
**袴着** (安隨四ノ五)(同九ノ四二)(松筆一〇五ノ四八)  
**若君様御** 御規式次第(平日一ノ七)  
**姫宮** (安隨六ノ二八)  
**袴引** といふ故實(松筆一〇二ノ三〇)  
 以一斤爲二斤(昆陽二ノ四)  
**京** (松筆九ノ三四)  
**ハキ**  
 はきにあげて(九)といふ詞(羅江一ノ八)  
**萩**  
 トはりの木(圓珠四五)  
 の花、一を多く植、寺(嬉遊二ノ四)  
 はきに二あり(圓珠四五)  
 芳宜説(如蘭八ノ二九)  
 方葉集に「萩とかけの説(隣女二ノ一)  
 一を隨軍茶といふ(白神八ノ三三)  
 山(翁草五ノ一)  
 山(翁草五ノ三九)  
 山城野の(翁草五ノ二一)  
 播磨國(脚鞠の禮(兼夜二ノ二))  
 の大木(玉(一三ノ二五))  
 多き寺と(の故事(博海下ノ二七))  
 ながるる詞(一話四ノ二八)  
 似入來るといふ詠める歌(龜尻四五ノ二八)

**萩寺** 本所の(一話四五ノ四)  
**萩のわたる** さいふ事(圓珠六〇)  
**萩花宴** 芳宜の宴(玉(三ノ三五))  
**萩原驛** 家光の(のうた(龜尻三ノ二八))  
**萩原宗固** の歌付略傳(備書一ノ一六)  
 の死去并歌(一話二ノ二二)  
**萩焼** といふ陶器(嬉遊二ノ下ノ二五)(世談七)桂林下ノ一)  
**芳宜園** といふ號(一話四ノ三五)  
**馬牛其風** の義解(隨意五ノ一六)  
**ハフ**  
**はくち汁** (嬉遊一〇ノ上ノ六)  
**刺** の字義(一話二ノ三一)  
**荏** といふもの(松筆一〇五ノ五三)  
**箔** 漆、紙(松筆六六ノ二五)  
**鏡** の字解(續昆八一)  
**帛衣** (安隨四ノ四八)(四ノ六)(松筆八九ノ五)  
**白幽子** 隠者(支同三ノ下ノ二)  
**白雲似帶圍山腰** といふ句の作者(靈橋下ノ一五)

白を浮ぶ さいふ義 (餘餘二ノ二八)  
 白眼居士 (一話二ノ一一)  
 白菱 の効能 (松筆五ノ二八)  
 白駒過隙 の出處 (松筆七ノ三三)  
 白山 の所屬 (鹽尻九ノ九)  
 加賀 越前の二村國郡變更に付取札書付 (一話三ノ三〇)  
 白山御殿 (瀬田二一)  
 白山神社 加賀國 迹 (鹽塚二七)  
 白紙 の義 (松筆四ノ四六)  
 白氏文集 の傳來 (玉か四ノ二〇)  
 白狀 さいふ詞 (松筆九ノ二〇)  
 白人 さいふ名 (燕石一ノ二六)  
 白水郎 「アム」體女ヲ見ヨ  
 白石英 と水品 (鹽尻三ノ八六)  
 白石小品 解題 (白小一)  
 白雪樓 鄂州 (一話二五ノ八)  
 白帥 黒帥といふ仇名 (安隨二ノ一三)  
 白痴 「クラ」殿前のおぼあヲ見ヨ  
 白柱 といふ盤湯調の曲名 (鹽塚四ノ二六)  
 白張 さ白丁 (南留一ノ八) (南辨四)  
 白丁 (松筆一〇九ノ五八、一一九ノ六)

白鳥 「カ」蚊ヲ見ヨ  
 白馬寺 (鹽尻一ノ二五)  
 白牌 (松筆九ノ二二)  
 白板天子 (松筆九ノ二八)  
 白貴賢 といふ號 (一話四ノ三五)  
 白麻紙 (松筆七六ノ二五)  
 白榆 は星なり (松筆八五ノ五二)  
 白樂天 の文章 (鹽尻一ノ二二)  
 劉禹錫唱和の事 (松筆四ノ一五)  
 白樂天 の詩 (支同三ノ下ノ六)  
 白鹿和尙 狀 (清閑一九)  
 博奕 の名稱 (隨意七ノ三五)  
 六 「カ」ボイテといふ (安隨一三ノ一七)  
 丁半 (居龍二二)  
 古くち (松筆九ノ八四)  
 實引 字體といふ (松筆一〇ノ二五)  
 樺の枝の數に賭を爲す (梅日一ノ一八)  
 碁手の錢、別分の錢 (柳記下ノ五六)  
 古の書 (春波四八)  
 の禁 (半日三ノ一七)  
 古よりの禁 (南留二ノ三三)  
 の宿せし者の處刑 (一話四ノ三四)  
 三枝猪之助屋敷内町入 (一件半日四ノ三)  
 に負けし者の奮戦 (白秘二)

博學 「カケ」賭事ヲモ見ヨ  
 博山 「カク」學者ヲ見ヨ  
 博物 多賀常政藏珍奇目録 (一話二ノ二九)  
 我國には元々異獸の棲みし證 (三卷四ノ二二)  
 鳥獸等長壽の俗説 (安隨一九ノ二四)  
 辨物 (技藝二ノ二二)  
 學心掛け (病間四七)  
 「カク」格物致知「サン」產物ヲモ見ヨ  
 博物典彙 といふ書 (松筆一七ノ三〇)  
 伯夷十辨 (一話一ノ二二)  
 伯夷叔齊 明善堂討論 論 (鬼小三三)  
 の姓名 (隨意五ノ七) (燕石六ノ三四)  
 伯顏 度梅嶺詩 (繼見七一)  
 伯秋 といふ事 (餘廂一五一)  
 麥斗菴 (後昔一九)  
 麥林 俳諧師乙山 (後一) (書翰の寫) (一話三八ノ五)  
 莫愁 といふ名 (一話二ノ三三)  
 拍手 「カシ」拍手ヲ見ヨ  
 拍脚 の字義 (惡樓上ノ六)  
 幕朝故事談 解題 (幕故二)  
 羽倉氏 在滿 御風、若生子の墓碑の話 (泊々六)

系圖 (一話五ノ四四)  
 羽倉在滿 の眞蹟 (餘廂八三)  
 羽倉用九 の逸事 (如蘭一ノ一七)  
 馬喰 といふ名稱 (鹽尻二ノ八)  
 馬喰 一の本字伯樂 (南辨二) (居龍一)  
 馬喰町 の景況 (都手一一)  
 齒黒め 「カ」子鏡齋付ヲ見ヨ  
 破瓜 の義 (橋遊二ノ四ノ八) (關散下ノ二七)  
 ●ハダ  
 馬經 半經の事 (一話三三ノ三七)  
 化物 「エウ」妖怪「クラ」怪異「イウ」幽靈等ヲ見ヨ  
 化物遊 (嬉遊六ノ下ノ四)  
 化物繪 「エ」繪齋ヲ見ヨ  
 ●ハニ  
 はこ 尿まるな一するとといふ (玉か二ノ七)  
 はこ鳥 (松筆一四ノ七)  
 はごにかゝれる鳥 といふ事 (松筆九ノ二二)  
 羽子 こきの子のいはけ (白紳一〇ノ一)  
 六ノ下ノ一五) (嬉遊)

羽子板 胡鬼の子、胡鬼板 (骨董下後ノ三〇)  
 羽子板 圖説 (骨董下前ノ六、八)  
 高尾梅澤村の圖 (奇跡三七)  
 信濃國梅澤村の圖 (骨董下後ノ三四)  
 羽子を負ふ さいふ詞 (松筆一〇ノ五)  
 羽衣 天の (安隨一四ノ七)  
 箱 天の四名 (一話二ノ一〇)  
 十二ノ手、亂箱、旅手、肩作りに入るもの (安隨二ノ七)  
 箱と一と文字の違 (餘廂四八)  
 「ワチ」打箱箱ヲモ見ヨ  
 箱入娘 (幽遠下ノ七) (世事一二四)  
 箱島 さいふもの (幽遠下ノ一三)  
 箱根草 (世談六〇)  
 箱根權現 の開帳及其寶物 (一話一六ノ二二)  
 箱根湖 の測量 (一話二九ノ四一)  
 箱根寺 の事 (一話二九ノ四〇)  
 箱根山 の遺字 (燕石一ノ二五)  
 古 箱根山といひし事 (玉か二三ノ三五)  
 足柄路を廢して箱根路を開く (鹽尻三ノ六)  
 駿馬の蹄あと井東福寺の釜 (曲漫上ノ八)  
 十姉妹 (鹽尻五四ノ四)

●ハサ  
 ばさら 賴政の (一) (理齋二ノ八)  
 ばさら繪 (嬉遊三ノ七) (松筆九ノ八)  
 「エ」繪齋ヲモ見ヨ  
 ばさら風 「フツ」風俗ヲ見ヨ  
 バサル歌 圖説 (孝堂上ノ二九)  
 匣 の説 (秋齋一ノ六)  
 挾詞 一字はさみの言詞 (嬉遊九ノ四三)  
 「コウ」國語ヲモ見ヨ  
 挾竹 (嬉遊二ノ下ノ一一)  
 (嬉遊二ノ下ノ一一) (世談七八) (談正五六) (松筆七ノ四) (孝經四ノ三二)  
 は信長時代に無し (安隨一ノ二二)  
 挾物 三々九の手挾 (松筆九ノ八)  
 挾切形 (嬉遊六ノ下ノ三八)  
 馬站 の義 (嬉遊附ノ六)  
 ●ハシ  
 はじかみ魚 (松筆六四ノ二九)  
 はしたなぎ さいふ詞 (安隨三ノ五七)  
 (松筆九五ノ四七、九八)  
 はしたもの (松筆三ノ一九)  
 はしばみ 端食を (一) (安隨

**はしりかね** といふもの(おろ下ノ八)  
 (安随七ノ六) 安夜二ノ三  
 逆鱗の一字(鹽尻四ノ七ノ四)  
 竹の子(秋登二ノ四)  
**箸** ありかみみの兄弟 (幽遠下ノ七)  
 箸塚 大和の(閑耕一ノ二八)  
**橋** 古書に椅子をさむ事(如蘭三四ノ九)  
 二一、二木、三枚(松筆七八ノ八九)  
 殺活(昆陽七)  
 義母子(安随一七ノ二二)  
 義母子の訓(理齋五ノ一五)  
 諸國有名の(鹽尻五ノ一四)  
 江戸の四大(傍廂一ノ五)  
 飛騨の藤(松筆一六ノ二六)  
 郭汾陽の奇事(松筆一〇ノ二二)  
 アツ、吾妻「ユ」永代「カ」カモ鴨川「ホ」大橋「ワ」宇治、「カ」カモ鴨川「ホ」大カ酒「フ」フサ「三」長柄「シ」山崎「チ」モ見ヨ

**櫃** さいふ字(安随一〇ノ一八)  
 さいふ櫃(二上七四)  
**黄檗染** (自筆上ノ五二) (安随一五ノ二) 一フク「服色」モ見ヨ  
**馬資** の義解(二話三ノ四四)  
**馬射集覽** の題辭(二話四ノ九)  
**馬術** 義談、の名人(婦遊四ノ五)  
 馬の事(二話二ノ三三) 松筆二  
 馬の事(二話二ノ三五) 松筆一  
 馬の事(二話二ノ三五) 松筆一  
 馬の事(二話二ノ三五) 松筆一  
 馬の事(二話二ノ三五) 松筆一  
 馬の事(二話二ノ三五) 松筆一  
 馬の事(二話二ノ三五) 松筆一

**麻疹** 赤班病(安随一八ノ二八) 隨意五ノ四一  
 おかみがき(玉か四ノ三)  
 享保三年流行(年々四ノ二)  
 享和三年同上(隨意三ノ四一)  
**蕪** 「シヤ」生姜ヲ見ヨ  
**艇** はしり又もろたふれ(國珠三二)  
**船** (難江三ノ五八) 松筆七四ノ三〇  
**羽柴氏** の起り(松筆九三ノ一〇、一〇四)  
**派刺** の法(續昆九七)  
**破傷風** の妙藥(兼霞三ノ二二)  
**柱** 人の家居の床に皮つきを用ふる事(閑耕上ノ一〇)  
 榑(麻一) 松筆一六  
 榑(麻一) 松筆一六  
 榑(麻一) 松筆一六  
**柱飾** (松筆八三ノ一四)  
**走り馬に鞭** といふ譬(一話一ノ三七)

**蓮** かわちささいふ(幽遠下ノ四)  
 蓮花を蓮といふ(提燈五ノ二二)  
 一葉二花の(我衣二六)  
 井頭一名千葉(婦遊二ノ四〇) 輜天(二二)  
 天竺の質(兼霞五ノ二二)  
 荷葉鏡(松筆一五ノ二二)  
 繭絲の織物(柳日五ノ二四)  
 「レン」蓮花ヲモ見ヨ  
**蓮花** 蓮花ヲモ見ヨ  
**蓮衣** といふ詞(婦遊九ノ三二)  
 蓮葉の(世事六)  
**蓮葉筒** といふ事(我衣六二)  
**蓮葉のはひ** といふ物(玉か四ノ二二)  
**榛** 「スリ」摺衣ヲ見ヨ  
**ハセ**  
**長谷** ハツセをハセといふ(玉か四ノ二二)  
**長谷寺** に淨阿上人の像ある因縁(鹽尻天慶七年相州の焼失(鹽尻一五ノ二〇))  
**泊瀬寺** (北邊二ノ三二)  
**泊瀬觀音** の戸帳(婦遊二ノ三三)  
**泊瀬** の石の水船(權書一ノ二四)  
**新瀬** 於泊瀬(御厨三三)  
**破前** 「イン」陰莖ヲモ見ヨ  
**穢** の異名種々(藝苑九ノ一九)  
 との花(遊遊六ノ下ノ四三)

**錨** (柳系四)  
**馬騰** さいふ職業(兼樓下ノ二五)  
**波宿** 檀耶の義(眠雲二ノ一九)  
**芭蕉** の花圖説(鹽尻三ノ三八)  
 を庭草とし事(鹽尻三ノ四)  
 雪中にの繁茂せし事(鹽尻三ノ一)  
 懷素と(餘餘二ノ一)  
**芭蕉** 松尾桃青小傳(百花説林卷三奥の細道ノ首)  
 翁の事(一話二ノ三三) (長春上ノ三七)  
**芭蕉** の位牌と肖像(宮川三ノ二〇)  
**芭蕉** の肖像(老樂八)  
**芭蕉** の書翰(一話四ノ二六)  
**芭蕉** (入幕の戲立及芭蕉の藝文(一話四ノ二九))  
**芭蕉** 父祖と桃青の遠忌(橋樑初ノ三ノ四)  
**芭蕉** (一話五ノ二一)  
**ハタ**  
**はた** (將) といふ詞(安随五ノ三六)  
**はたか文** 「シヨ」再狀ヲ見ヨ  
**はた** さいふ詞付東爾雅の事(自筆下ノ四三)  
**はたの鳥** 又「ハタ」といふ(年々四ノ二六) (難未八ノ一七)

**ばた** さいふ異物(兼筆一ノ三)  
**はたもの** 「ハリ」襪ヲ見ヨ  
**はたれ** 「ユキ」雪ヲ見ヨ  
**波庇** (兼筆三ノ一六)  
**波多兵衛** の頓智敗兵を止む(自秘四五)  
**波多横山** 地名考(暗語上ノ二五)  
**畑** さいふ字(安埃三ノ三二)  
**畑の上木** (松筆九五ノ二二)  
**畑銀鶏** の事(世事三七)  
**畠** さいふ字(閑耕一ノ一〇)  
 は白田の二字なり(幽遠下ノ三)  
 おりそのの寓所にも「なつくるべし」(靨下ノ三四)  
**畠** 「タハ」田畠ヲモ見ヨ  
**畠水練** さいふ詞(松筆五ノ二二、二六ノ二二)  
**畠生** といふ詞(老牛中ノ二一)  
**畠山重忠** の評(馳騁智ノ三〇)  
**畠山道誓** の上落(鹽尻六ノ二七)  
**畠山頼母** 「トウ」銅鉢先生ヲ見ヨ  
**畠山義勝** といふ人(説小一ノ二五)  
**秦** を「ハタ」といふ事(兼樓下ノ二二)  
**秦氏** の姓(藝苑一ノ一五)  
**秦星池** 天民の宅に小集の珍事(一話四ノ五ノ四四)



はつうせ といふ上穂の異俗(居龍五八)  
 はづかし 「やまし」「かたづけ」の俗(遊八ノ八)「鷺尻」三六ノ二七  
 はつき 「泊木カ」(安隨三ノ三八)  
 はづす といふ假字(松筆九ノ九五)  
 ばつたくさ といふ詞(松筆一〇〇ノ五)  
 ばつち 「鷺」股引ヲモ見ヨ  
 はつち坊主 報謝米といふ事(俗耳一)  
 はつろく といふ語(幽遠上ノ八)  
 はづみ といふ詞(松筆七ノ一八)  
 發射 射一の磯(隨意六ノ三三)  
 發縣門不 字讀方(談小ノ一四五)  
 發狂 狂を發す(松反上ノ二二)  
 八音 青山長谷寺の亂心者(半日一五ノ二)  
 八音 (二話一五ノ三四)  
 八講會 (若指五ノ五)  
 八景 (遊遊七ノ六)(玉ッ一ノ二三)(松筆一〇五ノ二六)  
 八の遊 遊遊一ノ上ノ三六  
 八の詩 遊(松筆一〇九ノ二二)  
 八の圖及詩 (松筆一〇九ノ二二)  
 八股 近江「ナン」南都「チモ見ヨ」  
 八草 文集(二話二四ノ一)  
 八朔 (安隨二ノ二七)(松筆九ノ二一〇)  
 八朔 (孝經一ノ一一)(遊苑七ノ一三)世談一三三

粗の名(南畝上ノ一)  
 粗の祝(安隨七ノ七)(自神一〇ノ八)  
 粗の賀(遊八ノ八)(鷺尻三六ノ二七)  
 粗の禮(鷺尻一ノ三)  
 粗の白小袖(世事三ノ一七)  
 粗の進馬の毛色の事(内安二三)  
 粗の大坂の橋(浪花九)  
 八水隨筆 解題(八水一)  
 八足 といふもの(松筆二一五ノ四九)  
 八多氏 (安隨四ノ二五)  
 八珍 (鷺尻二ノ二〇)  
 八徳 といふ衣(孝經三ノ三二)(玉襟一三〇)  
 八徳 といふ函(桂林下ノ二二)  
 八百尾 若狭「比呂尾」(遊四ノ二二)  
 八百尾 八百比呂尾(安随五ノ一〇)  
 八百八後家 (松筆六七ノ一四)  
 初卯 (松筆九ノ二九)  
 初午 (孝經中ノ二二)  
 初午 二月「一」の名(鷺尻三三ノ一一)  
 初午 祭(遊八ノ九)  
 初午 祭(遊八ノ九)  
 初午 祭(遊八ノ九)  
 初午 祭(遊八ノ九)  
 初午 祭(遊八ノ九)  
 初午 祭(遊八ノ九)  
 初午 祭(遊八ノ九)  
 初午 祭(遊八ノ九)  
 初午 祭(遊八ノ九)  
 初午 祭(遊八ノ九)

初瀬山 尾州にて「アオハチ」といふ(鷺尻三一ノ一)  
 初荷 大阪の橋(浪花七)  
 初花 茶入「チヤ」茶器ヲ見ヨ  
 初穂 (安隨四ノ一五)九ノ三三、一九ノ五  
 初穂 (三)「鷺尻一ノ三」(遊遊七ノ三六)  
 初穂 (六)「松筆九ノ一五六」といふ(松筆四ノ六)  
 初穂 「サイ」賽銭「サ」荷前ヲモ見ヨ  
 初物 「付」走リ(遊遊二ノ上ノ一八)  
 初百合 の説(橋本初ノ二九)  
 二十日草 「ホタ」牡丹ヲ見ヨ  
 末下ノ鹽鼓 の字義(餘三ノ五)  
 襪 といふもの(餘餘一ノ一四)  
 泊木 (掩書二ノ五)  
 長谷寺 「サカ」酒宴ヲ見ヨ  
 草益 の説(鷺尻三三ノ一八)  
 服部蘇門 「天遊」の小傳(溫知養書第六編赤保々解題ノ内)  
 服部高保 非遺要抄及辭世の歌の話(泊々三〇)  
 服部仲英 詩(閑散下ノ四三)  
 服部南郭 の小傳(閑散下ノ一七)  
 服部南郭 の祖先と掃屋會(二話二)

ハナテ  
 はて といふ古語(安隨六ノ二七)  
 はてし といふ體語(俗耳二)  
 はてにかりほす 夢の礎(掩書二ノ五)  
 破天連 頗姪連(松筆七九ノ四四)  
 ハト  
 鳩 鳩の種類、鳩の鳴聲(遊遊二ノ二)  
 字音にて通用するもの名(柳菴二ノ一七)  
 張九齡の飛奴(隨意四ノ二八)

ハナ  
 はなだ草 (遊江四ノ四四)  
 はなたけ病 (玉ッ八ノ二四)  
 はな吹秋 の義(梅日二ノ三)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)

ハナ  
 はなだ草 (遊江四ノ四四)  
 はなたけ病 (玉ッ八ノ二四)  
 はな吹秋 の義(梅日二ノ三)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)

ハナテ  
 はて といふ古語(安隨六ノ二七)  
 はてし といふ體語(俗耳二)  
 はてにかりほす 夢の礎(掩書二ノ五)  
 破天連 頗姪連(松筆七九ノ四四)  
 ハト  
 鳩 鳩の種類、鳩の鳴聲(遊遊二ノ二)  
 字音にて通用するもの名(柳菴二ノ一七)  
 張九齡の飛奴(隨意四ノ二八)

ハナ  
 はなだ草 (遊江四ノ四四)  
 はなたけ病 (玉ッ八ノ二四)  
 はな吹秋 の義(梅日二ノ三)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)

ハナ  
 はなだ草 (遊江四ノ四四)  
 はなたけ病 (玉ッ八ノ二四)  
 はな吹秋 の義(梅日二ノ三)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)  
 花 華の字(如蘭六ノ二五)

花瓶 車僧の——(雲錦一ノ一六)  
 花入 丸山筒——(奇跡三一)  
 花賣 馬膝(襦袢下ノ二五)  
 花をそふ 古今集序の——(松筆七ノ一〇)  
 花岡 遊女——(宮川一ノ六)  
 花勝見 (安隨八ノ七、三一)(安夜四ノ四、五ノ一)(順風二ノ四)  
 五月の唐蒲茸(閑歌四ノ一八)  
 「タン」端午チモ見ヨ  
 花木外記 の略(怨道一六)  
 花咲翁 (燕石四ノ三五)(嬉遊九ノ五〇)  
 花さくら 二二あり(圓珠四五)  
 花米 (松筆八ノ六五、九三、七四)  
 花園 といひし處(玉か四ノ二七)  
 (鹽尻三ノ一七)  
 花ぞめ 二二あり(圓珠四四)  
 花摘法師 (松筆一〇ノ五五)  
 花の宴 (嬉遊五ノ二)(玉か三ノ三五)  
 花の雲 といふ詞(松筆九ノ三三)  
 花の下 「レン」連歌チ見ヨ  
 花の塔 (嬉遊三ノ四)(孝經四ノ八)  
 尾州花の頭(鹽尻二ノ六)  
 花ノ御堂 (松筆七ノ一三)

花ひら餅 吉野の——(嬉遊一〇ノ上ノ三六)  
 花房町 神田の町名御免(一話四〇ノ四二)  
 花祭 (孝經四ノ九)  
 花饅頭 (世談三八)  
 花見 山、向島の——(嬉遊七ノ三)  
 花後(一話一六、四)  
 花時遍遊(一話一九、二〇)  
 上野の——(奇跡一三)  
 基打の——(一話二二、三三)  
 百首百杯(櫻の感(年々ノ二九))  
 嵐山の櫻を見る記(年々ノ一)  
 某市人の娘(雲錦三ノ四)  
 「ムカ」向島「アス」飛鳥山チモ見ヨ  
 花水川 相模——(松筆三ノ三)  
 花結び (嬉遊三ノ五)  
 花紫 四扇屋遊女——(遊京下ノ四八)  
 花やてうや といふ詞(幽遊上ノ二)  
 花嫁 「ヨメ」嫁チ見ヨ  
 花より園子 (松筆一〇ノ二)  
 鼻 (といふ名(燕石一ノ三))  
 鼻 自稱同(隨意一ノ三)  
 鼻 利於一者の語(餘餘四ノ二)  
 鼻緒 (といふ語(談小二ノ三五))  
 下踏の——(草及種類(我衣一〇))

亭和頭の下駄草履の——(寛天三)  
 「ケタ」下踏チモ見ヨ  
 鼻を突く といふ詞(松筆一七ノ七二)  
 鼻缺猿 の比喩(松筆九八ノ五二、九五ノ四〇)  
 鼻紙 付鼻紙、紙入、袋、はせせ、唇にて——(おろ下ノ一六)  
 (嬉遊二ノ中ノ二二)  
 鼻紙袋 (世談二八)(嬉遊二ノ中ノ二二)  
 さんぷりといふ(蜘蛛一六)  
 寶曆頭の——(沼沼掛(賤小三八))  
 「サイ」財布チモ見ヨ  
 鼻藏 (といふ仇名(玉か二ノ二))  
 鼻血 を止める法(雲錦四ノ一九)  
 (松筆一〇四ノ二)  
 鼻頭 (北遊二ノ四二)  
 相撲の——(松筆九ノ九〇、九〇)  
 花をやる紙ばなは色々(嬉遊九ノ七)  
 といふ字(安隨一〇ノ三)(玉か八ノ三)  
 (一話二五五)  
 嘲 落語に名あるもの(嬉遊九ノ五〇)  
 落語の四種(嬉遊九ノ五二)  
 笑話と笑林(嬉遊九ノ五)  
 昔話色々(嬉遊九ノ九)  
 祖父祖母の物語(嬉遊九ノ四八)(骨董中百物語(遺物(嬉遊九ノ四八))  
 「オト」落語「ッ」辻話チモ見ヨ  
 談話 「タン」談話チ見ヨ

盧橋 「タチ」橋チ見ヨ  
 放出 (安隨七ノ一、一九ノ六二)(嬉遊二ノ上ノ一七)  
 放中子 「カム」冠チ見ヨ  
 放状 の解(安隨一〇ノ三三)(二上九二)  
 瑠 といふ氏(松筆六〇ノ二二)  
 瑠保已 小隊(一話二ノ三八)(三養三ノ事(比古九ノ二三))  
 の撰(隨意一ノ二五) 群書類從  
 兼好(笑(内安一五))  
 歌(擁書一ノ一六)  
 烟花 (松筆八ノ三三)  
 花火、大花火、の十二挑灯、のるし仕掛(嬉遊一ノ下ノ七)  
 鴨田川の(紫紗一九)  
 紀州上野の(半日二ノ二五)  
 大坂の(花火(浪花三五))  
 唐土の(松筆一七ノ六八)  
 上野(松筆六二ノ三八)  
 嘸呷 俳諧の跋(橋巻二ノ四二)  
 俳諧の傳(奇跡一三)(長春上ノ二)  
 英一蝶 小傳(奇跡一三)(半日四ノ三〇)  
 系譜(一話一六ノ三八)  
 の墓(一話五ノ三七)  
 の流罪(瀬川二八)  
 長湖百人女流を論じて罪を得(江著九九)  
 の晩年(假世五)  
 の語(老樂)

英草紙 の作者(一話四〇ノ三三)  
 餞 (をワマノナメケといふ(閑歌三ノ一)(安隨三ノ四六))  
 ハニ へにかむ といふ詞(嬉遊六ノ下ノ九)  
 半挿 さいふもの(御厨一)  
 馬入 さいふ地名(松筆四〇ノ一)  
 土馬 「ウマ」馬チ見ヨ  
 ハヌ 業(嬉遊二ノ中ノ三二)  
 羽 鳥羽を羽根といふ(一話八ノ三七)  
 羽の製造(茶筆四ノ二六)  
 くさび(安隨一ノ二四)  
 あまのなもとの羽(安隨二ノ三五、二〇ノ三三)  
 ほうち(安隨六ノ二六)  
 ひうち(安隨二ノ二五)

みよりー(橋巻二ノ三ノ九)  
 羽子 「ハコ」羽子チ見ヨ  
 羽川珍重 浮世繪師 傳(燕石五ノ二二)(燕籠前下ノ四五)  
 唐棧花色 「フク」服色チモ見ヨ  
 判門田 上杉家雜掌——(松筆一〇五ノ四)  
 ハ、 へばかる といふ詞(松筆二ノ一)  
 へばり、又いふは(圓珠二七)  
 へばり、又いふは(圓珠六七)  
 お袋(松筆三ノ九)(玉か八ノ四〇)  
 九(鹽尻九ノ三)  
 實(鹽尻五ノ四)  
 離別(世代(松筆九ノ一))  
 父を殺せる織(殺せるもの、獄(鹽尻二ノ二))  
 「アガ」父母「オ」お袋「オモ」おま、  
 「ア」チモ見ヨ  
 母子草 (圓珠五九)(孝經一ノ二)  
 又鼠麴草(雲錦四ノ二〇)  
 母子餅 (松筆五ノ一〇)  
 馬場 右兵衛——(玉か三ノ二一)  
 馬場三郎兵衛 火蓋の奇談 (閑歌二ノ一)  
 馬場信武 軍談家——(一話三六ノ三七)

馬場先門 の新橋架設(一話四八ノ三八)  
 馬方百首 の歌の作者(安隨一五ノ二三)  
 鹿市 (三) (安隨一八ノ四〇、二〇ノ二)  
 大第 (安隨三ノ二七)  
 脛十金 より太刀折る、といふ事 (白紳  
 九ノ九)  
 柞 (圓珠二八)  
 柞の森 (松筆一ノ四四)  
 婆店 店温(松筆九七ノ三六)

はふこ 「アヤ」天兒ヲ見ヨ  
 はふに 「オシ」百粉ヲ見ヨ  
 はふれ といふ詞(安隨一九ノ四二)  
 はふる といふ詞(安隨九ノ三一)(二上  
 四三)  
 ばふんせき 「サク」餅答ヲ見ヨ  
 法 ば簡なるを向ふ(松筆四〇)  
 は江河の如し(松筆九ノ一一)  
 の輕重(松筆上ノ一五)  
 「ハフ」法律ヲ見ヨ  
 法印 何卿、法眼なといふ事(白紳一  
 〇ノ三〇)  
 法眼、法橋(安隨二〇ノ四〇)  
 法を翳く といふ事(松筆八四ノ三)  
 法恩寺 の山緒及其末寺(望海四一)  
 法界客氣 といふ事(松筆六六ノ七一)  
 法號 授記(松筆九八ノ四三)  
 法興 といふ年號(一話三ノ一五)  
 法橋 の位(隨尼三三ノ一〇)  
 法師 涙、かゝ(川捨中ノ九)(同  
 下ノ二九)  
 の笛をふく事(玉か六ノ三五)  
 「ソウ」僧ヲ見ヨ  
 法師還り 「ケン」還俗ヲ見ヨ  
 法師だてら といふ詞(玉か八ノ四五)  
 法師武者 の首とりし時の心得(白紳二  
 九)  
 法事 「フツ」佛事ヲ見ヨ

法勝寺 の古瓦の記(一話二七ノ一六)  
 法性寺 京都の廢滅(孝經四ノ三  
 五)(隨尼三八ノ四)  
 法性寺關白御集 抄録(一話九ノ二四)  
 法親王 (隨尼一八ノ六)  
 入道親王(玉か四ノ二二)  
 のはげめ(松筆九三ノ四四)  
 (松筆九三ノ四四)(理齊六  
 一三)  
 法身法界 (松筆八四ノ二二)  
 法鉢裝束 「シヤ」裝束ヲ見ヨ  
 法住寺 の池、新熊野社(閑耕一ノ四七)  
 法帖 墨本の始(松筆七八ノ三二)  
 法忍 僧—及大字の名號(我衣二二四)  
 法然上人 (筆上ノ一五)  
 大師號勅許の始末  
 (長卷下ノ一九)  
 を通明國師といふ(隨尼五三ノ  
 一六)  
 の教旨(筆上ノ二〇)  
 法服 「ソウ」僧服ヲ見ヨ  
 法味、法食 (松筆八四ノ八)  
 法名 の種類、戒名と道名(隨尼五二ノ一  
 二)

院號(安隨六ノ一四)(孝經四ノ一一)(同  
 四ノ三四)(難江一ノ五七)(年々三ノ  
 九)(聖塚七)(松筆八八ノ三三)  
 貞丈遺言辭院號(安隨五ノ二二)  
 に官位を添ふる時の例(隨尼五二ノ  
 一一)  
 に前法橋さく事(孝經三ノ四)  
 祖傳(金谷、春臺、白石、南郭、貞淵の法號  
 平日四ノ二六)  
 「イン」院號ヲ見ヨ  
 法務僧正 の銘(松筆二ノ二三)  
 法樂 といふ語(松筆六八ノ五〇、八〇ノ  
 三七)  
 法隆寺 (東屋下ノ四)  
 建築時代考(如蘭二九ノ  
 一)  
 の寶物阿闍陀如來と聖德太子と贈  
 答の書翰(閑次二ノ五一)  
 釋迦像の記文、同樂師像の記文(權  
 書一ノ二一)  
 中院護摩堂觀音像坐像銘、黄金佛  
 四十八林中の釋迦佛の背銘(松筆八九  
 ノ四七、四八)  
 法律 古法不可妄變(松筆七ノ四〇)  
 今條書新古の差異(若橋五ノ下ノ二  
 六)  
 の御批(如蘭一ノ二四)  
 漢時の秦法(護小四ノ一五)  
 我國に律なき事(多波中ノ三)  
 本朝に律なき事(多波中ノ三)  
 延寶八年の條例(一話一ノ九)  
 本多作左の制札の三條(提解三ノ一〇)  
 「ハフ」法律ヲ見ヨ  
 法令綿 「ソウ」綿ヲ見ヨ  
 法論味贈 (松筆七ノ二二)  
 法衣武者(理齊五

ハフ  
 院號(一ノ一九)  
 「ミン」味贈ヲ見ヨ  
 法皇 院の御所(理齊五ノ九)  
 法王塚 (南留二ノ二三)  
 破風 (松筆七三ノ一〇)  
 飯匙蟲 琉球の—(安隨七ノ二八)(閑  
 耕三ノ一八)  
 罷物所 (松筆二ノ一四)  
 祝園森 (松筆一ノ四四)  
 祝部 といふ名義(答問六)  
 漁獵の貢を—家へ納むる事(隨尼  
 三ノ一四)  
 祝部成仲 か九十の賀(玉か四ノ三六)  
 羽二重 (如蘭一ノ二二)  
 馬文耕 の不憚(嬉遊附ノ九)  
 ハハ  
 侍る といふ詞(玉か四ノ一三)  
 ハホ  
 破墨 といふ事(難未四ノ一〇)  
 ハマ  
 はまくりはたおひめ といふ物語  
 (一話二五)

濱萩 をよめる歌(隨尼一八ノ一一)  
 濱表七本鎗 「シテ」七本鎗ヲ見ヨ  
 濱御殿 某御室—にての御詠(一話  
 二五ノ一〇)  
 濱田彌兵衛 臺灣にての働き(一話一ノ  
 二)  
 濱つらら 「スル」駿河の海ヲ見ヨ  
 濱床 「シト」テ見ヨ  
 濱なげ (瓦礫一ノ一〇)  
 濱名海 (爰埃八ノ二)  
 濱名橋 (玉か七ノ二八)(同三ノ四七)  
 濱邊黒人 木網黒人兩人の評(叔風二五)  
 濱松 —の古名引馬(隨尼一〇ノ二五)  
 遠州—廣く様々といふ事(松筆一  
 一ノ四六)  
 濱松城 (松筆一〇六ノ一九)  
 濱藻 をナノリソモといふ(圓珠三二)  
 濱焼 といふ料理(居龍八)  
 濱木綿 (玉か二ノ二八)(筆上ノ二  
 四)  
 紀州熊野の—(爰埃八ノ一〇)  
 蛤 —といふ名(燕石一ノ二九)  
 益南呼蝦蟇爲—(隨尼三ノ三九)



破摩弓

(安隨二〇ノ三〇) (鹽尻一七ノ一)

ハミ

うはみくちはみ等の事(南留三ノ九)

齒磨

(都手六)

ハム

羽蟲 鶏の—を除く法(燕石五ノ五)

葉室頼龍 の兄弟容貌極めて相背たる事(大海七)

ハメ

反鼻 の刺たる治法(雲錦四ノ一八)

ハモ

鱧 大阪の—料理(浪花二)

刃物商 の元祖(我衣五八)

ハヤ

葉守神 (北邊二ノ三五) (松筆七ノ一)

はやす もてはやす等の事(安隨一三ノ三九)

はやたづ 川を—といふ(圓珠四)

はやる さいふ詞(玉か八ノ三七)

早起 最の商人(嬉遊二ノ一八)

早川 (玉か八ノ二四)

早言 (嬉遊一〇ノ上ノ二六)

早出 といふ俗語(松筆一五ノ三五)

早業 鶴見某の—(白紳一ノ九)

林 樹との別(鹽尻五〇ノ一六)

林氏 の家名(二話一ノ三六)

林鶯 の精力(談小三ノ三九)

林子平 の評(隨意一ノ二二)

林述齋 「衡」が歳旦の詩(二話三九ノ四)

林春齋 「怨」の院號(一話二ノ一三)

林春常 か甲子元旦詩(一話一ノ九)

林信術 大學頭を林術とかく事(松筆六〇ノ二八)

林羅山 (鹽尻五ノ三五) (同四ノ六)

林 林家の學風(傍廂九五)

林 遺春の諺言(牛馬三六)

林崎文庫 「イセ」伊勢神宮ヲ見ヨ

端山 麓を—さいふ(圓珠三〇)

速見甲斐守 大阪の—の子孫

流行詞 明和六年の—(半日二ノ五)

馬融 之學(隨意二ノ三二)

ハラ

はら 奴(男)殿等の事(松筆五ノ三)

はらから 「ケイ」兄弟ヲ見ヨ

はら士 (四方花ノ二二)

はらふと といふ魚の事(白紳三ノ一〇)

腹 氏族を—といふ事(玉か二ノ四)

腹赤 鱧の論(秋齋二ノ二五)

腹帯 (雜江一ノ四八) (安隨四ノ四三)

腹白 腹黒といふ語(安隨九ノ二五)

腹巻 の背板(安隨二ノ一六)

棘 刺ある草木を—といふ(理齋五ノ一六)

薔薇 の花を以て悪臭を避く(鏡屏三五)

原十兵衛 主君の爲に陣場を争ふ(白秘三二)

原虎胤 (鹽尻四八ノ二〇)

原武太夫 (盛和)小傳(温知叢書第八編)

原昌盛 眞田家臣 傳(長春下ノ二)

原田有衛門 尾州臣(鹽尻一五ノ二)

後 除ハ日本木の律(鹽尻三七ノ三四)

原 犯科(鹽尻三四ノ二八)

原 除ハ紙人形を用ふる事(鹽尻五三ノ二)

原 荒帯(松筆一〇六ノ三一)

原 陰陽師(安隨四ノ一〇)

原 六月(安隨一ノ四九)

原 間六月(安隨一ノ四九)

原 夏越(安隨一ノ一〇)

原 和懸(安隨一ノ一〇)

原 臨時の大(安隨一〇ノ二六)

原 三種の大(安隨一〇ノ二六)

原 千度の(玉か一〇ノ四)

原 百度の(玉か一〇ノ四)

原 千度の(玉か一〇ノ四)

原 五ノ四(松筆九七ノ三五)

一万度の(嬉遊七ノ一七)

五十申の事(秋齋二ノ五)

伊勢の御箱(松筆九ノ五)

難波にてはら(する事(松筆四ノ一四)

無題詩集六月の—(鹽尻三四ノ三七)

宿構句 (擁書四ノ一四、三七)

婆羅門僧正 傳(閑次三ノ二三)

ハリ

玻璃 玉考中(白雜考四ノ自遺考八)

針 糸のみ(孝經三ノ二三) (居龍七)

針 糸の付たる—のし時の事(閑次四ノ一)

針 薩摩の孫八(二話一ノ三八)

針 林中より數多の—出し寄病の事(鬼小上ノ四七)

針打 さいふ遊戯(談小一ノ四八)

針金賣 明和頃の—(叔風二〇)

針のみ (玉か八ノ二六) (松筆九ノ二)

針ほどの事を棒ほどにさふ (松筆九ノ三)

鍼治 天皇御願物に—を奉る事(玉か一ノ二)

鍼醫 (松筆九三ノ四八)

陰形 男橋形(一話三ノ四四)

角先生(嬉遊三ノ九)

はり形又あつま形(松筆六一ノ一五)
花稜 「サラ」麗ヲ見ヨ
張 (松筆一〇四ノ一〇)
張合 (松筆一〇四ノ一〇)
張子 (松筆六一ノ三三)

春 (松筆六一ノ三三)
春 佐保龍田(松筆一〇四ノ一〇)
春 (松筆六一ノ三三)
春 (松筆六一ノ三三)

板 (松筆六一ノ三三)
板額 (松筆六一ノ三三)
番 (松筆六一ノ三三)
番頭 (松筆六一ノ三三)
番立 (松筆六一ノ三三)

盤溪禪師 (四方月ノ九)
盤領 (松筆六一ノ一〇)
鵝 (松筆六一ノ一〇)
伴大膳 (松筆六一ノ一〇)

蠻綸 (松筆八六ノ五七、八七ノ一〇、八八)
繁榮 (松筆八六ノ五七、八七ノ一〇)
反響 (松筆八六ノ五七、八七ノ一〇)

萬民 (松筆八六ノ五七、八七ノ一〇)
藩屏 (松筆八六ノ五七、八七ノ一〇)
翻車 (松筆八六ノ五七、八七ノ一〇)

絆變 の解 (鹽尻四四ノ一八)

ヒ

水... (松筆九六ノ二八)

日... (松筆四〇ノ一二)

肥... (松筆四〇ノ一二)

標山... (松筆四〇ノ一二)

火桶... (松筆九六ノ二八)

比校... (松筆四〇ノ一八)

美江寺... (鹽尻四五ノ一五)

批元擣虛... (松筆一ノ二四)

榎垣姫... (松筆九六ノ二八)

榎垣塔... (松筆九六ノ二八)

日蔭蔓... (松筆四〇ノ一二)

日かげの駒... (松筆七二ノ二三)

日傘... (松筆七二ノ二三)

日金山... (松筆一〇四)

東... (松筆一〇四)

費... (松筆二〇二三)

未... (松筆四〇ノ一二)

射干... (松筆三三ノ六)

ひいな形... (松筆四〇ノ一二)

日向國... (松筆一ノ八)

水魚... (松筆一ノ八)

東常縁... (松筆一八ノ一五)

東山天皇... (松筆一八ノ一五)

火かき... (松筆一八ノ一五)

氷上山... (松筆一八ノ一五)

氷川神社... (松筆一八ノ一五)

乾砌... (松筆一八ノ一五)

光り物... (松筆一八ノ一五)

光源氏... (松筆一八ノ一五)

引れ者の小唄... (松筆一八ノ一五)

彼岸... (松筆一八ノ一五)

火燧... (松筆三三ノ四七)

火燧石... (松筆三三ノ四七)

火燧袋... (松筆三三ノ四七)

火打具... (松筆三三ノ四七)

ひえて... (松筆九二ノ三八)

日吉神社... (松筆九二ノ三八)

比叡山... (松筆九二ノ三八)

稗詩... (松筆九二ノ三八)

ひそり... (松筆九二ノ三八)

ひそりの日... (松筆九二ノ三八)

火... (松筆九六ノ二八)

日... (松筆四〇ノ一二)

肥... (松筆四〇ノ一二)

標山... (松筆四〇ノ一二)

火桶... (松筆九六ノ二八)

比校... (松筆四〇ノ一八)

美江寺... (鹽尻四五ノ一五)

批元擣虛... (松筆一ノ二四)

榎垣姫... (松筆九六ノ二八)

榎垣塔... (松筆九六ノ二八)

日蔭蔓... (松筆四〇ノ一二)

日かげの駒... (松筆七二ノ二三)

日傘... (松筆七二ノ二三)

日金山... (松筆一〇四)

東... (松筆一〇四)

費... (松筆二〇二三)

未... (松筆四〇ノ一二)

射干... (松筆三三ノ六)

ひいな形... (松筆四〇ノ一二)

日向國... (松筆一ノ八)

水魚... (松筆一ノ八)

東常縁... (松筆一八ノ一五)

東山天皇... (松筆一八ノ一五)

火かき... (松筆一八ノ一五)





立野氏<sup>ツツ</sup>妻(牛馬四二)の乗來る馬の車(白樺五七)  
人魂(安隨二ノ一八)  
遊魂(安隨二ノ一三)  
の飛行(蟬尻五〇ノ二三)  
の落たる處(居龍四八)  
の古歌(南留三ノ一八)  
の古歌(蟬尻一四ノ二二)  
「イン」陰火ヲモ見ヨ  
人給(安隨二ノ五、一九ノ四六)  
人贊(祀 尾張光友) 々禁す(談小三ノ二九)  
人の噂も七十五日(松筆九七ノ一六)  
人の上に吹風我身にわたる(松筆九二ノ三五)  
人の中の人(松筆二一五ノ三)  
人々御中 書狀の(玉ツ七ノ八)  
人降る 人の天降りしといふ話(兎小中ノ二〇六)  
人麿 といふもの數人あり(一五五ノ三〇)  
人丸秘抄 といふ書(難江一ノ四四)  
人宿 阪及峠の(松筆九二ノ二一)  
人笑はする馴者(松筆九六ノ八)  
尾藤二洲 の出仕(一話八ノ一五)  
飛頭猿 「ロク」羅總首ヲ見ヨ  
一 一里一山等のといふ詞(松筆九八ノ三五)  
一 内憂く さいふ事(松筆九六ノ一〇)

紙袋(松筆六二ノ二〇)  
トきり 書の一段か(小一ノ四五) といふ誤  
一言主<sup>神</sup> 醜貌(蘭耕二ノ六) (蟬尻二ノ七)  
ト七 刀に(さいふ)(松筆一〇六ノ一)  
ツ書 物(六〇)といふ(開次二ノ三)  
柳勘之丞 〇(松筆九八ノ二二)  
柳監物 の家斷絶の事(平日四ノ一八)  
はしし(二はしら採いふ事)(二上七〇)  
一 筆 さいふ札の初にくる事(傍廂四五)  
一 筆かき(蟬遊三ノ六)  
一 昔(松筆九〇ノ三四、九二ノ三三)  
一 むかへ(松筆八三ノ四五)  
一本亭芙蓉花 さいふ狂歌師(俗耳一六〇)  
一 物いれて さいふ詞(松筆九六ノ九)  
一 トより 一度二度か(隣女一ノ二五)  
一 節截 「シヤ」尺八ヲ見ヨ  
一人 二人といふ事(老中下ノ三〇)  
榎殿 「カハ」扇ヲ見ヨ  
單衣 (平日一ノ五) 帷子(傍廂四八)  
火止り さいふ事(拾玉四ノ三二)

瞳孔 重瞳子(隨意六ノ一)  
乗燭翁 中州酒折宮(一の像(桂林下ノ六)  
日取り 吉日凶日(安隨一八ノ五五) 日時の吉凶(蟬尻三八ノ八) (隨意一ノ二二)  
「八龍」日九日五離日(梅日三ノ二六) 「キツ」吉凶ヲモ見ヨ  
獨狂言 獨狂言人形(蟬遊六ノ上ノ四) 一付獨相撲(獨六(足齋二ノ四)  
獨藝 (世談一ノ九)  
獨床子 「シヤ」床子ヲ見ヨ  
獨立に立てて去る といふ事(松筆九六ノ一三)  
●ヒナ  
雞 (安隨一九ノ六三) (傍廂四一) (世談一ノ五)  
ひなの名義(骨董下前ノ一三)  
ひいな(玉ツ一ノ三七)  
ひいな(安隨四ノ二七)  
ひいな(蟬遊六ノ下ノ一七) (松落四ノ一六)  
ひいな(松筆六六ノ四七)  
紙 裝束(蟬遊六ノ下ノ一八) 琉球の(一話三七ノ二六) 唐國の鏡人(骨董下前ノ二二)  
ひね といふ詞(松筆九二ノ六〇)  
火鼠 (松筆五二ノ一六)  
火鼠のかはばり(松筆一〇ノ三)  
日根野織部 かの立物(二話四ノ四二)  
撚りふくさ(蟬遊二ノ中ノ二〇)  
●ヒノ  
丙午 丁未の年に必災害ありといふ説(兎小下ノ一)  
日景 圖説(二話四五ノ二二)  
日神 (燕石一ノ一)  
日凶 日取「キツ」吉凶ヲ見ヨ  
日前國懸社 の懸當日時(玉ツ一〇ノ三九)  
日の糞 さいふ石(二話八ノ二七)  
日の丸扇 「アフ」扇ヲ見ヨ  
日少宮 (安隨九ノ六)(二上七)  
日野 諸國 といふ地名(南留四ノ五)  
日野資枝 の書簡(一話四ノ七)  
日野資朝 有識に委しき事(年々二ノ一)  
日野藥師堂 題(二)

古製の(骨董下前ノ一八) 享保の頭の上(骨董下前ノ二五) 天和自享の頭の(骨董下後ノ三三) 享保七年の大きさを定む(我衣二五) (鳥のひなといふ名(圓珠七八) 雛遊 (安隨二ノ一八) (孝經一ノ三) (白紳一ノ三三) 考井尾州海邊の(蟬尻五五ノ一) 雛祭(蟬遊六ノ下ノ一八) 雛會(蟬遊六ノ一九) 雛祭の幸の神祭(蟬尻二〇ノ六) 雛祭の始(源氏物語の)古書にも見えず 三月三日の(骨董下前ノ二二) 子の日の(贈物のひな(骨董下後ノ二四) 姫瓜の節供(骨董下後ノ三五) 姫瓜の雛(骨董下前ノ二七) ひいな草(骨董下前ノ二七) 後の雛(蟬遊六ノ下ノ二二) (骨董下前ノ二六) 古雛を流す相模厚木の風俗(蟬遊六ノ下ノ一八) 雛遊(骨董下前ノ一九) (骨董下前ノ一六) 雛遊具并木偶の神馬(權書二ノ三) さいふ事(蟬遊六ノ下ノ一七) 雛衣(骨董下前ノ二七) 雛の繪(骨董下前ノ二二) 雛の腕折敷の圖(骨董下前ノ二六) 雛の腕に給貝を用ふる事、雛奴(足齋三ノ一五)

雛の給貝(還魂上ノ二〇) さいふ弄事(柳記下ノ七) 雛の白酒を用ふる事(蟬遊六ノ下ノ二) 雛の使の圖(骨董下前ノ二五) 「シヤ」上「モ」見ヨ 雛合(骨董下前ノ一三) 雛頭(松筆八七ノ九) 雛先 (傍廂四二) 「イン」陰門ヲモ見ヨ 雛屋立圖 京童の作者(兎小中ノ二五) 立圖の驛路(一話五ノ九) 日なし貸(松筆二一七ノ四) 日南窪 麻布 といふ地名(一話二ノ一) (蟬遊六ノ下ノ三〇) (松筆九五ノ九五) 日向ほこり (九三ノ九五) 鄙の都(松筆一ノ一三) 非南留別志 の作者(兎集三八) (兎小中ノ一九四) 批難 漫に物を難すまじき事(蘭遊上ノ一) 火繩 (松筆九三ノ八五) 美男かつら (松筆九三ノ五二) ●ヒニ 日に新なり 日新の教(花月七二) 非人 といふ語の語源(四方雪ノ二〇) ●ヒ子

ひね といふ詞(松筆九二ノ六〇)  
火鼠 (松筆五二ノ一六)  
火鼠のかはばり(松筆一〇ノ三)  
日根野織部 かの立物(二話四ノ四二)  
撚りふくさ(蟬遊二ノ中ノ二〇)  
●ヒノ  
丙午 丁未の年に必災害ありといふ説(兎小下ノ一)  
日景 圖説(二話四五ノ二二)  
日神 (燕石一ノ一)  
日凶 日取「キツ」吉凶ヲ見ヨ  
日前國懸社 の懸當日時(玉ツ一〇ノ三九)  
日の糞 さいふ石(二話八ノ二七)  
日の丸扇 「アフ」扇ヲ見ヨ  
日少宮 (安隨九ノ六)(二上七)  
日野 諸國 といふ地名(南留四ノ五)  
日野資枝 の書簡(一話四ノ七)  
日野資朝 有識に委しき事(年々二ノ一)  
日野藥師堂 題(二)

**簸川** のよみ方(鹽尻五三ノ一六)  
**檜** (支同二ノ二)(松筆六四ノ二六)  
**火ノ國** 名號考(比古五ノ四〇)  
**火ノ子** 一、細煙(松筆九五ノ二二)  
**火のし** (松筆八三ノ四)  
**火ノ玉** (二宵二ノ二)(松筆六二ノ五五)  
**火の見** 望火樓(二話三六ノ四〇)  
**火の用心** といふ事(鹽尻三七)(南留一)  
**火危し** (玉カ三ノ三一)  
**丁未** の年々災害ありといふ説(鬼小下ノ一)

**琵琶湖** の稱(松筆八三ノ四七)  
**琵琶島** 尾張の故事(鹽尻三三ノ七)  
**琵琶泉** (白神三ノ一)  
**琵琶塚** 尾州の故事(鹽尻四ノ二)  
**琵琶甲、安郡** (安隨一八ノ三九)(居龍二)  
**琵琶法師** (婚遊六ノ上ノ一四)(藝苑一)  
**琵琶笛** 一名ビヤゴ(鬼小上ノ二二)  
**琵琶馬** (松筆八六ノ六一)  
**誹謗** 妖言と(多波上ノ二四)  
**火柱** 赤氣の立ち(一話一ノ一六)  
**火鉢** 竹籠の頃の(一話一六ノ四三)  
**火鉢** 北條時政の頃の(居龍七)  
**火鉢** の時節(松筆八三ノ一四)

**雲雀** は朝鮮國王官燕の文あり(白神三ノ六)  
**昔天子** (松筆六一ノ三三)  
**ひれ** 「アシ」稱代(見ヨ)  
**ひれ** の木字(鹽尻三ノ九)  
**響灘** (年打上ノ三九)  
**日比谷** の地名(婚遊二ノ二八)  
**批評** 順評(橘卷二ノ五ノ五)  
**比々羅木ノ八尋矛** 「ホコ」矛(見ヨ)  
**ヒフ**  
**皮膚** 初生紅肉(枝邊二ノ三四)  
**被風** 披風圖説(傍附一)  
**火吹竹** (松筆六一ノ一八)  
**比比丘女** 「コト」子さる(見ヨ)  
**美福門院** 石清水宮に神輿を獻り給ふ事(玉カ四ノ一五)  
**美物** 菓子(松筆九三ノ八二)  
**非物論** 五井藤九郎の(閑放下ノ二九)  
**秘府略** さいま書(餘餘二ノ一九)  
**秘文** 大部の書(秋卷二ノ四)  
**碑文** 碑銘論(談小一ノ三四)  
**碑文** に何々先生何君とかく事(談小

**ひはぼん** 「フエ」笛(見ヨ)  
**枇杷** は接木を住さす(松筆五ノ二二)  
**琵琶** (安隨四ノ二二)(一話二ノ六)  
**四絃** (銀屑二八)  
**留** (南留二ノ九)  
**著名の** (一話九ノ三七)

**姫** 貴人の女を(隨意三ノ二〇)  
**姫瓜節供** 「ヒナ」難遊(見ヨ)  
**姫君** (二) おほい君、中の君(玉カ八ノ四)  
**姫路** 播州の地名(松筆九五ノ三〇)  
**姫路城** 築立の由来(一話二ノ二)  
**姫太神** 春日四所の中(鹽尻七ノ二四)  
**姫まうちきみ** の解(安隨六ノ一)  
**姫松** (安隨六ノ二二)  
**碑銘** 「ヒフ」碑文(見ヨ)  
**微妙** さいふ詞(松筆九五ノ二二)  
**ヒモ**  
**ひも鏡** の義(年々五ノ二)  
**紐占** (圓珠六〇)  
**廣瀬野** 地名考(閑耕一ノ三〇)  
**干魚商** 干魚の屋といふ(鹽尻五ノ二二)  
**神籬** 林氏の(説)(鹽尻三ノ二二)  
**神籬** 瑞境(安隨一〇ノ七)  
**神籬** 瑞境(安隨一〇ノ七)  
**神籬** 瑞境(安隨一〇ノ七)  
**神籬** 瑞境(安隨一〇ノ七)

**ヒヤ**  
**ひやうし** さいふ物の考(鬼小上ノ二二)  
**ひやうこ付** (安隨一ノ一)  
**ひやうつのかぶら木** (八水一四)  
**ひやうは** (南留二ノ二二)  
**ひやうひやく壺** (松筆四ノ二二)  
**ひやうめん** (安隨一五ノ二二)  
**ひや酒や** (白神一)  
**兵衛** さいふ名(屠龍七)  
**兵主神** 考(鹽尻七ノ一〇)(松筆五ノ二二)  
**兵糧** 食の糧の事(安隨一八ノ三二)  
**兵糧丸** 人の腹中の食を取て食ふ(松筆九三ノ九三)  
**兵糧丸** 軍用(安隨二ノ八)  
**病間長語** 解題(病間一)  
**病氣** の説(橘卷二ノ四ノ二二)  
**病氣** を歡樂といふ(年々二ノ一八)  
**病氣** (玉カ一ノ四七)(同二ノ一〇)  
**病氣** の原因(花月一〇五)  
**病氣** 久阿の療治(花月七)  
**病氣** 神心内守(技撰一ノ二六)  
**病氣** 貧者難療(回光反照(松筆三ノ三八、四〇)  
**病氣** 病源藥性之説(茶筆三ノ一五)

奇病 (牛馬五七) (茶筆二ノ二二) (廢塚二ノ八、九〇) [「チ」持病ヲモ見ヨ]

病死 死な—といふ (玉ノ八ノ四五)

病中詩 宋熊鈺か— (遺樓下ノ二四)

病人阪 の古名 (廢塚三四)

拍子木 ノ三〇 拆、時の大鼓 (松筆九一)

平仄 (世事二)

平等院 宇治— (雜書一ノ二〇) 阿闍梨堂の建築 (鹽尻三ノ二〇)

平文 (松筆六ノ二五、九二ノ二五、一〇五ノ一一)

評定 金儲との別 (鹽尻八ノ三二)

評定文 の寫 (長陽四四)

丙丁童子 (松筆七ノ二九) に典ふ (松筆七五ノ六七)

屏風 (秋齋四ノ三三) (松筆九一ノ二三) 六枚—は清國になし (橋卷初ノ四ノ八)

の袋 (安隨四ノ一八) 網代 (安隨四ノ一八) 坤元録の (一話一ノ三三) 和漢抄の (安隨七ノ三三) 東嶽山顯性院の (鹽尻五ノ二九) 羊勝の— 賦 (鹽尻五ノ二九) 素見 (三首二ノ二八)

百 字々々々々々々々々 (松筆一ノ二〇) 金錢一兩 (鹽尻一ノ三四)

百韻 「ハ」俳諧ヲ見ヨ

百因縁 さいふ書 (一話一八ノ三七)

百鬼夜行 の圖 (理窟五ノ二五)

百花園 の記事 (雜書三ノ七)

百花香 の製法 (續長四〇)

百藏 「イ」遊女ヲ見ヨ

百子帳 (安隨三ノ三五)

百日紅 紫微花或は桐桐心— (さいふ遊附ノ四六)

百事如意圖 の寓意 (一話二ノ三〇)

百姓 昔の—の義 (松落三ノ一八) (南嶺二ノ二七)

百尺竿頭 の出處 (乘烟三ノ一七) [「ソ」農民ヲモ見ヨ]

百首 の讀み様 (理窟六ノ二六) 「ウ」の歌 (玉ノ四ノ一一) 「ウ」の歌ヲモ見ヨ

百壽 の掛軸 (一話一七ノ二五)

百塔禮 (松筆四ノ三)

百度詣 (安隨四ノ四三) (嬉遊七ノ二六)

百二山河 さいふ事 (雜書四ノ九)

百日の説法尻一ツ さいふ事 (松筆七八ノ八八)

百人一首 (秋齋三ノ二) (海西三ノ一九) の撰者 (年打上ノ一) (語下ノ一一)

の撰者 (年打上ノ一) (語下ノ一一) 〇の調 (消閑四八)

の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八) 〇の調 (消閑四八)

白檀香樹 (松筆七ノ九)

冷や麥 麥種付熱麥 (嬉遊一〇ノ上ノ二)

「ソ」「蓋」サト「温純」ヲモ見ヨ

●ヒユ

非熊非熊の説 (眼雲二ノ一〇)

●ヒヨ

ひよつと といふ詞 (松筆四ノ一一)

ひよみの酉 といふ事 (如閑三ノ九)

ひよんな といふ俗語 (橋卷初ノ五ノ二)

馮永功 有日本著色山水畫のよみ方 (梅日二ノ一八)

馮智舒 (餘餘一ノ二九)

氷文 (續長四一)

火除場 の設けさ諸人の群集 (窓一〇九)

日吉 「ヒユ」目吉ヲ見ヨ

蚊子木 (嬉遊二ノ四二)

●ヒラ

ひらかけ 「ケ」下階ヲ見ヨ

ひらく 歸るといふを思て— (さいふ事 (松筆九五ノ一三、二〇四ノ九))

ひらで貝 (松筆六ノ二六)

ひらに さいふ詞 (松筆一ノ一六)

ひらめく の漢字 (鹽尻八ノ一)

平井權八 の處刑 (二話二六ノ三六)

平泉實記 陸奥—の事 (一話四〇ノ二)

平岩氏 の姓 (鹽尻八ノ一五、九ノ二)

平岩親吉 の祖 (鹽尻四七ノ二八)

の初陣 (談小五ノ二七) 〇の後 (鹽尻一〇ノ二八)

平岩若狹守 死刑を宣旨するに慎重を加へし事 (窓一三〇)

平江帯 「オ」帯ヲ見ヨ

平賀源内 平賀源内實記五卷 (溫知叢書第編輯ノ内)

の傳 (一話二ノ二)

物産會の始末 (奴風二六)

風來山人戯作の傳 (奴風二八)

扶持を辭せし事 (一話四五ノ三七)

と火洗布 (閑散上ノ一一)

の工夫 (築城八ノ四)

の警語 (一話四三ノ二)

戲文珍瑣坊が傳 (一話三七ノ三)

風來山人自讃 (假世二)

平賀鳩溪實記 解題 (溫知叢書第四編ノ内)

平河天神 (望海三)

平絹 「オ」織物ヲ見ヨ

平九節 (柳記下ノ八)

平澤左内 「コ」小唄ヲモ見ヨ

平冢御座 (安隨三ノ一七)

平田篤胤 伴信友の草紙を纏む (比古七ノ二五)

を罵る (後言一) 論を駁す (鳥おとし一巻)

平塚爲廣 (因幡守)の討死 (自秘二)

か諫死の様 (鹽尻四ノ二七)

文字の嗜み (一話五ノ一五)

平戸燒 清原姓—系圖 (鹽尻七ノ五)

平野氏 (年々四ノ二九)

平野社 「ウ」刀鍛ヲ見ヨ

平林淳信 書家— (筆す上ノ一一)

平張 といふもの (安隨三ノ四四) (松筆六ノ二〇)

平松金二郎 の鎗 (一話四ノ三八)

〇の自殺 (自秘一〇ノ二四)

平山行三 近藤守重送— (如閑九ノ二一)

平油單 「フ」風呂敷ヲ見ヨ

平寄 (松筆八四ノ六六)

平禮にて引くろふ (松筆一ノ一)





封筒 (嬉遊三ノ三) 封結 異邦封套 (隨風五三ノ二〇)

或問 (燕石六ノ二七) 寧羅前下ノ四 我國の美 (橋本初ノ二二)

風鳥 さいふもの (春波六一) 風土記 (孝經四ノ一八)

秘蔵昌貞尼の (雲萍一ノ二七) 餓死者の發句 (宮川三ノ二三)

夫婦喧嘩 (松筆六三ノ三八) 武運 祈 (長久 隨意一ノ三)

笛吹時 (松筆九五ノ三六) 不孝 (松筆九ノ一八)

**深除** といふ式(雑江五ノ一三)  
 「カミ」娶の風ヲ見ヨ  
**深仁親王** の叔敏(閑自ノ七)  
 深見氏 の由緒并に祖先の事(白神八ノ四)  
**深見要言** 自序(二話二ノ九)  
**深見十左衛門** の傳(奇跡二七)  
 毘の十(嬉遊一ノ下ノ四)  
**深見草** 「ホタ」牡丹ヲ見ヨ  
**深見里** と深見神社(擁書二ノ三三)  
**深溝本光寺碑** の誤謄(談小三ノ三三)  
**深谷一郎左衛門** (上杉山人)の德行舞樂  
 樂の事(花月八)  
 樂考(白雅考卷ノ三)  
 論(獨語三九)  
 聖人保壽(談小三ノ二)  
 樂と治民、樂者徳之華也(談小四ノ一五)  
 民を化するに如何なる一可なる(白雅考一ノ八)  
 春秋の争(論蓬萊ノ一九)  
 本朝樂曲考(白雅考四ノ白雅考八)  
 樂の始(松筆九ノ四七)(白雅考八)  
 日本(松筆九ノ四七)  
 古樂圖(北條上ノ三)  
 の傳はり來つる次第(玉一ノ一八)  
 古に樂に新しく詞をつけたる事(南留二樂家秘するの弊(閑耕四ノ三))  
 風俗付東遊(嬉遊六ノ上ノ九)

樂書、殘り樂(安隨四ノ二三)  
 入綾、代(安隨四ノ四四)  
 參入音聲、退出音聲(玉一ノ一五)  
 の左方右方(松筆二ノ二六、八七、一五)  
 朝庭舞の舞踏左右の事(白神一〇ノ二六)(松筆三ノ三三)  
 延年の舞(安隨三ノ三五)(嬉遊五ノ一六)  
 (松筆九ノ二四)  
 越前樂の詞(南留一ノ二九)  
 五節樂、安城樂、白柱、林歌、演脫、賀殿(樂苑四ノ一五ヨリ一九)  
 五節舞(鹽尻三ノ三六)  
 人天樂、奇(鹽尻三ノ一五)  
 太平樂、鹽尻二ノ二〇)  
 和風長壽樂の作者(鹽尻三ノ二六)  
 唐太宗被陳樂を奏せし事(鹽尻三ノ二八)  
 十部樂(鹽尻三ノ二〇)  
 俗舞(續長九ノ一〇)  
 舞(松筆九ノ一八)  
 諸舞、片舞(南留五ノ二四)  
 亂曲と曲舞(南留五ノ三三)  
 立樂、松筆一ノ二四)  
 正徳三年法皇御幸途中の音樂(鹽尻五ノ二三)  
 文化五年禁裡御遊(一話二ノ一七)  
 文政三年伊勢山田世義寺樂會(遊京上ノ三ノ二六)  
 朝鮮の使者陸王納會利に感せし事(鹽尻三ノ二六)  
 尾陽府城東照宮、自(鹽尻一四ノ一八)  
 「シフ」字舞、ラン、亂曲、(鹽尻一四ノ一八)  
 「シフ」字舞、ラン、亂曲、(鹽尻一四ノ一八)  
 踏懸 (安隨一六ノ二九、一八ノ五一)

フキ

●フキ  
 衣服の——(松筆九ノ四四)  
 誤(爲秋冬(技藝二ノ三三))  
**武器** 「ハイ」兵器ヲ見ヨ  
**武器圖說** の編纂(二話二五ノ四二)  
**吹上御殿** の御庭植込の松(半日一四ノ一八)  
**吹上濱** (玉一ノ一〇)  
**吹返し** 「カツ」中胃ヲ見ヨ  
**吹貫**、金襴法印の陣印——の事(白秘五ノ一)  
**吹矢** 付からくりの、めつた的(嬉遊四ノ二二)  
**普救類方** (一話二四ノ一三)  
**奉行** 松筆九ノ三三(談小五ノ三七)  
 慶長の五(鹽尻九ノ三三)  
 私曲の和歌(松筆九ノ三三)  
 將軍遠國——を見ず(内安二二)  
**不器用** といふ詞(松筆七ノ四九)  
 ●フク  
**ふくさ** といふ言(玉一ノ一八)  
**ふぐし** 又くつといふ器(玉一ノ二七)  
**ふくだ** (松筆三ノ一九)  
**ふくだむ** といふ詞(擁書一ノ六〇)

**ふくつむ** といふ詞(暗語上ノ二〇)  
**ふくぼし** (松筆九ノ七)  
**ふくら** といふ詞(松筆九ノ五)  
**吹く** ふつと言にいひし例(松筆一ノ一六)  
**河豚** の説(談蓬三ノ一六)  
 河豚(松筆五ノ一)  
 河豚魚(松筆五ノ一)  
 の種類(鹽尻五ノ一八)  
 食(餘餘一ノ三三)  
 を食する風(梅日二ノ一七)(鹽尻五ノ一)  
 人を食はす(からす(松筆九三ノ二四))  
 の毒を解毒法(兎小下ノ六五)(牛馬二七)(松筆八五ノ七)  
 の正字(牛馬二七)  
 鯛を以て——に代ふ(老長二八)  
**河豚汁** 備後朝津(秋里上ノ一三)  
**河豚もどき** (二話二ノ三三)  
**不具身** (松筆八四ノ二一)  
**不快** といふ詞(松筆九七ノ一三)  
**副** の字音(安隨六ノ二六)  
**福** 「メウ」砂礫山ヲ見ヨ  
**福州** 支那 清流の急流(笈埃八ノ五)  
**福島左衛門太夫** に数人ある事(一話一三ノ四二)  
**福島正勝** 正之異同考(談小五ノ二二)

**福島正則** の子孫(鹽尻三五ノ三二)  
 の遺言(海海五五)  
 の遺言(一話四ノ一)  
 の性行(四方月ノ七)  
 微賤を忘れず(鹽尻四八ノ三)  
 の不覺(一話一五ノ一六)  
 の箴(一話二九ノ三三)  
**福酒** 「サク」酒ヲ見ヨ  
**福壽草** の逸品(奴風二〇)  
 の歌(鹽尻四一ノ二七)  
**福徳** といふ年號(長陽一〇七)(松筆六五ノ一〇)  
 「子」年號ヲ見ヨ  
**福成明神** の祭神(閑散上ノ九)  
**福内鬼外** 「セツ」節分ヲ見ヨ  
**福原** の都(北邊三ノ二〇)  
**福引** (梅日三ノ一)(如蘭二七ノ二)(松筆七ノ一三)  
 付帶引寶引(嬉遊四ノ三三)  
 正月寶引(半日一ノ三三)  
**福佛坊** (一話二ノ五)(提醒五ノ二三)  
**福來病** (玉一三ノ二六)(松筆三七ノ八)  
**福輪糖** (半日一三ノ三三)  
**福祿壽** (南留三ノ二二)(南辨一四)(松筆四ノ一〇)  
 清人が門に貼る——の札(一話二五ノ二二)  
 を詠める歌(鹽尻一〇ノ二二)  
**福分け** 一話(餘餘三ノ三)  
 (嬉遊八ノ一〇)

**鞆** 「イン」腰褌ヲ見ヨ  
**服** 「キフ」忌服ヲ見ヨ  
**服忌令** (多波中ノ三)(白筆上ノ五五)  
**服具勝實** 史記語林老子傳注——の誤(蕪樓上ノ五)  
**服紗** 入帷(安隨一七ノ五二)(半日一ノ四六)  
 帛紗(松筆一五ノ四九)  
 丸落物といふ(松筆九六ノ二五)  
**服紗午勞** の料理方(一話二二ノ一九)  
**服色** (安隨二ノ二二)(鹽尻七ノ二二)  
 禁色(安隨八ノ一七)(安夜四ノ二一)  
 禁色并一斤染(安隨七ノ三三)  
 禁色をたす(松筆五ノ三三)  
 服衣に推し(春深中ノ六)  
 落衣(四ノ一九)  
 の背丹(安隨五ノ三〇)  
 背白の襟(安隨一四ノ二八)  
 濃色(純白)濃打(安隨一四ノ五、一八ノ四四)  
 うつみし色(安隨一八ノ二九)  
 梅谷流付木蘭(安隨一三ノ二二)  
 香染(安隨一九ノ三五)  
 ちち染(安隨一五ノ二九)  
 黃欄染(安隨一五ノ二八)(白筆上ノ五二)  
 唐椽花色(安隨一〇ノ一七)(二上七二)  
 目染(安隨四ノ一〇)  
 像色(白筆上ノ五三)(安隨一八ノ二九)  
 緋染(安隨三ノ四八)  
 葡萄染(安隨八ノ九)(安夜四ノ七)(春深中ノ六)

むくのみ色(安随一ノ四七二〇ノ一)
「イ」衣服「シ」装束「メ」染色「イ」色を著るヲモ見ヨ

服制

明の冠服(傍廂九五)(四方花ノ一)
我國冠服の變遷(關原二六ノ二)
我々の位制(關原二六ノ二)
古代の位制(關原二六ノ二)
雄略帝以來漢様に「改められし説(如關)」

復讐

復讐 論(餘餘一ノ一〇、四ノ二)
伊賀上野の(關原六ノ一)
石井源藏の(一話二一ノ三五)
牛込行元寺の(一話二九ノ八)同四

奥州仙臺の(半日四ノ二三)一話四
龜山の(一話四八ノ三九)
仙臺釘子村百姓殿を被討に來りし實説(一話四五ノ五)

花「歌」も「みち」(辯遊一ノ中ノ二〇)
持付法師(辯遊一ノ上ノ三八)
直物漢文の證文(南嶺三ノ五)

袋

袋烏帽子「エホ」烏帽子ヲ見ヨ
袋を負ふ といふ詞(松筆一〇〇ノ五二)
袋棚の始(長頭一四)世談三四
袋針(辯遊一ノ上ノ三九)
鳥の名を其性(燕石六ノ三三)
「は」土なつて「子」とす(假世二九)

フケ

ふけ 頭髮の「本字」(關原四一ノ二五)
ふけの浦 吹井浦吹浪(松筆七〇ノ三八)
ふけもつてうの本字(關原二二ノ九)
ふけらかす といふ詞(松筆一〇ノ三)

武侯廟碑

武侯廟碑 (一話二一ノ二)

フサ

ふさねて (松筆一四ノ一七)
扶桑の說(白華上ノ三五)
扶桑 上總下總の名は「因める事(南留一ノ二四)」
「ニホ」百木ヲモ見ヨ
扶桑見聞私記 是書なり(安隨三ノ經四ノ一八)
扶桑拾葉集 の獻上(松筆六二ノ四二)

武家故實

公武支配の差別(松筆九五ノ三五)
「フシ」武士ヲモ見ヨ
武家諸家系圖 (一話二四ノ三九)
武家屋敷 本所に「を儘く初(瀬田一六)

武藝

の極意(病問五一)
劍術の秘法(安隨一七ノ三四)
當今の「手練(半日一五ノ二四)」
寶曆頭 稽古并達人の事(賤小七二、七八)

不景氣

不景氣 といふ詞(橋卷初ノ二二〇)

普賢象

普賢象 「サク」櫻ヲ見ヨ

フケーフケ

寛永以来の風の風(安隨八ノ四三)  
 元祿頃の風の風(安隨八ノ四三)  
 脇差のみにて他行せし風の逐はれし事(安隨一ノ四一)  
 喜多見某の心掛(雨窓七ノ二一)  
 三騎三脚兩兵(鹽尻四ノ二二〇)  
 三騎三脚兩兵(鹽尻四ノ二二〇)  
 病問(九)  
 病問(九)  
 病問(九)  
 病問(九)  
 病問(九)

の三尊(南嶺四ノ二二)  
 上の日出(遊遊七ノ二三)  
 上の日出(遊遊七ノ二三)  
 上の日出(遊遊七ノ二三)  
 上の日出(遊遊七ノ二三)  
 上の日出(遊遊七ノ二三)

富士谷御杖の一夜首(提醒二ノ一三)  
 富士往來(安隨一ノ六八、一八ノ三二)  
 柴積(遊遊二ノ二九)  
 不死術(橋本二ノ五ノ四)  
 不淨身(松本一ノ八ノ二七)  
 不成就日(橋本初ノ一ノ六)  
 不審(安隨四ノ三一)  
 負傷(九)  
 伏見城(二話三ノ二六)  
 伏見天皇(御即位次第(玉)四ノ三八)  
 伏見の會(ウタ歌合ヲ見ヨ)  
 奉納(一ノ一ノ二二、九ノ三〇)  
 善請(四ノ一ノ二三、傍廂七ノ二二)  
 婦人科(婦人病(一話一五ノ四))

フス

アス 蝦夷人の用ふる(安隨一ノ二五)  
 毒を(三六)  
 毒を(三六)  
 毒を(三六)

フタ

伏屋 幌木のありといふ(提名にあらす(松筆一ノ七ノ六))  
 豊前國(若梧二ノ一)  
 二見浦 遊(遊遊四ノ三三)  
 二村山 尾張(一ノ二ノ一九)

フナ

三河國 考(閑次一ノ一五)  
 二山彌三郎 樞者(慈子一四〇)  
 二夜 名に高き(松筆九ノ一〇)  
 譜第(南留五ノ二三)  
 武道 武氣(安夜一ノ一三)  
 不常 といふ語(松筆八ノ七七、九ノ二二)  
 不常 といふ語(松筆八ノ七七、九ノ二二)  
 不常 といふ語(松筆八ノ七七、九ノ二二)  
 不常 といふ語(松筆八ノ七七、九ノ二二)

雨ながら盛ならず... 阿志氣比の義解  
布多富我美 (碩鼠三ノ一三)  
舞踏 (フカ舞樂ヲ見ヨ)

フチ

ぶちこよく... (幽遠上ノ七)  
ふぢ衣... (安隨一八ノ三〇・二〇ノ二)

藤

藤 ぶらなみ (玉ヲ七ノ一) (幽遠下ノ二二)  
根岸則光寺の並観 (花詩(半日ノ一))  
花の比喩 (花月九八)  
かを見てよめる歌 (藤原二ノ三三)  
李白紫樹詩 (餘録一ノ三四)

藤掛伊織 盜賊收役 (窓一四九) の不評判  
藤白 黒牛湯 (糸鹿山(玉ヲ九ノ二四))  
藤戸渡 佐々木備綱の (安夜一ノ三〇)

藤の森 遊女屋 (嬉遊九ノ二九)  
藤袴 秋七草の (如開一六ノ一六)

藤橋

藤原氏

藤原氏 藤原氏 (藤原一七ノ一七)  
太職冠の血脉 (白紳三ノ二二)  
藤原明衡 著書 (南嶺三ノ四)  
藤原有國 以徳報怨 (関次二ノ二)

定家 藤原公輔 (理齊六ノ二四)  
藤原清輔 尚備會 (玉ヲ四ノ三七)  
藤原公相 のうた (松筆二ノ九)

藤原定基

藤原實方 五月の昔蒲葺 (関次四ノ一八)  
藤原實資 (右府) の長壽 (支同三ノ中ノ七)

藤原俊成

藤原輔信

藤原佐世

藤原悻窩

藤原悻窩 小傳 (松筆九ノ一五)  
藤原高房 剛勇 (藤原八ノ二七)  
藤原隆光 著書 (藤原下ノ一一)  
藤原爲兼 のうた (玉ヲ四ノ二六)

藤原爲隆

藤原爲隆 幼童の時歌よむ事  
藤原爲綱 後醍醐天皇の寵を受ける事 (藤原一ノ一)

藤原多子

藤原經房

藤原定家

藤原時平 笑疾 (関次二ノ一六)  
藤原俊明 時平大明神 (二話四五ノ四)  
藤原俊頼 水戸所藏 (藤原一五ノ八)  
藤原長方 藤原の都を復せん事を言ふ事 (藤原四ノ一)

藤原長親

藤原信賴

藤原秀郷

藤原基實

フチ

藤原爲隆 幼童の時歌よむ事  
藤原爲綱 後醍醐天皇の寵を受ける事 (藤原一ノ一)

藤原秀衡

藤原藤房

藤原不比等

藤原道長 権威 (玉ヲ二ノ四)  
藤原通憲 の傳 (比古九ノ二二)  
藤原光親 承久忠臣 (藤原一ノ一七)  
藤原武智麿 名 (藤原一ノ一七)

藤原基方

藤原基實

藤原基光

藤原師賢

藤原保則

藤原保昌

藤原行通

藤原行成

藤原良相

藤原良経

藤原長基

藤原吉野

藤原賴経

藤原賴長

藤原房門

藤村宗徳

藤原基光 (安隨一五ノ二〇)  
藤原師賢 下れるまき (藤原四ノ一六)

藤原保則

藤原保昌

藤原行通 袋に入れらる (幽遠下ノ三三)  
藤原行成 の歌未熟ならざる説 (梅日五ノ五)  
藤原良相 貧乏を養へる事 (藤原一五ノ六)  
藤原良経 横死の事情發見の事 (望海六ノ〇)

藤原長基

藤原吉野

藤原賴経

藤原賴長

藤原房門

藤村宗徳

藤森天山

扶持

綠塗

不定日

婦女

の心性(笑埃三ノ八)
の賢智(隨意七ノ三七)
の強勇なるもの(餘二ノ三二)
の才識(餘三ノ三)

ホトケといふ訓(居龍二八)
を大體といふ(隨一八九ノ八)
の名號(隨一八九ノ八)

佛印

悟道(隨意四ノ四二)
一悟道(隨意四ノ四二)

佛牛花

といふもの(一話一七ノ二三)
の文(玉一四ノ四五)

佛經

說經(隨意三ノ一)
寫經人名考(隨一八ノ二八)
寫經人名考(隨一八ノ二八)

婦女

大坂にて(浪花三四)
の内方(孝經三ノ九)
の稱(玉か七ノ四三)

婦女

の心性(笑埃三ノ八)
の賢智(隨意七ノ三七)
の強勇なるもの(餘二ノ三二)

ホトケといふ訓(居龍二八)
を大體といふ(隨一八九ノ八)
の名號(隨一八九ノ八)

佛印

悟道(隨意四ノ四二)
一悟道(隨意四ノ四二)

佛牛花

といふもの(一話一七ノ二三)
の文(玉一四ノ四五)

佛經

說經(隨意三ノ一)
寫經人名考(隨一八ノ二八)
寫經人名考(隨一八ノ二八)

婦女

の心性(笑埃三ノ八)
の賢智(隨意七ノ三七)
の強勇なるもの(餘二ノ三二)

ホトケといふ訓(居龍二八)
を大體といふ(隨一八九ノ八)
の名號(隨一八九ノ八)

佛印

悟道(隨意四ノ四二)
一悟道(隨意四ノ四二)

佛牛花

といふもの(一話一七ノ二三)
の文(玉一四ノ四五)

佛經

說經(隨意三ノ一)
寫經人名考(隨一八ノ二八)
寫經人名考(隨一八ノ二八)

婦女

の心性(笑埃三ノ八)
の賢智(隨意七ノ三七)
の強勇なるもの(餘二ノ三二)

ホトケといふ訓(居龍二八)
を大體といふ(隨一八九ノ八)
の名號(隨一八九ノ八)

佛印

悟道(隨意四ノ四二)
一悟道(隨意四ノ四二)

佛牛花

といふもの(一話一七ノ二三)
の文(玉一四ノ四五)

佛經

說經(隨意三ノ一)
寫經人名考(隨一八ノ二八)
寫經人名考(隨一八ノ二八)





一ノ字(鹽尻三〇ノ二) (兼焼二ノ六) 漢土の始(鹽尻三九ノ二二) なる事(花月三) 具名目及中人衆名稱(一話三七ノ二) 高瀬(南畝上ノ八) 立(猪牙) 平田(房形) 二挺立、三挺の法度、ちよる(嬉遊二ノ下ノ三、四、五) 猪牙船(伊談八八) 茶(遊二ノ中ノ六) 長崎端午の競渡(嬉遊二ノ中ノ六) 丸石(松筆九二ノ一) 丸木(閑遊四ノ一) (松筆九二ノ一) 獨木(松筆六二ノ四七) 岸形(嬉遊七ノ七) (農塚四二) 茶屋の跡(柳筆上ノ二九) 享保十五年江戸屋形(鹽尻三五ノ二四) 關東川の検査(一話四〇ノ三四) 大阪川口に有之御(一話二ノ三) 朝鮮と我國の構造(一話二四ノ四三) 三木の帆柱を禁せられたる趣意(難江六ノ四四) 安宅丸(嬉遊二ノ下ノ一) (我衣一六〇) 鬼「カル」野野見(梅日三ノ二) 船景(梅日三ノ二) 一の兎(燕石五ノ四)

不佞 一の藥(安隨二ノ九) (一話二一ノ四) 二 といふ事(隨意五ノ四)

●フノ 獣の焼 一又朝餽或ハ助惣といふ菓子(嬉遊一〇ノ上ノ三三)

●フハ ふはく 一、ふはりとしてといふ詞(松筆一〇五ノ四五)

文箱 「フミ」文箱ヲ見ヨ

不破關 (笑埃五ノ一三)

負販 曲禮の字義(談小二ノ三〇)

●フヒ 武備和訓 抄(一話二一ノ一七)

●フヘ 不平 神代卷の字訓(鹽尻二ノ一二) 阜陶萬其善鳴者也(隨意一ノ三八)

●フホ 殺 方太平(松筆九七ノ二二)

●フモ 父母 本生の(玉か)一ノ三三 罵 殺 (松筆一八ノ一八)

●フミ 夫木集 一「シ」を殺せるもの(松筆一〇四ノ九) 「シ」を殺せるもの(松筆一〇四ノ九) 「シ」を殺せるもの(松筆一〇四ノ九) 抄(一話三ノ一五)

文 一といふ名詞(老牛下ノ七) 二「シ」を玉つさといふ(圓珠一三)

文息寸稱麻 銅牌圖及骨董并 墓誌考實(北條上ノ四)

文車 一といふもの(八水一五)

文月漫間記 作者(假世五二)

文厨子 (安隨一七ノ五八)

文箱 (松筆一〇五ノ一六)

踏繪 「ヤン」耶蘇數ヲ見ヨ

踏拔 治す法(喜世三ノ一五)

踏臺 承足(松筆九四ノ二七)

●フモ 書所 御(難江一ノ二六) 書始 御(玉か六ノ五)

籠 一はやま同し(圓珠三〇)

籠の花 解題(麗花ノ二)

●フヤ

ふやかす といふ詞(松筆六四ノ二五)

賦役 漢土の律(談小四ノ四) 軍役無役(松筆六六ノ五八)

夫役錢 小兒の(松筆八四ノ二)

●フユ

冬 初(の)景(鹽尻四〇ノ一七) 冬(即興の詩(鹽尻四四ノ二一)) 俳諧にいふ(年々六ノ一)

冬籠り 九(牛馬四五)

冬牡丹 静論(傍廂三)

●フヨ

附庸國 「エイ」影國ヲ見ヨ

●フラ

フラスコ の名(鹽尻三ノ二六) の字義(兼度二ノ二七) といふ詞(松筆一〇〇ノ三九)

不埒 といふ俗語(隨意七ノ二八)

●フリ ぶりう舞 「フ」風流祭ヲ見ヨ

ぶりがたき といふ詞(松筆五ノ一〇)

ぶり買 又ばてい振(嬉遊二ノ一八)

ぶりがたき といふ玩具(骨董下前ノ五、七)

ぶりく かり玉 (嬉遊六ノ下ノ一)

振りく きてう ぬれる風俗(兎小中ノ三八)

振袖 六尺袖圖説(奇跡二〇)

振出す といふ詞(談小四ノ一〇)

振付る といふ詞(松筆一ノ九、六六、七三)

振分髪 といふ事(松筆一〇三ノ一八)

●フル 鞞鼓 又ばりつみといふ玩具(嬉遊六ノ下ノ三四)

ふる といふ童の戦にもてる具(麗花六九)

ふるとし の義(傍廂六)

古 何々といふ事(松筆九八ノ四)

古廐 尾張名所(鹽尻三五ノ二四)

古金買 享保三年(一ノ七) の惣人数(嬉遊

古着市 高瀬町の状況(都手一)

古着商 高瀬町の起立(嬉遊二)

古くさき といふ詞(幽遠上ノ二)

古郷 の義(玉か四ノ一)

古田織部 の姓(白柳一〇ノ一八)

古田織部 の話(四方花ノ一六)

古田重垣 (談小五ノ二五)

古田城勝 檢校(長頭一三)

古田彌三 賤々坊に其友と組討の事(白秘三〇)

古兵 (松筆九三ノ六九)

古林見宜 の講釋(一話四〇ノ三四)

古札納め といふ非人(農塚五一)

古屋昔陽 (舊)詩(松話一六)

布留瀧 和州(橋巻初ノ四ノ二〇)

●フレ

觸れ といへる詞(昆陽九二)

無禮講 (嬉遊五ノ四)

武烈天皇 御諱名(傍廂九三) 墓誌考(如圖五ノ三)







ハシ

ハシ 入道 (遊遊三ノ五)(奇跡  
五)

ハヤ

ハヤ 曹司(松筆一ノ二)  
ハヤ 曹司(松筆一ノ二)

ハシ

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)  
ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)(同  
筆六〇ノ九)

ハシ

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)  
ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)(同  
筆六〇ノ九)

ハシ

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)  
ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)(同  
筆六〇ノ九)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)

ハシ

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四五)

ハシ といふ詞(遊遊九ノ四三)

**封椿** の制(綴尾六八)  
**布袴** (松筆八七ノ八)  
**奉公** さいふ語の出處(松筆六〇ノ三)  
**奉書** の義(松筆一〇四ノ二六)  
**豊國神社** の廢壞を憾む(梧拾四三)  
**豊藏坊** の書(一話一六ノ一〇)  
**豊心丹** 四大寺(世談四七)  
小一ノ一七 の製法(笈埃八ノ五)(談  
 一の藥法傳來の事(鹽尻三二ノ一七)  
**豊年** 熱荒(一話一五ノ五)  
厨に黒日多き年は(松筆六〇ノ  
 三二)  
 草の生るを考へ年の善惡を知る(松筆一  
 〇五ノ五一)  
享保以來の(梧拾一〇)  
**豊樂亭記** 歐陽脩か(一話三二  
 六)  
**蓬餅** 「ツサ」茶餅ヲ見ヨ  
**蓬萊** (鶴苑六ノ四)(一話八ノ二四)  
飛野を「さいふ」(南留三ノ三二)  
(贈餘四ノ三三)  
**彭祖** の死(鹽尻二六ノ五)  
**鳳足硯** 「ス」硯ヲ見ヨ  
**鳳潭** 「スミ」炭ヲ見ヨ  
**鳳潭和尚** (一話四ノ一四)  
**鳳てん** 緒メにする(一話)の事(昆陽一  
 三四)  
**鳳嶺珠** (筆す上ノ三)

鳳尾蕉 (鹽尻三七ノ一九)  
 鳳凰堂 平等院の(一) (撰書一ノ二〇)  
 鳳輦 「ツル」車ヲ見ヨ  
**北條** の地名(松筆一六ノ一三)  
**北條氏** の略譜(雜江四ノ一)  
里見氏 の印(一話三ノ三四)  
「イセ」伊勢氏ヲモ見ヨ  
**北條篤時** (春淡中ノ二〇)  
**北條安房守** の物語同家沿革の事(自神  
 六ノ一)  
**北條氏眞** 冥福を祈る(笈埃八ノ四)  
**北條氏綱** の連歌(平日三ノ二四)  
**北條氏政** の滅亡(閑歌三ノ一一)  
**北條氏康** 其家の亡ぶるを知る(五濼二  
 ノ二二)  
**北條左衛門大夫** (自神四ノ二) の大  
 剛(一話二ノ四一)  
**北條早雲** 伊勢長氏(鹽尻四八ノ一〇)  
尻三六ノ九 の卒去年月と法名鹽  
 尻三六ノ九)  
**北條時頼** の徴行(支同二ノ四三)(同三  
 ノ中ノ三五)  
臨終の頌(消閑一)  
がいまげの詞(玉一ノ四八)  
**北條むつ** 「陸奥カ」(自神四ノ二)  
 の評(閑次二ノ一〇)  
**北條泰時** 自己の邸宅を築面セ

す(鹽尻四ノ三二)  
 の無欲(驗靈智ノ三〇)  
**捧心方** の序(松筆五二ノ一七)  
**捧腹** さいふ語の出所(一話一七ノ二六)  
(松筆二〇ノ四五)  
**子子** 丁班(我撰二ノ二七)  
入の(閑耕四ノ三八)  
**褒貶**

**ホエ** 歩搖 の義(解遊附ノ一一)  
**ホオ** ほをいろ の本字(鹽尻四二ノ三三)  
**ホカ** ほかす さいふ詞(幽遠上ノ七)  
 穂かけ 七月(一)の日(鹽尻九ノ三七)  
**ホカ** 行器(屠龍二〇) 松筆九一ノ二三)  
**ホキ** ほき 道、の陰道(松筆九ノ五)  
 歩牛 俳人鴉菴 逸話(宮川五ノ九)  
 簞篋内傳 (病問五四)

**ホク** 朴 の字音(柔燭五ノ五)  
 僕 自己をいふ(一話一五ノ三五)  
漢字に用ふ(撈海下ノ二五)  
司馬溫公の事(贈餘四ノ一一)  
「マヒ」奴婢「チウ」忠僕ヲモ見ヨ  
**墨河** 遊女屋扇屋(か智計(蜘蛛一)  
 の評(隨意七ノ三九)  
楊雲論(東屋下ノ七)(贈餘五ノ三三)  
兵法に達す(松筆九九ノ五)  
**墨子** の術(雜未四ノ八)  
**ト筵** 「ツラ」下筵ヲ見ヨ  
**濃議** の義(四方花ノ三二)  
**木牛** 考(三養三ノ二九)  
**木石にあらさ** さいふ事(松筆九一ノ  
 四六)  
**北極** 出地之利(鹽尻五ノ二〇)  
**北瓜** (綴尾九七)  
**北山抄** 別記所在(自神五ノ二四)  
**北辰祭** 神社の星祭(傍廂八二)  
祭(鹽尻三四ノ二七、二  
 八、三〇、三二)(閑次二ノ四四)  
北辰を祭るもの種類を食はず(梅川二ノ  
 三八)  
**北川遺書記** の眞偽(談小一ノ二五)  
**北斗星** (松筆六三ノ一四)

北平 「マツ」松平石見守ヲ見ヨ  
**北面** の侍(秋齋四ノ三)(理齋五ノ九)  
上(松筆一八ノ三  
 五)  
**北里十二時** の評(後言三)(雜後七  
 火口 (松筆六二ノ二二)  
**穆天子傳** の作者(隨意四ノ二〇)  
**饜頭** 「カム」冠ヲ見ヨ  
**黒子** の訓(安隨一ノ三〇)  
脚下の(隨意七ノ九)(松筆五〇  
 ノ三)

**ホケ** 牡荊 さいふ植物(松筆六三ノ三三)  
**木香花** (一話三ノ一四)(昆陽一八四)  
木瓜考(自神考卷五)(白遺考ノ  
 五)(碩鼠一ノ三五)  
**慕景集** 慕景集又は慕景集孰れか、是な  
 る(雜江一ノ四三)  
**法華經** の卷數(世事八〇)  
餘三ノ一七 翻譯の時代(註釋書) 驗  
 餘三ノ一七)  
唐本の(一話四〇ノ二七)  
溫泉寺の(遊京下ノ二二)  
海中より出現の(宮川三ノ一八)  
**法華科註** 三百年前の朝鮮版(南畝下ノ  
 二三)

ほこだち 「ホ」頼ヲ見ヨ  
 ぼこん 又ぼんぼんといふ玩具(婦  
 遊六ノ下ノ三六)(鹽尻一  
 二ノ二)  
**反故** を嘆ふ(松筆九〇ノ二二)  
の圖(松筆一二〇ノ二七)  
神代の「霧島山(安隨二ノ二二)  
鞍馬(安隨二ノ二六)  
「アマ」天逆針ヲ見ヨ  
**矛** 比々羅木の八尋(如蘭五ノ二)  
「ヤリ」鎗ヲモ見ヨ  
**矛竿** 讃岐國に古(玉)を賣りしころの跡  
(玉)「一ノ九  
 誇る 不足なればなり(松筆一〇九ノ二  
 六)

**ホサ** 暮相 「フン」墳墓ヲ見ヨ  
**菩薩** 廿の字(鹽尻三三ノ二七)  
號七人(松筆八八ノ一四)  
本邦の勅許(雜未七ノ三)  
**菩薩淨戒** (鹽尻一一ノ二四、二八)  
**ホシ** 星 の和訓(支同三ノ下ノ三〇)(松筆九五  
 ノ七)  
字三義あり(談小四ノ一八)  
關一遺考(支同三ノ下ノ三〇)  
列宿(茶筆一ノ六)  
の圖を拜す(春波一八)

五星聚るの瑞(續見一〇)
一限天文みだるといへる事(松落四ノ五)

星崎浦 (鹽尻九ノ三)

星祭 (松落三ノ八)
「ホク」北辰祭ヲモ見ヨ

蒲室集 といふ書(一話三三ノ三四)

保科正之 家士(申渡(提燈三ノ二二)
家訓十五條(鹽尻二

露店 ちホシミセといふ(鹽意二ノ二〇)

歩障 (安隨二ノ一九)撈海下ノ(二)

輔直 (松筆八七ノ七)

●ホツ

ほぞち 熟瓜を「ほ」といふ(續遊六ノ

細井廣澤 (開散下ノ三四)

細川澄元 竹像(松筆八三ノ四〇)

細川忠興 父子の履歷(一話四ノ三)

細川藤孝 (幽齋又玄旨法師)の先(鹽尻

●ホテ

箱(四方花ノ八)
巧に人を用ふ(鹽尻九ノ三八)

細川宗教 殿中の病死(半日八ノ七)

細川頼之 退隱(鹽尻二ノ一三)

細太刀 「タリ」刀劍ヲ見ヨ

細野忠兵衛 頼智により細川家事なき

菅提水 渡初(松筆一六ノ四)

菅提樹 實降る(半日三ノ一五)同二四

菅提水 渡初(松筆一六ノ四)

菅提樹 實降る(半日三ノ一五)同二四

火の辨(秋齋二ノ四)

鴨頭草 「ツキ」月草ヲ見ヨ

牡丹餅 (藝苑九ノ九)居龍八

牡丹 深見草(松筆九三ノ三八)

山 一種類(柳筆上ノ一〇)

古いふ ば藪柑子なり(難江三ノ五

本朝愛 事并柳原光綱の「好(閑自

夏季歌(一話二ノ一九)

本朝愛 事并柳原光綱の「好(閑自

本朝愛 事并柳原光綱の「好(閑自

●ホチ

墓地 「フン」墳墓ヲ見ヨ

ぼつこりしんまいも 大阪覽聲の内

渤海 (安隨九ノ二三)

法華宗 「ニチ」日蓮宗ヲ見ヨ

法華堂 「チフ」持佛堂ヲ見ヨ

法曹至要抄 といふ書(餘餘四ノ一七)

沒骨 寫生(昆陽一四八)

●ホテ

堀田正信 家臣の防火に盡力したるを悦

堀田正盛 寛仁(密す七)密追(二七)

穂積 の姓(鹽尻一五ノ一八)

ほて 相撲の「スマ」相撲ヲ見ヨ

ほてい振 (松筆一五ノ五二)續遊一

ほてつ腹 といふ俗語(松筆九四ノ四五)

ほてる さいふ調(清閑八)

布袋和尚 四人あり(清閑八)

の川渡り(南歌上ノ一九)

●ホト

ほとりば 「オハ」男柱ヲ見ヨ

「チウ」中庸ヲ見ヨ

「フツ」佛ヲモ見ヨ

佛 善人なりと稱する事(梅目四ノ三四)

佛作つて魂入れす さいふ事(松筆九)

佛石 (筆中ノ三)

杜鹃 (兼四ノ一八)(松筆六ノ二八)

郭公 (南留五ノ二三)(秋密四ノ一)

時鳥 (玉か四ノ二二)

鴉 (松筆九ノ二四)

香手鳥(雲錦一ノ一三)

生手鳥(雲錦一ノ一三)

下ノ一〇

鶯の子(幽遠上ノ二〇)

鶯の巢に 子もちたるを見し話(折)

高野山の雀 (松筆六ノ九)

禁中に 一なし(閑自二ノ三)

風記 (松筆九四ノ三〇)

側記述 (松筆七三ノ三一)

●ホハ

ぼは 仕損せしを—といふ(橋本初ノ五)

浦拜 さいふ調(愚樓下ノ二二)

甫方 解(鹽尻八ノ二)

●ホヒ

穂日命 (難江七ノ四六)

ほふげづき (松筆八ノ一四)

●ホフ

ほふむる さいふ調(隨意二ノ三)

●ホ

墓標 「フン」墳墓ヲ見ヨ

●ホ

ほゝ の義(辯遊附ノ一三)

ほゝかす さいふ古語(玉か五ノ一〇)

頬 玉か二ノ二

頬被り (辯遊二ノ上ノ二二)(松筆九ノ五)

頬貫 義經の—(白神九ノ一〇)

頬紅 (安樂七ノ二五)(安夜二ノ二二)(瓦)

梅 (松筆九ノ二四)

酸漿 さいふ(圓珠一六)(北遊二ノ一七)

江戶 (還魂下ノ一九、二五)

らし又葱を吹く事(辯遊六ノ下ノ四)

酸漿程な血の涙 さいふ事(奴風三〇)

●ホム

火産靈神 は吉凶の界(玉か四ノ五〇)

●ホヤ

ほや 梅子を—といふ(如蘭四ノ一八)

「ヤト」寄生木ヲモ見ヨ

ほやの妻のいざし (銀屏三三〇)(後言)

二七

穂屋の溝 (銀屏二四)

●ホラ

螺貝 の音(居籠五〇)

縮 の名種々(年々三ノ一六)

●ホリ

ほりかねの井 武藏國

ほりこてふ さいふもの(兎小中ノ一五)

蒲柳 さいふ事(技藝二ノ二九)

堀 泥濘(松筆一五ノ三〇)

堀加賀 さいふ人(談小五ノ二二)

堀勘入 か羨慕のうた(鹽尻三ノ三五)

堀杏巷 (正意)か事(一話八ノ三三)

堀監物 か君の難を救ふ事(駿臺智ノ五)

堀直幸 の履歴(一話四ノ三二)

堀秀政 の小傳(鹽尻三七ノ三七、三六)

堀江氏 の武裝(一話四ノ三三)

堀尾春芳 町の立札を崇ひし事(白秘一九)

堀尾吉晴 勢州 二流の源氏ある事

の姓(白神一〇ノ一八)

の一代塚敷の事(一話三)

堀河天皇 神樂を多近方に傳へ給ふ事

堀河百首 の崩御に疑ある事(鹽尻五ノ七)

堀河夜討 の時日(鹽尻九ノ四〇)

堀越菜陽 狂言作者二三次か事(假世五)

堀出し物 さいふ調(辯遊二ノ下ノ二七)

堀内祖師 (慶徳四八)

堀部武庸 義士安兵衛が書置並館(宮川)

堀割 養子となる事(密す九二)

文身 松平信綱川越野間島のこと(一話二四)

「フン」文身ヲ見ヨ

●ホレ

ほれ さいふ調(松筆九五ノ四〇)

●ホロ

ほろさ さいふ調(松筆九五ノ九四)

ほろく 「コム」虚無僧ヲ見ヨ

ほろゝ 又ほとろさいふ調(難江一ノ八)

ぼろんし 「コム」虚無僧ヲ見ヨ



母衣

考(安隨二二ノ二)(鹽尻一五ノ一)玉(三ノ四五)...

●ホ

ぼんのくぼ 二太刀をばく(安隨四ノ三六)...

本莊宗資

(因幡守)の恭謙(憲二〇八)...

本所

石原の石像(宛小中ノ一五)...

本主

本多氏

本多唐之助

本多重次

本多忠政

本多忠良

本多忠義

本多繼殿左衛門

本多正純

本多正信

の祖先(白紳五ノ二〇)...

本輔任

「ホ」の字義(松筆五ノ一六)...

梵字

悉曇を學ぶ(キ事(病問四七)...

まゐりて 古物語の...  
まゐり下向 (松筆八六ノ四〇)  
一枚と一箇との別 (安隨三ノ四五)  
味諦 (松筆八五ノ三六)

マウ

まうけ 客人のあらし...  
まうろく (松筆一〇四ノ四)  
毛越寺 奥州廢寺...  
毛舉 の字義 (松筆八七ノ三二)  
毛詩 「シキ」詩經ヲ見ヨ  
毛朱 「マエ」鶴ヲ見ヨ  
毛利貞齋 只計席講録 (閑散上ノ二)  
毛利元就 大内義隆の仇を討リし評...  
毛利師就 (主水正) か沈勇 (怒す一九)  
孟卿 の生卒 (隨意八ノ二) (擲海上ノ七)  
孟論 (隨意七ノ二〇) (茶筆二ノ五) (玉  
孟子の學說 (松筆六七ノ一一)  
孟光 の字解并に「の」字を書翰等に用ふ  
る事 (白筆下ノ四二・五二)

孟子 (書名) 孟轲の著...  
孟仲子 (東屋上ノ一七)  
孟八郎 の字義 (松筆下ノ七)  
盲龜浮木 の比喩 (安隨四ノ二九)  
盲人 の五派 (隨意八ノ一六)  
官人 の紫服 (南嶺四ノ四)  
光孝天皇田を置て...  
昔朝廷に扶持し給ひし事 (隨意一〇  
京都にて慶吊に...  
耳三ノ一六)  
夜ノ三ノ五 (嬉遊六ノ上ノ一六)  
の名城宇都宮の事 (嬉遊六ノ上ノ一  
七)  
佐賀川上の...  
は厨又は社の誤 (松筆九七ノ四二)

マオ

マオ といふ語 (安隨四ノ三六)  
間男 「カン」義通「カイ」芥服ヲモ見ヨ  
マカ といふ語 (比古六ノ五〇)  
まかたち 古物語の詞 (安夜五ノ一  
七)  
まかり といふ詞 (松筆七ノ三六)  
まかりを告る といふ事 (安隨二〇ノ  
三)  
摩訶三毒 といふ人 (閑散三ノ二二)  
摩竭 一 飢渴 (隨意七ノ二)  
鞞鞞石 「ツカ」津輕石ヲ見ヨ  
鞞鞞國 (三義四ノ二五)

孟子 (書名) 孟轲の著...  
孟仲子 (東屋上ノ一七)  
孟八郎 の字義 (松筆下ノ七)  
盲龜浮木 の比喩 (安隨四ノ二九)  
盲人 の五派 (隨意八ノ一六)  
官人 の紫服 (南嶺四ノ四)  
光孝天皇田を置て...  
昔朝廷に扶持し給ひし事 (隨意一〇  
京都にて慶吊に...  
耳三ノ一六)  
夜ノ三ノ五 (嬉遊六ノ上ノ一六)  
の名城宇都宮の事 (嬉遊六ノ上ノ一  
七)  
佐賀川上の...  
は厨又は社の誤 (松筆九七ノ四二)

不蒔菜 高野山の... (隨意九ノ二八)  
勾玉 (桂林下ノ二〇)  
勾玉 (筆上ノ二六) (如蘭二七ノ  
八、一〇)  
勾映 (南留五ノ一一)  
眞樺 の義 (安隨一八ノ四八)

マキ

間木 一考 (梅日三ノ二二) (松筆六二ノ  
二二)  
枚 の字 (隨意五ノ四ノ四)  
枚 一考 (安隨二ノ七)  
今諸國定 地 (松筆一〇九ノ三)  
近江國の (閑散一ノ三〇)  
小野の (擁書四ノ二八)  
牧印 (松筆二〇ノ三)  
牧野忠敬 の儉勤 (怒す二二四)  
時繪 (安隨三ノ一八) (世談一六三) (松筆  
泥金畫漆 (長陽七四) (松筆六五ノ一八)  
濃麗彩漆 (藝苑二ノ九)  
平文の (安隨三ノ二四) (一ノ一〇)  
寛永時代の (香介) (話三四ノ四五)

嶺島玄蕃 (白紳一〇ノ一七)  
巻櫛 「タル」櫛ヲ見ヨ  
巻向山 を穴師の山といふ (圓珠三三)  
巻物 と折木の利害 (一話一八ノ三六)

マン

まくなき 源氏物語...  
まくほし といふ詞 (安隨五ノ一〇)  
まくら 「メン」臣ヲ見ヨ  
まくりの製法 (松筆七ノ三二)  
まくれ 一、夕 (松筆六七ノ  
三三)  
幕 (安隨二ノ七)  
の類名 (隨意二ノ二二)  
の乳の敷 (安隨一ノ三六)  
の經引兩の (隨意四ノ五)  
尾州引兩の (理齋五ノ一〇)  
三幅白の (松筆九二ノ五八)  
楣 といふ字 (一話三ノ四五)  
蟻 といふ名 (如蘭一六ノ一〇)  
眞桑瓜 といふ名 (安隨二ノ一一) (嬉  
遊一ノ上ノ二二) (玉カハノ三六)  
真瓜 (藝苑二ノ二二) (松筆九二ノ五八)  
の種を鴻臚館に植る事 (隨意九ノ

枕 (三五)  
「ワリ」瓜「ホソ」ほそちヲモ見ヨ  
の寸法 (筆上ノ一四)  
の高さ (雲錦四ノ二〇)  
の養生 (南嶺下ノ一九)  
「ヨシ」用捨下ノ九)  
「ヨシ」(茅窓中ノ二三)  
枕詞 (玉カハノ一)  
又冠詞 (北邊二ノ一六)  
考種々 (年々五ノ五)  
「コソ」國語ヲモ見ヨ  
枕詞袖几帳 (談小四ノ一九)  
枕簞笥 (用捨下ノ八)  
枕の曲 一、枕師、枕拍手 (嬉遊四  
ノ四二)  
枕草子 (安隨八ノ一九) (安夜四ノ二七)  
(三下ノ四) (松筆四ノ三〇)  
(拾玉四ノ三四)  
の名 (隨意五ノ四ノ六) (如蘭一三ノ  
一一)  
と李義山の雜纂 (年々一ノ二三)  
語釋 (安隨四ノ一)  
枕橋 二つ并へし (假世三ノ一)  
枕引 付扇引、扇切 (嬉遊四ノ一八)  
負るは勝 といふ語 (松筆一〇ノ四〇)  
一〇六ノ一九)  
金鏡魚 と飾の別 (年々三ノ三〇)  
マケ といふ詞 (難江一ノ五二)

負色 (白秘四六)

●マ

馬士

馬かた半かた(居龍五)の名稱西宮記にあり(玉か八ノ二)

孫 さいふ名稱(圓珠六七)

孫若御子神社 考(鹽尻五五)「セイ」誠實ヲ見ヨ

實 さ寔との異同(藍樓下ノ一九)

麻姑の手 搔背把(桂林上ノ一八)(三養二ノ二五)(松筆六ノ一ノ二四)

麻姑射山 (鹽尻二ノ二四)

摩喉羅 「イン」引用書ヲ見ヨ

●マサ

まさか さいふ詞(孝經四ノ二六)(玉かまさかり 八ノ七) 考(圓珠二〇)

麻沙 考(昆陽一三六)

眞青に光る さいふ詞(松筆九六ノ七)

眞木のかつら の説(四方花ノ二六)

政子 尼の經文の跋(松筆八八ノ二)

砂子 さいふ詞、まなこ、すなご皆同し

將落 不學(圓珠九) 考(藍樓下ノ一四)

將無 同 の義(乘燭三ノ一〇)

●マシ

まし さいふ詞(傍廂一六〇)

まして さいふ俗語(安隨八ノ二六)(安ましら 「サル」猿猴ヲ見ヨ)

禁厭 半馬七六(閣上ノ一八)

俗咒方數十(燕石五ノ一七)(雲錦四)

扶鸞(遊入ノ二二)

靈物 中臣稔の(二上三七)

麻疹 「マシ」麻疹ヲ見ヨ

●マス

ます 御座ります杯の(さいふ詞(燕石四ノ七)(橋樁初ノ五ノ二))

ます穂のすき (安隨四ノ三)(閑次ますら男 さいふ名詞(橋樁上ノ五))

樹 の種類(安隨一ノ一六)

大一小(松筆九三ノ三六)

武佐(松筆九三ノ三六)

鱈 ますの魚の字(白筆上ノ三九)

北國の(鹽尻三ノ二四)

増鏡 (安隨一九ノ二六)

の撰者(隣女一ノ二二)

増島金之丞 儒者見習被仰付(半日一〇ノ二六)

増田長次 の戦死(鹽尻三ノ二二)

益形山 武藏(松筆五ノ四)

益田池 和州(松筆五ノ四)

十寸見河東 の傳(奇跡一四四)

眞清田神社 (閑致三ノ一)

●マセ

ませくだ物 (松筆九ノ六)

●マタ

また、 さいふ俗語(橋樁初ノ五ノ二)

またうど (安隨三ノ二)

またかけ 「ヒカ」蕪ヲ見ヨ

またき さいふ詞(安隨一〇ノ二)(二上またき人 さいふ詞(老牛下ノ三三))

又 請人、從者、寮、代官、一かし、ばえ、小者(松筆一〇ノ一)

又六か門 (松筆八五ノ四)

菟野 はソタ、ヒなる事(燕石一ノ三三)

斑 をマタラといふ(理齋五ノ二七)

摩多羅神 (鹽尻二ノ二二)の法(鹽尻三七ノ三)

●マチ

まち (松筆五ノ二二)の像(鹽尻二〇ノ二)

まちかね 小娘を(松筆一五ノ五)

町 今開えの一名(遊遊附ノ九)

町奉行 代官領町屋の支配となる

麻地酒 (爰埃八ノ七)

番木鱈 をマテンといふ(鹽尻四三ノ二)

●マツ

まつにもかゝる さいふ語の格(雄江まつべる さいふ俗語(橋樁初ノ五ノ二))

と竹の節操(不問一六)

あか、落葉(松筆八六ノ三)

の芽を食ふ付小引の事(年々五ノ四)

江戶の名木(松筆八〇ノ二)

一夜(白筆上ノ二八)

上總の蛇(鹽尻四二ノ三九)

「カラ」唐崎松ヲ見ヨ

松井勝信 (丹後守)の機轉(窓追三二)

松江 出雲國の名の起因(白紳七ノ二)

松右衛門 「ヨシ」を食ヲ見ヨ

松を時雨 慈園の(雄江一ノ九)

松岡玄達 本草家(閑致上ノ二)

松岡定孝 の小傳并辭世(宮川一ノ八)

松陰日記 といふ書(雄江上ノ二〇)

松卯 の異名(閑致四ノ一五)

松飾 門松(藝苑六ノ八)(孝同二ノ六)(鹽尻五ノ三)(世談二二)(松落四)



の縁 (安隨二ノ二〇)  
 院 (安隨一五ノ八) 外院 (松筆二〇ノ二)  
 狹物 (松筆九八ノ四)  
 窓 といふ名稱 (燕石一ノ二二)  
 窓の須佐美 解題 (窓三)  
 同 追加 解題 (窓道二)  
 萬止爲 神樂歌の (義 (松筆七)  
 經 救火の號帶 (嬉遊一〇ノ下ノ二)  
 ●マナ  
 まなごの庄司 (幽遠下ノ一〇)  
 魚板 魚をマナといふ (安隨三ノ四〇)  
 真字 假字と (春添上ノ一〇)  
 真名祝 「カ」假字ヲモ見ヨ  
 眞鍋彌助 福島本輔を驚かす (一話一五)  
 眞魚 粕漬の (鷹塚四六)  
 眞目堅間小船 (安隨九ノ一四)(二上)  
 眞瀨道三 元日細巴言(言遣)した  
 學び さいふ器の解釋 (雖江五ノ三)  
 眞部詮房 (談小二ノ四八)  
 ●マニ  
 まに といふ詞 (雖江四ノ四七)  
 まにまに といふ詞 (安隨二ノ四四)(傍  
 間にあはず さいふ詞 (孝經四ノ一五)  
 ●マ子  
 まねくる さいふ詞 (松筆八ノ一四)  
 眞似 他人のよきより親の悪き  
 (松筆八五ノ六二)  
 招く 又チラグといふ詞 (圓珠二九)  
 ●マ  
 眞野長者 (笑埃七ノ三〇)  
 眞野時綱 の撰書 (南嶺三ノ一七)  
 ●マハ  
 まはり 菜を (さいふ (玉か 五ノ一  
 さいふ (梅日四ノ三五)  
 さいふ 菜ヲモ見ヨ  
 まはり振舞 (松筆六一ノ一四)  
 ●マヒ  
 まひ 耻かまひ等の (安隨九ノ一)  
 間人 (支同三ノ上ノ六)  
 眞人 (安隨四ノ一八)(支同三ノ上ノ四)  
 眞人興能 さいふ清直と同人なる老 (孝  
 眞日中 といふ詞 (松筆九六ノ五)  
 舞 「ウカ」舞樂ヲ見ヨ  
 舞 糸卷、一、ば (松筆一一五ノ七)  
 舞子 籠はらひ (嬉遊九ノ三三)  
 舞茸 (松筆九六ノ一二)  
 舞姫 (松筆六五ノ二八)

賄賂 「ツイ」賄賂ヲ見ヨ  
 ●マフ  
 まふ (三養二ノ二八)  
 まふし の解 (安隨六ノ三二)(松筆九五  
 まふり (松筆一四ノ一九)  
 眞淵 に二人あり (如蘭二ノ一三)  
 舞房 といへる鍛冶 (松筆九七ノ三六)  
 ●マ  
 前 と「サキ」の義又後をサキといふ (玉  
 前がき といふ器 (松筆一〇三ノ四七)  
 前句付 川傍柳三編序(一)話四三ノ二八  
 前掲け 「ウカ」懐中物ヲ見ヨ  
 前田 本郷加州郡に地を擁りて城壘を  
 集四七) 得たり (死小中ノ二〇三)(死  
 前田加賀守 の德行 (梧拾二〇)  
 しを笑ひし者を對せんまじし事 (自秘  
 五五)  
 前田慶二 郎 の文學 (茶筆三ノ二)  
 前田玄以 の影像と洛東文珠院 (鹽尻三  
 七ノ四〇)

前田綱紀 の行狀 (梧拾二三)  
 前田利家 の履歴 (一話四ノ二五)  
 前田利長 の官位 (鹽尻八ノ一〇)  
 前田利昌 (采女) 織田勝物を殺害の事  
 「オタ」織田秀親ヲ見ヨ  
 前垂れ (嬉遊二ノ上ノ二九)  
 町家の女子供の (實天三)  
 前原權現 の靈現 (宮川三ノ二)  
 前物 「ウカ」料理ヲ見ヨ  
 前わたり (嬉遊九ノ七)  
 ●マホ  
 まほ 飯を (松筆八ノ一七)  
 まぼろし ならずもたつれ來りといふ事  
 (松筆七八ノ二三)  
 マホメット 嗎哈獸傳 (如蘭一一七)  
 ●マ  
 ま 假を (おる下ノ一八)  
 ま 假父母を (善慈二ノ五)  
 ま 假父母を (松筆九四ノ一  
 二)  
 眞木弓 (二上六八)(老牛中ノ一五)  
 眞子 と結婚 (鹽尻三ノ九)  
 眞母 眞家子との話 (梅邊一四)

眞間 (こな) (如蘭三ノ一七)  
 眞間橋 (南嶺二ノ二三)  
 ●マミ  
 猫 さいふ歌 (笑埃八ノ九)(見小上ノ三九)  
 一穴考 (年々六ノ八)  
 狸穴 江戸地名考 (見小上ノ三九)  
 眞宮敦信 (左衛門尉)の事 (一話一三ノ  
 三四)  
 ●マム  
 蛟蛇 漢文「記 (醜上ノ二五)  
 反鼻のさしたる時の事 (閑次四ノ  
 三)(松筆七ノ三三)  
 江戶近傍に 生せざる事 (鷹塚七八)  
 眞結 「ムス」結方ヲ見ヨ  
 ●ママ  
 まめ さいふ詞 (柳記上ノ一七)  
 まめ人 「ケン」君子ヲ見ヨ  
 まめやか物 「イン」陰蓋ヲ見ヨ  
 豆 大阪の一種 (浪花一七)  
 藤 (藤元) (三養三ノ二一)  
 一、貯ふる法 (一話二ノ四一)

豆 小の降りたる事(茶筆一ノ二)

豆藏 (嬉遊九ノ五二)(龍花五八)

豆奴 (花三三)

マモ 守札 (秋齋二ノ八)

守り縫 (嬉遊八ノ一一)

守り刀 (松筆九ノ六二)

マム 守り符 (松筆九ノ三四)

守り符 (松筆九ノ三四)

守り符 (松筆九ノ三四)

守り符 (松筆九ノ三四)

守り符 (松筆九ノ三四)

守り符 (松筆九ノ三四)

守り符 (松筆九ノ三四)

守り符 (松筆九ノ三四)

守り符 (松筆九ノ三四)

守り符 (松筆九ノ三四)

男の「かぬき」(玉か二ノ三)(安隨一ノ二)
公卿の「」(話二ノ二二)
女の「」(松筆五ノ五)
柳川の「」(松筆九ノ二八)
長崎の「」(松筆九ノ三)
眉戸自女 (松筆六五ノ二三)
蘭紙 (松筆七八ノ三七)
代墨村 上野國 (昆陽一六五)
マヨ 迷ひ「メイ」迷信ヲ見ヨ
迷ひ神 (龍尻四九ノ一五)
マラ 摩羅 (松筆一ノ二)
マリ まり「モヒ」鐘ヲ見ヨ

鞠 手「」(骨董下ノ後ノ三〇)

鞠唄 (松筆九ノ六二)

摩利支天 (龍尻五ノ二二、四六ノ二三)

マル まるすげ といふ草(玉か二ノ一九)

丸にやの字 (柳記下ノ六一)

丸橋忠彌 (松筆二ノ三四)

丸山權太左衛門 (奇跡三ノ一)

丸山 本郷の地名(燕石三ノ二二)

丸山應舉 (曲漫中ノ一一)

丸 稀なるもの(關秋二六)

丸 稀なるもの(關秋二六)

マ

麻呂 通稱(隨意二ノ一二)(年々一ノ六)

マワ 間わたし「マロヒ」ヲ見ヨ

マツ 麻黄 とタチ(善卷一ノ一九)

マン まんざら といふ詞(嬉遊九ノ四二)

まんざら といふ詞(嬉遊九ノ四二)

まんざら といふ詞(嬉遊九ノ四二)

まんざら といふ詞(嬉遊九ノ四二)

まんざら といふ詞(嬉遊九ノ四二)

まんざら といふ詞(嬉遊九ノ四二)

まんざら といふ詞(嬉遊九ノ四二)

まんざら といふ詞(嬉遊九ノ四二)

まんざら といふ詞(嬉遊九ノ四二)

まんざら といふ詞(嬉遊九ノ四二)

まんざら といふ詞(嬉遊九ノ四二)

まんざら といふ詞(嬉遊九ノ四二)

まんざら といふ詞(嬉遊九ノ四二)

まんざら といふ詞(嬉遊九ノ四二)

まんざら といふ詞(嬉遊九ノ四二)

まんざら といふ詞(嬉遊九ノ四二)

まんざら といふ詞(嬉遊九ノ四二)

萬葉集

と夫木鈔(三卷三ノ一三)

の撰と其名、四種の書式

(龍尻二ノ一五)

の撰(安隨四ノ二八、六ノ一五)

の撰(龍江四ノ六二)

の撰(龍江四ノ六二)

の撰(龍江四ノ六二)

の撰(龍江四ノ六二)

の撰(龍江四ノ六二)

の撰(龍江四ノ六二)

の撰(龍江四ノ六二)

の撰(龍江四ノ六二)

の撰(龍江四ノ六二)

の撰(龍江四ノ六二)

の撰(龍江四ノ六二)

の撰(龍江四ノ六二)

の撰(龍江四ノ六二)

の撰(龍江四ノ六二)

の撰(龍江四ノ六二)

の撰(龍江四ノ六二)

萬葉集

中の反歌(閑次二ノ四三)

書と今はえやすくなる事(玉か二ノ三四)

の古本(筆す中ノ二六)

俊成定家の書る「」の事(玉か二ノ三四)

古「」の序(年打下ノ廿一)

撰加(略語下ノ三三)

抄(一話一七ノ三三)

萬葉集選要抄 与非選要抄の事(消々二〇)

萬葉拾穂 抄録(一話三三ノ二〇)

萬葉抄 (遊京下ノ八)

萬葉類林 (閑次二ノ四三)

萬歳 (嬉遊五ノ一七)(三卷一ノ三)(龍尻七ノ三)

萬歳 (松筆六ノ一五)

萬歳 (松筆六ノ一五)

萬歳 (松筆六ノ一五)

萬歳 (松筆六ノ一五)

萬歳 (松筆六ノ一五)

萬歳 (松筆六ノ一五)

萬歳 (松筆六ノ一五)

萬歳 (松筆六ノ一五)

萬徳寺 の號(鹽尻四八ノ一八)  
 萬人講 「千人講(梅日四ノ三二)」  
 萬年艸 (橘菴二ノ四ノ九)(世談六二)  
 萬八 「サケ」酒ヲ見ヨ  
 萬福寺 山城宇治 一の建築村(鹽尻四五ノ一六)  
 萬平 百姓 一の長壽(安隨三ノ中ノ一一)  
 萬兵衛 小西 一生駒 一の(談小一ノ四三)  
 満願寺 尾州中島 一の木尊と寶物鹽尻四五ノ六)  
 満足 (鹽尻二ノ九)  
 蔓椒 人生待足何時足の句(餘餘四ノ二八) 足る事を知るといふ事(玉一ノ三三)  
 曼陀羅 といふもの(長陽七五)  
 曼陀羅 天竺 一の(爰埃八ノ五)  
 曼荼羅講寺 名義集(安隨四ノ一一)  
 曼陀羅講寺 尾州栗原 一の(鹽尻五二ノ一五)に遊ぶ(鹽尻三ノ八ノ六)(爰埃四ノ八)  
 曼陀羅 朝鮮朝(世談五五)  
 曼頭 一文字(遊遊一〇ノ上ノ二九)  
 曼頭 (五談二ノ二〇)  
 曼頭 船(鹽尻一〇ノ一三、一五)  
 曼頭 一の初(梅日二ノ二〇)(我衣一七)  
 曼頭 十字を賜ふ(理齋四ノ〇)  
 曼頭 十字と異り(鹽尻一〇ノ二二)  
 曼頭 天王寺村 一の造らす(橘菴二ノ二ノ一四)  
 曼頭 店の看板(我衣一七)  
 曼頭 (世談三五)

政所 (松筆四ノ一八、八三ノ四五)  
 間人郷 備中國 一の地名考(老牛中ノ四)  
 翻車魚 一名うき(提醒五ノ一一)(筆寸中ノ四)  
 ミ  
 ミ 一「ミ」と相通(安隨一ノ二七)  
 ミ 山、みよし野、みくま野等の一の字(松筆六七ノ七)  
 風をいたみ等の一の字(松筆一三ノ一七) 人を御といひ自己をといふ(遊遊附ノ七)  
 ミ  
 ミ 苗裔を といふ(老牛下ノ二六)  
 ミ みるか といふ古語(異珠一八)  
 ミ みる木 (松筆二ノ二二)  
 御明 (松筆九五ノ九一)  
 ミ  
 ミ 三井寺 園城寺の鐘の山縁(鹽尻一四ノ五)  
 山門の附第となる(鹽尻三ノ四)  
 正法寺觀音の事(鹽尻七ノ一六)  
 燒失(松筆一八ノ四一)

三井寺 諸曲 一の文句(幽遠下ノ一)  
 木乃伊 考(三養四ノ三二)(難江五ノ一五)(閑歌一ノ一五)  
 見入れる といふ詞(松筆九五ノ八七)  
 ミウ  
 ミウ 三浦五郎右衛門 一の事并公實嚴秘録の正誤(長春上ノ三〇)  
 三浦浄心 の小傳(そやろ一)  
 一の辛去年月法號(辯遊附ノ九)  
 三浦道寸 和歌の徳によりて官を得(鹽尻三ノ一三)  
 三浦爲春 一の共著書大笑記(柳記上ノ四)  
 三浦梅園 (安貞)の小傳(梅菴首)  
 三浦義明 一の年輪(閑歌二ノ一四)  
 ミオ  
 ミオ み茂 といふ詞(比古三ノ三六)  
 漆杭 (世談一七八)  
 漆標 (安隨一九ノ四)(閑次三ノ一七)  
 三尾 谷四郎 (牛馬三二)

三面村 越後國 一の話聞入(兼葎三ノ一〇)  
 身重 といふ詞(眠雲一ノ二四)(談小五ノ六)  
 身をしる雨 といふ事(松筆八ノ一)  
 ミカ  
 ミカ いかど 「テン」天皇ヲ見ヨ  
 ミカ いかはやうど (傍州一〇三)  
 靈魂 「レイ」ヲ見ヨ  
 見かけ倒し (松筆一〇九ノ三〇)  
 御蔭山 また桂葵なとる山の事(玉一ノ七)  
 三笠付け の流行と停止(我衣三五)  
 三笠山 の名(秋齋二ノ二六) 仲鷹のうた(一話一七ノ二二)  
 三河後風土記 正 一の偽作と改(松筆一二ノ三七)  
 三河國 の地勢と英雄(梧拾四〇) 一の諸神社(鹽尻四八ノ三二)  
 三河七家 の風俗(松筆一〇四ノ三二)  
 三河人 信長の經營多くは 一の手になる(梧拾三〇)  
 三上山 兩度天下を取る(梧拾三九) 一の兩燈并百足山の評(曲漫上ノ二二)

味方 の本字(松筆一ノ三二)  
 味方原戦 (白柳二ノ二二)  
 美甘郷 美作國 一の名(老牛中ノ八)  
 蜜柑 長崎の類(奴風三三) 李夫人といふ(大阪城)の大樹(爰埃八ノ一)  
 蜜柑 益(梅日一ノ一七)  
 蜜柑酒 (松筆一〇三ノ四八) 稱贊文(兼葎一ノ五)  
 ミキ  
 ミキ みきはの櫻 「サケ」櫻ヲ見ヨ  
 右 水戸家にて士名に一の字を除きし事(談小一ノ五)  
 右左口村 「ウハ」ヲ見ヨ  
 三木牛之助 の剛勇(一話四ノ四二)  
 造酒司の大とじ の怪事(鹽尻一四ノ七)  
 砌 の義(松筆三ノ五四)  
 ミク  
 ミク 御くま (松筆九三ノ七四)  
 御藏 といふ役人(松筆一〇四ノ二八)  
 三熊海堂 の畫(一話三六ノ三二)  
 三熊思孝 一の櫻花の寫生(假世五七)

水分の神 吉野 一の(玉一ノ二二五)  
 見雲真人 (孝經二ノ一五)  
 美久理 神廟の祭田を古語に 一の(隨意六ノ一六)  
 釋迦牟尼佛氏 「ニク」にくるベヲ見ヨ  
 見苦しきもの (閑歌三三、二六)  
 ミク  
 ミク 眉間尺 (松筆六七ノ四九、七五ノ六五)  
 ミコ  
 ミコ このむら の義(安隨五ノ四)  
 みこししき といふ詞(上四七、安隨九ノ三四)  
 みごろ 衣の 一の(松筆九六ノ八八)  
 筮女 「カン」巫覡ヲ見ヨ  
 御輿洗 (藝苑七ノ二)  
 神輿押御徒頭 (達) 一の(話二九ノ二六)  
 神輿山 尾州 一の(鹽尻九ノ四七)  
 親王代 のよみ方(松筆七三ノ三一)  
 尊と命 ミコトの語源(南留四ノ一六) 一の別(北邊三ノ六)(筆寸下ノ二三)  
 神名に用ふる 一の(安隨一九ノ六)(同四ノ一八)

命と尊(松筆九〇ノ二〇) 尊御事(松筆九二ノ六) 御子左(安隨八ノ二二)(安夜四ノ一五)

御庄司(鹽尻三三ノ一三) 鷗(トミサコ) 鷗(トミサコ) 鷗(トミサコ) 山陵(サン) 三猿(松筆七六ノ八)

みしやれかつたい(といふ詞(嬉遊九 三島驛)の水心記(遊京上ノ二) 三島驛(「ココ」麻サ見) 三島神社(の文書(一話九ノ二九) 三島明神(孝經一ノ一六) 三島後(應道(器延の記)の文(一) 御島(丹後國(茨城七ノ二) 御宿氏(松筆九三ノ八)

御臺所(フチ婦女の稱ヲ見) 御執(安隨一ノ一三) 御手洗川(名(難江三ノ九四)の生洲(雲錦一ノ一) 見九京物語(解題(温知叢書第九編ノ内) 三田八幡(尊海二四) 三田通子(の才學(窓す一二九) 三田茂左衛門妻(のうた(松話三四) 彌陀窟(伊豆手石村(松筆七二ノ一) 彌陀の手糸(世事四九) 恩澤(安隨一ノ三五) 靈のふゆ(又みたまふり(如蘭二八ノ二) 亂れ箱(居龍五)

御修法(松筆一〇〇ノ五〇)の読みと名目(安隨一ノ二二、五 十二ヶ月の修行(年々五ノ一七) 店(嬉遊一ノ二) 見せ衣(松筆九六ノ三四) 見せばや草(といふ草名(閑自三ノ一三) 観せ物(嬉遊七ノ二九、二九) 兩國橋(松筆二ノ五五) さんだ(松筆三ノ三七) 大女房(松筆四ノ三〇) 四國路の達磨男(松筆五ノ一〇) 鼻にて笛を吹く(其他色々(嬉遊一ノ一八) みるなはず(看行を(江三ノ七) みるひめ(安隨一ノ三、四ノ六)

御修法(松筆一〇〇ノ五〇)の読みと名目(安隨一ノ二二、五 十二ヶ月の修行(年々五ノ一七) 店(嬉遊一ノ二) 見せ衣(松筆九六ノ三四) 見せばや草(といふ草名(閑自三ノ一三) 観せ物(嬉遊七ノ二九、二九) 兩國橋(松筆二ノ五五) さんだ(松筆三ノ三七) 大女房(松筆四ノ三〇) 四國路の達磨男(松筆五ノ一〇) 鼻にて笛を吹く(其他色々(嬉遊一ノ一八) みるなはず(看行を(江三ノ七) みるひめ(安隨一ノ三、四ノ六)

味噌(といふ名(一話一五ノ三〇)(鹽尻七 八ノ二) 味噌汁(の効能(閑次四ノ一〇) 味噌すり僧(技援二ノ一三) 味噌直し草(の効用(塵塚九三) 味噌豆(松筆九五ノ三九) 溝(又うなて(圓珠三五) 晦日(大日本史月晦の誤(如蘭五ノ五) 御衣木(檀園下ノ三四) 稜(「ハラ」破ヲ見)

浪教(トホカミエミタマ(安隨一〇ノ二五) (多波中ノ一九)(二上八五)老牛上 鶴鶴(松筆九一ノ一七) 御園氏(御醫録(筆す下ノ二二) 御菩薩池(の地藏會(雲錦四ノ二六) 箕田(の稱(松筆七八ノ九四)

御臺所(フチ婦女の稱ヲ見) 御執(安隨一ノ一三) 御手洗川(名(難江三ノ九四)の生洲(雲錦一ノ一) 見九京物語(解題(温知叢書第九編ノ内) 三田八幡(尊海二四) 三田通子(の才學(窓す一二九) 三田茂左衛門妻(のうた(松話三四) 彌陀窟(伊豆手石村(松筆七二ノ一) 彌陀の手糸(世事四九) 恩澤(安隨一ノ三五) 靈のふゆ(又みたまふり(如蘭二八ノ二) 亂れ箱(居龍五)

御修法(松筆一〇〇ノ五〇)の読みと名目(安隨一ノ二二、五 十二ヶ月の修行(年々五ノ一七) 店(嬉遊一ノ二) 見せ衣(松筆九六ノ三四) 見せばや草(といふ草名(閑自三ノ一三) 観せ物(嬉遊七ノ二九、二九) 兩國橋(松筆二ノ五五) さんだ(松筆三ノ三七) 大女房(松筆四ノ三〇) 四國路の達磨男(松筆五ノ一〇) 鼻にて笛を吹く(其他色々(嬉遊一ノ一八) みるなはず(看行を(江三ノ七) みるひめ(安隨一ノ三、四ノ六)

御修法(松筆一〇〇ノ五〇)の読みと名目(安隨一ノ二二、五 十二ヶ月の修行(年々五ノ一七) 店(嬉遊一ノ二) 見せ衣(松筆九六ノ三四) 見せばや草(といふ草名(閑自三ノ一三) 観せ物(嬉遊七ノ二九、二九) 兩國橋(松筆二ノ五五) さんだ(松筆三ノ三七) 大女房(松筆四ノ三〇) 四國路の達磨男(松筆五ノ一〇) 鼻にて笛を吹く(其他色々(嬉遊一ノ一八) みるなはず(看行を(江三ノ七) みるひめ(安隨一ノ三、四ノ六)

御修法(松筆一〇〇ノ五〇)の読みと名目(安隨一ノ二二、五 十二ヶ月の修行(年々五ノ一七) 店(嬉遊一ノ二) 見せ衣(松筆九六ノ三四) 見せばや草(といふ草名(閑自三ノ一三) 観せ物(嬉遊七ノ二九、二九) 兩國橋(松筆二ノ五五) さんだ(松筆三ノ三七) 大女房(松筆四ノ三〇) 四國路の達磨男(松筆五ノ一〇) 鼻にて笛を吹く(其他色々(嬉遊一ノ一八) みるなはず(看行を(江三ノ七) みるひめ(安隨一ノ三、四ノ六)

御修法(松筆一〇〇ノ五〇)の読みと名目(安隨一ノ二二、五 十二ヶ月の修行(年々五ノ一七) 店(嬉遊一ノ二) 見せ衣(松筆九六ノ三四) 見せばや草(といふ草名(閑自三ノ一三) 観せ物(嬉遊七ノ二九、二九) 兩國橋(松筆二ノ五五) さんだ(松筆三ノ三七) 大女房(松筆四ノ三〇) 四國路の達磨男(松筆五ノ一〇) 鼻にて笛を吹く(其他色々(嬉遊一ノ一八) みるなはず(看行を(江三ノ七) みるひめ(安隨一ノ三、四ノ六)

御修法(松筆一〇〇ノ五〇)の読みと名目(安隨一ノ二二、五 十二ヶ月の修行(年々五ノ一七) 店(嬉遊一ノ二) 見せ衣(松筆九六ノ三四) 見せばや草(といふ草名(閑自三ノ一三) 観せ物(嬉遊七ノ二九、二九) 兩國橋(松筆二ノ五五) さんだ(松筆三ノ三七) 大女房(松筆四ノ三〇) 四國路の達磨男(松筆五ノ一〇) 鼻にて笛を吹く(其他色々(嬉遊一ノ一八) みるなはず(看行を(江三ノ七) みるひめ(安隨一ノ三、四ノ六)

みちやみ(といふ詞(松筆一〇〇ノ五) 道の師(支同三ノ上ノ五) 道のぬかりの馬ざくり(といふ事(松 三七) 道の者(「イウ」遊女ヲ見) 道深も芳(武俗三) 道行(といふたひ物(松筆一五ノ五六) 陸奥(「ムツ」陸奥ヲ見)

みちやみ(といふ詞(松筆一〇〇ノ五) 道の師(支同三ノ上ノ五) 道のぬかりの馬ざくり(といふ事(松 三七) 道の者(「イウ」遊女ヲ見) 道深も芳(武俗三) 道行(といふたひ物(松筆一五ノ五六) 陸奥(「ムツ」陸奥ヲ見)

みちやみ(といふ詞(松筆一〇〇ノ五) 道の師(支同三ノ上ノ五) 道のぬかりの馬ざくり(といふ事(松 三七) 道の者(「イウ」遊女ヲ見) 道深も芳(武俗三) 道行(といふたひ物(松筆一五ノ五六) 陸奥(「ムツ」陸奥ヲ見)

みちやみ(といふ詞(松筆一〇〇ノ五) 道の師(支同三ノ上ノ五) 道のぬかりの馬ざくり(といふ事(松 三七) 道の者(「イウ」遊女ヲ見) 道深も芳(武俗三) 道行(といふたひ物(松筆一五ノ五六) 陸奥(「ムツ」陸奥ヲ見)

みちやみ(といふ詞(松筆一〇〇ノ五) 道の師(支同三ノ上ノ五) 道のぬかりの馬ざくり(といふ事(松 三七) 道の者(「イウ」遊女ヲ見) 道深も芳(武俗三) 道行(といふたひ物(松筆一五ノ五六) 陸奥(「ムツ」陸奥ヲ見)

みちやみ(といふ詞(松筆一〇〇ノ五) 道の師(支同三ノ上ノ五) 道のぬかりの馬ざくり(といふ事(松 三七) 道の者(「イウ」遊女ヲ見) 道深も芳(武俗三) 道行(といふたひ物(松筆一五ノ五六) 陸奥(「ムツ」陸奥ヲ見)

みちやみ(といふ詞(松筆一〇〇ノ五) 道の師(支同三ノ上ノ五) 道のぬかりの馬ざくり(といふ事(松 三七) 道の者(「イウ」遊女ヲ見) 道深も芳(武俗三) 道行(といふたひ物(松筆一五ノ五六) 陸奥(「ムツ」陸奥ヲ見)



有輕重(松筆六五ノ二一)  
 水車 用ひたる(隨意六ノ四四) 屠龍二九  
 櫻町院 火を神祇道に尋ねらる(閑自一ノ一〇)  
 風早大納言の冷水の話(鹽尻一八ノ八)  
 中鹽味の比喩(鹽尻二二ノ二二)  
 律僧必しを流(松筆七二ノ一九)  
 水上げ 上頭(世談一六九)  
 水揚器 さいふ詞(松筆九七ノ一四)  
 水飴 (昆陽七六)  
 水祝 圖説(擁書一ノ二九)  
 水入 の事(婚遊八ノ二二)  
 水入 の異名(孝經四ノ三六)  
 水驛 (春濤中ノ五)(安隨一九ノ五八)  
 水をさす といふ俗語(松筆六六ノ七二)  
 水鏡 (安隨一九ノ一五)(松筆八四ノ二三)  
 水鏡 解題(比古八ノ二二)  
 水瓶 (松筆九四ノ二二)  
 水瓶 に魚を入置くの利(婚遊二二ノ三五)  
 水轉 (松筆一〇〇ノ二九)  
 水辛 (橋本二ノ三〇七)  
 水木辰之助 (おろ中ノ六)  
 同人肖像(奇跡六五)  
 ヲ鉛蹄の狂言并

水清無魚、人察無徒 さいふ事(松筆八三ノ五五)  
 水葦 筆をさいふフテ筆ヲ見ヨ  
 水草の岡 (玉かノ一〇)  
 水草 に粉はしきもの(傍廂一一七)  
 水ぐむ さいふ詞(松筆九二ノ五四)  
 水車 初と其製造(世談一七九)  
 春米(松筆一六ノ五)  
 詩、水車(松筆一六ノ五)  
 「コト」遊川の(ヲ見ヨ)  
 水漉籠 (松筆一〇四ノ四)  
 水漉石 海井鑿名レキステイン (藝苑二ノ二二)  
 水乞鳥 考(極蘭上ノ二)  
 水垢離 兩國の景況(都手一〇)  
 水鳥 肥後(筆す下ノ二六)  
 水谷家 備中松山城主の斷絶(松筆六五ノ三五)  
 水谷勝隆 (談小五ノ二六)  
 水谷琢元 の盛正(假世三九)  
 水溜桶 火の川心の(南敵上ノ八)  
 水足平之允 奇才祖孫を驚かす(閑散下ノ二二)(假世四九)  
 水帳 は御帳帳なり(安隨一ノ六六)(南留田文(一話二五ノ九)(松筆八六ノ五三)  
 天正の(一話二六ノ一八)  
 水手 (松筆一〇七ノ八〇)

水野氏 尾張(鹽尻四八ノ一)  
 三ノ五)の先(鹽尻二〇ノ九、四)  
 東福寺長老 を救ふ(白神六ノ二二)  
 水野秋彦 傳記(如蘭二九ノ一五)  
 水野十郎左衛門 御咎一件(一話一ノ一三)  
 水野忠邦 (越前守)か改革の標(寛天一六)  
 水野忠政 の室の母(鹽尻三六ノ二三)  
 水野忠重 (和泉守)の横死(一話三ノ一)  
 水野忠善 の子息具足初の事(笠す四八)  
 嫌疑をうけ切腹の事(白神三ノ三〇)  
 水野義風 雨乞のうた(茶筆四ノ一)  
 水隨方圓器 さいふ語の出處(安隨一九ノ一三)(鹽尻二〇ノ一三)  
 水瀧 漢字(松筆七八ノ九)  
 水引 (安隨三ノ一七、四五)(同九ノ一)(世談八三)(談正七三)  
 紅白の(南敵上ノ七)  
 水引餅 「ワト」温飯ヲ見ヨ  
 水向 (松筆六六ノ四〇、八七ノ三八)  
 水本成美 墓碑銘(如蘭一〇ノ二五)  
 水牢 「ラウ」牢獄ヲ見ヨ  
 水蠟燭 「ラフ」蠟燭ヲ見ヨ

水論 といふ事(松筆一一ノ五)  
 三井氏 の家系(柳菴一ノ二八)  
 三井親和 書家(九)の死去(一話二三つか一つ)といふ事(年打上ノ六八)  
 三日坊 (足新一ノ五八)  
 三ツ具足 (玉か八ノ三〇)  
 三ツ子 (論餘五ノ一七)  
 三ツ兒の魂白まで といふ諺(松筆九六ノ二〇)  
 三ツの冠 (松筆九五ノ四六)  
 三ツの柏 (安隨一〇ノ一八、一八ノ四八)  
 三ツは四ツは (二上七五)  
 三ツ葉の賢木 (鑑曆三〇)  
 三ツ叉 三又口と詩に作れる事(一話四ノ一六)  
 三ツ物 (若指三ノ一四)  
 三ツ指 (薔花一八)  
 瑞籬 さいふ詞(圓珠一九)  
 「ヒモ」神籬ヲ見ヨ  
 瑞穂國 といふ名(昆陽五一)  
 觀 (撈海下ノ三四)  
 密教 の修法(北邊四ノ二四)  
 密書 「シヨ」書狀ヲ見ヨ  
 密賣女 「イン」淫賣女ヲ見ヨ

蛟 代一説(一話一四ノ三六)  
 御綱助 (安隨六ノ四)  
 鬢 「カミ」鬢の風ヲ見ヨ  
 ●ミテ  
 御幣 「ハイ」幣帛ヲ見ヨ  
 みでの宮 (奴風三三)  
 ●ミト  
 みどりの洞 (松筆七八ノ二六)  
 みどろし (松筆七五ノ一七)  
 みとのまくはひ さいふ詞(南留二ノ一)  
 爲夫婦の字(安隨一ノ四五)(安夜一ノ三)  
 水戸 といふ名(談小五ノ二九)  
 の古圖(談小一ノ五)  
 美登志路 といふ語(碩鼠一五ノ二六)  
 ●ミナ  
 みなの川 (松筆一〇ノ二〇、一〇六ノ六)  
 菜川(松筆一五ノ二二)  
 南 さいふ詞(玉か八ノ一三)  
 南方刀美神社 「スハ」諏訪神社ヲ見ヨ  
 南殿 (玉か一四ノ四)

南の方 といふ婦女の稱(松筆四ノ二二)  
 實なし栗 俳書抄録(一話四ノ二)  
 孤子 を憐める歌(鹽尻五〇ノ二六)  
 水無瀬川 (松筆七ノ一二)  
 水無瀬殿 造りかへ御わたまし(玉か二ノ一〇)  
 水無瀬宮 (笈埃六ノ五)  
 港 ミットといふ名(燕石一ノ二二)  
 港川碑 光園建碑(隨意三ノ一)(年打上ノ二九)  
 源實朝 鎌倉右大臣(極蘭上ノ二〇)  
 同上の名帝より給へる事(玉か一ノ二三)  
 大船を造りし説(茶筆二ノ二〇)  
 遭難の識(玉か四ノ一四)  
 源順 野宮歌合の判者(理河六ノ二三)  
 源順文集 に付(白筆上ノ五五)  
 源爲朝 の祠(鑑曆二二)  
 八丈島 の子孫(春濤下ノ一八)  
 源齋頼 遺物并圖(南敵下ノ一二)  
 源範頼 東光寺の蒲櫻並古碑(支同三ノ下ノ二二)  
 源道濟 の綽名(幽遠下ノ一一)

**源満仲** 略傳(鹽尻一ノ二二) 六孫王の神龍池(理齊一ノ二) 「ナス」安田一巻ヲ見ヨ

**源躬絃** 八幡太郎の號(松話三七) 卒去の年月考(安隨八ノ一)

**源義家** 八(安夜四ノ二三) 八の甲冑箱(安夜八ノ五) の鎧(白神四ノ二三)

**源義高** 志水冠者(春淡下ノ一)(孝經二) 木曾御曹司(白神九ノ九)

**源義經** 略傳(鹽尻一ノ二五) 評(理齊一ノ四)(我宿一ノ一六) 源仲の優劣(我宿九) 改名(牛馬七八)(安同三ノ上ノ二四) 賴政牛若丸(四方花ノ一) 安宅の關(吉野の地)(鹽尻三ノ四) 安宅の關(藤原の古跡)(閑歌一ノ三) 山本九郎(源九郎)(藤原三ノ二八) の鎧(安隨二ノ四九)

**源義朝** 略傳(鹽尻一ノ二二) の小手(安隨一ノ一九) の四天王(安隨三ノ四二) 梟首の節(鹽尻一ノ四) 墳墓(鹽尻四ノ七) 父爲義を殺せる事(驗臺禮)

**源義仲** 多太八幡(柳菴二ノ八) の法名并塚(鹽尻五ノ三三) の子孫(鹽尻三ノ一〇) 義經の優劣(我宿九) の四天王(安隨三ノ四二)

**源義平** の十六騎(安隨三ノ四二) の死狀(鹽尻五ノ二)

**源賴家** の古文書(松策六ノ四五)

**源賴定** 論(我宿二)(閑次二ノ一)

**源賴朝** 略傳(鹽尻一ノ二二) 尊氏夫婦相性同じき事(柳菴一ノ一八) の小字(安隨四ノ四五、二ノ四二) (鹽尻五ノ一)

**源賴朝** 略傳(鹽尻一ノ二二) 尊氏夫婦相性同じき事(柳菴一ノ一八) の小字(安隨四ノ四五、二ノ四二) (鹽尻五ノ一)

**源賴政** 略傳(鹽尻一ノ二五) 半若を救ふ(四方花ノ一) 鶴退治に(過たるもの七不足なるもの三)(理齊二ノ八) 怪鳥を射たる説(白神九ノ一一) 一宮女を賜ふ(如關六ノ三四) 最期の地(一話三ノ三三) の墓(鹽尻四ノ二五)(春淡下ノ五) 評(閑次四ノ七)

**源賴光** の旗(安隨一ノ八) の四天王(安隨三ノ四二) (鹽尻四ノ二六)(燕石二ノ二六)

**源賴義** 父子東國に威を振ふ(鹽尻一五) の道心(松策二ノ四二) の七騎(安隨二ノ四二)

**見沼** 武藏國の歌(松策五二ノ二八)

**みま** の古語タハ(筆下ノ四) 大、横、小、長、會根、宇根、中根(松策一六ノ九)

**美濃紙** 「カミ」紙ヲ見ヨ

**美濃國** の名(南留五ノ一八) と近江の廢物語(一話一五) 泉行帝(行幸の舊蹟)(鹽尻五ノ八) 地名の内推加大井戸加納(鹽尻九ノ五) より尾張(至る古道)(鹽尻七ノ四) 尾張の界(鹽尻三ノ二四)

**美濃部伊織妻** の貞節(一話三ノ二)

**美濃部金太夫** 兩朝平撰錄の(護小一ノ一八)

**美濃燒** (鹽遊二ノ三三)

**簀** (鹽遊二ノ上ノ一四) け古よりあり、一の上品(我衣一〇七)

**簀笠之助** か夢の句(松策一〇六ノ四六)

**簀毛** 鶴の(松策七六ノ一、七八ノ一)

**簀蟲** (鹽遊二ノ二七) ちよよとなく(松策八六ノ二四)

**簀屋三勝** 「サン」三勝半七ヲ見ヨ

**身のかは** 「イフ」衣服ヲ見ヨ

**身の毛いよだつ** (松策一四ノ一七)

**身のしろ衣** (松策一〇ノ五)

**身延山** の開基(松策一七ノ二八) の奥の院(安隨七ノ三三)

**久遠寺日唱** 一件(半日一三ノ三八)

**身** 七面の開帳(半日二ノ八) 分に安んず(訓淺三)(多波上ノ一八)(不問一四)(年打下ノ三七) 分限相應こそ長久の術(梅菴三〇) 強て求めたる位置(鹽尻二ノ一〇) 不校不求(驗臺禮一六) 身の程(驗臺禮二四、二六) 安居院の五字七字(一話一五ノ一〇) 都幾夫の安分の詩(鹽尻四ノ一八) 九よける歌(鹽尻三ノ八)

**敏太神社** (略語上ノ一七)

**巳の時とかやく** といふ事(松策九三ノ一四)

**ミヒ** 考(鹽尻四七ノ四)

**御燵代** 考(鹽尻四七ノ四)

**御火の臺** (安隨九ノ一〇)(二上二四)

**ミフ**

**壬生狂言** (鹽遊五ノ二二)(三卷二ノ三) の繪(葩花一〇)

**壬生忠見** か幼童の時の歌(一話四八ノ二九)

**壬生忠岑** の墓(南留一ノ一四)

**壬生念佛** 「チン」念佛ヲ見ヨ

**三淵氏** の姓(白神一〇ノ一七)

**三淵大和守** (雨窓六八)

**ミホ**

**三保明神** (松策七八ノ二七)

**ミマ** とイマシの別(如關一四ノ一七) 美作國(蒼梧二ノ七)

**ミ、**

**耳** の遠きを治す法(一話二九ノ三八) ささくなる薬の語(花月四四) 虫のいに入たる時出す法(雲錦四ノ一七)

**耳を掩て鈴を偷む** さいふ語(松策八二ノ三〇)

**耳學問** (松策五二ノ七)

**耳金** (松策四〇ノ六)

**耳藝** 初音耳四郎の奇藝(葉叢三ノ一九)

**耳こすり** (鹽遊九ノ四六)

**耳朶** 幸なるものか(一によるといふ)(鹽遊九ノ四五)

**耳たもち** といふ詞(松策一三ノ三三)

**耳塚** (秋齋一ノ三) (鹽尻四三ノ二)

**筑前國瀧男** (閑次一ノ二二)

**耳の垢取り** (鹽遊一ノ一〇)(骨董上上ノ一〇五)

**耳はさみ** (北邊四ノ四)(隣女一ノ三二)

耳ひき (嬉遊六ノ下ノ三)  
 耳環 の説(如關三七ノ一〇)  
 蚯蚓 の鳴く事、小兒の陰けるしとき  
 (嬉遊六ノ六)  
 (嬉遊六ノ六)  
 鳴く事(梅日二ノ一七)  
 百合となる(松筆六三ノ五)  
 (幽遠上ノ一〇)(安隨六ノ三〇〇)  
 (世事一三七)(松筆七八ノ三〇〇)  
 蚯蚓書

●ミム  
 みむろ 神社を——さいふ(圓珠一八)

●ミマ  
 みめより唯心 人は——といふ事  
 (松筆九四ノ四八)

●ミモ  
 みもひもさむし さいふ語(幽遠下ノ  
 御裳濯川歌合 の序(雜末六ノ一)  
 御諸山 三輪山を——さいふ(圓珠二)  
 ●ミヤ  
 みやうぶ 「ミヤ」名簿ヲ見ヨ  
 みやつこ木 (松筆九五ノ六八)

宮 天皇の御胤を——申す事(玉ツ四ノ一  
 六)  
 宮木 二あり(圓珠四一)  
 宮古路 一名豐後節、國大夫(嬉遊六  
 ノ上ノ三六)  
 宮古路豐後節 の碑(二話四ノ二四)  
 宮崎健太夫 (白神一〇ノ一九)  
 宮崎文庫 「イセ」伊勢神宮ヲ見ヨ  
 宮様圃 本郷——(塵塚三四)  
 宮澤遠 略傳并詩(雜書二ノ二七)  
 宮重一清 歌(雜書一ノ一八)  
 宮重隨筆 五——の作者(談小五ノ一  
 宮園節 (嬉遊六ノ上ノ三七)  
 宮仕 といふ語の源(鹽尻三ノ一七)  
 宮原 の義(安隨三ノ五六)  
 宮廻 (松筆三八ノ一八)  
 宮本 略傳並詩(雜書二ノ二七)  
 宮本武藏 の書卷(一話三ノ四二)  
 實傳(五樂一ノ一七)  
 宮守神 (安隨一三ノ一一)  
 冥加 さいふ語(雜江七ノ四七)  
 粟荷(傍廂二)  
 能毒の云觸ちかひ(閑歌一ノ一一)  
 の効用(松筆六四ノ三四)  
 明正天皇 の外祖母淺井氏(鹽尻四六ノ  
 二八)

明星茶坊 勢州明野原——の清火(鹽  
 尻一〇ノ四五)  
 明神 諸社の——(鹽尻一七ノ一〇)(玉  
 大——(安隨一四ノ一五)(松筆一六ノ一八)  
 名神の號(鹽尻四七ノ一七)  
 名神と——(松筆一ノ一三)(松落三ノ五)  
 「カン」神田——ツク「築土」「ヒカ」水  
 川——ヲ見ヨ  
 明尊 僧正——の長壽(支向三ノ中ノ七)  
 明珍 の略乘並傳(雜書三ノ二二)  
 の家譜并巧拙の評(二話四七ノ  
 九)  
 明々日 明後日か——といふ(玉ツ八  
 ノ三二)  
 名 田地に幾——といふ事(安隨一ノ一九)  
 名字 「シン」人名ヲ見ヨ  
 名籍 (松筆一一九ノ二二)  
 名詮 といふ詞(安隨二ノ四五)(松筆六四  
 ノ三五)  
 名詮自性 「シン」人名ヲ見ヨ  
 名代 といふ詞(松筆九七ノ四二)  
 「テン」田制ヲ見ヨ  
 名簿 (孝經四ノ二八)(安隨四ノ四二)(松  
 筆九二ノ一一)  
 おたたり文(玉ツ二ノ一一)  
 みやうぶ(玉ツ九ノ五)  
 の書法(松筆八五ノ四一、九三ノ四  
 二)  
 「アヤ」誤り證文「チヨ」忘狀「セキ」籍帳ヲ  
 見ヨ

名目 のよみ方(長頭二)  
 一三)の事(雜江七ノ二七)(雜末三ノ  
 一三)  
 名聞 な好めるもの(閑次四ノ八)  
 虚名久しからず(松筆七九ノ一〇)  
 「メイ」名利ヲ見ヨ  
 脈をとる さいふ事(理齋五ノ一六)  
 土産 みや、みや立、みやけ(嬉遊一〇ノ上  
 みやげの字(安夜五ノ九)(安隨八ノ二九)  
 又あなかつと(松筆二ノ三三)  
 屯倉 (老牛中ノ四三)  
 三宅觀瀾 (緝明)の江戸にて名を知られ  
 し初(窓一八七)  
 三宅尙齋 の逸事(閑散上ノ二六)  
 幽閉中の事(窓道四七)  
 三宅石菴 (万年)の學問(假世四五)  
 三宅道乙 一本(平日五ノ六)  
 三宅藤五郎 文官にして命を失ふ(自紳  
 八ノ一〇)  
 三宅島 南方海島の風俗(三養二ノ一六)  
 選一捷見(雜江一ノ一〇)  
 一人薄情(牛馬三九)  
 田舎にて人を尊ぶ事(四方月ノ一八)  
 地氣盡則不可居(松筆六七ノ八)  
 南樓京屋遊女——事(武俗二六)  
 都 都良香 の對句(餘餘二ノ四)  
 都ぞ春の錦 といふ事(松筆八五ノ四〇)  
 都鳥 (爰埃八ノ八)(松筆五ノ一一)  
 都土産 といふ書(幽遠下ノ二二)

都のつと といふ事(松落四ノ六三)  
 都松 (二話四ノ二七)  
 都名勝圖會 の畫工(一話四ノ一八)  
 御息所 東宮——トウ「東宮ヲ見ヨ」  
 國造 「クニ」國造ヲ見ヨ

●ミヨ  
 みよし野 「ヨシ」吉野ヲ見ヨ  
 三好清行 のよみ方(閑耕二ノ一〇)  
 三好正慶尼 「ヤツ」奴小萬ヲ見ヨ  
 三好親春 歌(雜書一ノ一八)  
 三好長慶 (一話四ノ四九)

●ミリ  
 味淋 酎といふへき事(一話八ノ一八)  
 慶長頭——酒の價(柳巷三ノ一八)

●ミル  
 視る 視思明(松反下ノ一)  
 見る穴へ落る といふ事(松筆一〇六  
 ノ一八)  
 見る物乞食 といふ事(松筆一〇六ノ一  
 六)

●ミロ  
 身祿 ——富士にて餓死せる事(嬉遊七ノ  
 一三)  
 彌勒 さいふ年號(一話一六ノ二二)  
 十年辰の年(假世一六)(隨意六  
 ノ一四)  
 彌勒歌 の詞(海西二ノ二四)

●ミワ  
 三輪 謠曲——の趣意(幽遠下ノ九)  
 三輪・檜原 (鹽尻二ノ一七)  
 三輪山 (鹽尻三ノ一八)  
 三輪山 志御諸山さいふ(圓珠二  
 一七)  
 三輪山本 (孝經一ノ一八)  
 の類歌(隣女二ノ  
 一七)  
 三輪物語 抄録(一話八ノ七)

●ミン  
 みんなみ 南か——さいふ「ミナ」南  
 ヲ見ヨ  
 明 の國號(松筆六七ノ九)  
 一立國論(四方花ノ一)  
 朝の子孫(閑散上ノ二六)  
 朝の都府(鹽尻九ノ二三)  
 滅亡の時——乞食の義心(隨意三ノ二八)  
 明高宗 の德行(隨意八ノ三四)  
 明懷宗 近臣の外出を禁ず(鹽尻二〇ノ  
 一一)

**明建文帝** (支同二ノ三四)  
**明太祖** の性行(隨意一ノ二三)  
 神廟(昆陽一三八)  
 諱初推府(訓淺一〇〇)  
**明馬后** 太祖の后馬氏の事(隨意七ノ一七)  
**明詩文四傑** (餘四ノ四)  
**明名臣言行錄** に付て(鹽尻二九ノ二八)  
**明樂** を觀る(一話一六ノ一八)  
 姫路侯の(一話一九ノ三六)  
**振子** の義解(昆陽六八)  
**民部** の訓(南辨一一)  
**民部省圖帳** (比古七ノ二四)

**み**  
**み** さいふ又「ミ」と相通(安隨一ノ二七)  
 「ミ」と「ミ」と古音相通(筆中ノ六六)(松筆八ノ九)  
 「ミ」の假字遣(自筆一〇ノ二二)  
 は無なり(鹽尻四四ノ七)  
 天地万物皆「ミ」なり(一話八ノ二七)

**み**  
**み** さいふ佛語(松筆一八ノ一九)

**み**  
**み** さいふ俗語(安隨三ノ三七)(松筆九三ノ三二)  
**む** さいふ又「ミ」と相通(安隨一ノ二七)  
 「ミ」と「ミ」と古音相通(筆中ノ六六)(松筆八ノ九)  
 「ミ」の假字遣(自筆一〇ノ二二)  
 は無なり(鹽尻四四ノ七)  
 天地万物皆「ミ」なり(一話八ノ二七)

**み**  
**み** さいふ佛語(松筆一八ノ一九)

**むくのみ色** 「フク」服色ヲ見ヨ  
**むくれにし** 「むく」の木、むくの實  
 (松筆九ノ一一)  
**むくろんげ** といふ童戯(辯遊四ノ三四)  
**木樫** 考(柳書四ノ二二)  
 「アサ」朝顔ヲモ見ヨ  
**鰻鼠** 類(安隨九ノ二四)  
 白「を」を捕ふ(半日二ノ三五)(同二四ノ一)  
 「を」を捕ふ(燕石五ノ二)  
**鰻鼠打** (辯遊七ノ二)  
**報** 「イン」因果應報ヲ見ヨ  
**無官大夫** (理齋一ノ五)

**む**  
**む** さいふ俗語(安隨三ノ三七)(松筆九三ノ三二)  
**む** さいふ又「ミ」と相通(安隨一ノ二七)  
 「ミ」と「ミ」と古音相通(筆中ノ六六)(松筆八ノ九)  
 「ミ」の假字遣(自筆一〇ノ二二)  
 は無なり(鹽尻四四ノ七)  
 天地万物皆「ミ」なり(一話八ノ二七)

**む**  
**む** さいふ俗語(安隨三ノ三七)(松筆九三ノ三二)  
**む** さいふ又「ミ」と相通(安隨一ノ二七)  
 「ミ」と「ミ」と古音相通(筆中ノ六六)(松筆八ノ九)  
 「ミ」の假字遣(自筆一〇ノ二二)  
 は無なり(鹽尻四四ノ七)  
 天地万物皆「ミ」なり(一話八ノ二七)

蒸夜打 一、蒸松明(松筆二ノ五)  
 貉 と狸雌雄の事(鬼小上ノ八七)  
 貉評定、貉寝入 (嬉遊二ノ四)  
 貉塚 上州狸塚(一話四ノ二)  
 無常 さいふ文字(松筆九ノ四)  
 無上尊 さいふ僧(筆中ノ二七)  
 無上無下 さいふ詞(安隨一〇ノ三)(二上五四)  
 無上靈寶 さいふ語(鹽尻二八ノ二)  
 無情講 一、(嬉遊五ノ七)  
 無宿者 の取締書付(半日四ノ二)(全二四ノ一)  
 無心 御一さいふ俗語(松筆六六ノ六九)  
 無盡 一、(頼母子講ヲ見ヨ)  
 武者小路實隆 の幸日(一話八ノ三三)  
 武者小修 即妙の歌(大海二)  
 武者修行 (松筆二ノ二)  
 武者所 の話(笑埃五ノ三三)  
 矛盾 さいふ語の出處(一話一五ノ三三)  
 寧ろ 寧字を——とよむ論(比古三ノ四〇)  
 蓮 (松筆三ノ五〇)  
 鶴さ席(安隨一七ノ四八)

むすこ 一、又むすめさいふ詞付むすの字義(半馬二九)  
 娘 貴家の處女をおぢやう様といふ(拂海一ノ一)  
 娘評判記 の流行并禁止(半日二ノ六)  
 結ひ方 緒の——諸種(白紳九ノ二七)  
 赤組(安隨一七ノ六)  
 白組(安隨一七ノ四〇)  
 片鱗に結ぶ(松筆九ノ三七)  
 河貝子始(地結)一話二ノ一〇)  
 上結下結(白紳一〇ノ二七)  
 花結(嬉遊二ノ上ノ八)  
 眞白指貫上括下括(安隨一六ノ六)  
 眞結(松筆三ノ一五)  
 眞結(松筆三ノ一五)  
 流蘇團圓(鹽尻三九ノ二二)  
 結からさぬ 「カリ」狩衣ヲ見ヨ  
 結詞 「はは」といふ(北邊一ノ二)  
 結字爲結(海西三ノ九)  
 「コト」國語ヲ見ヨ  
 結染 (松筆三ノ一九)

結机 「ツク」机ヲ見ヨ  
 結文 「シヨ」書狀ヲ見ヨ  
 月下氷人 (鹽尻四五ノ二六)  
 ●ムセ 無禪 近衛家從者——ハ事(一話四一ノ一五)  
 ●ムソ 夢窓國師 (餘餘五ノ二八)  
 ●ムタ むだ さいふ俗語(松筆九三ノ三二)  
 むだ事 さいふ俗語(安隨六ノ六)  
 ●ムチ むち 貴字を——と訓む事(安隨九ノ一八)  
 無地 無文を——といふ(二上二二)  
 無住法師 (鹽尻一五ノ五)  
 無着尼 の偈(鹽尻四五ノ三)  
 「チヨ」千代能尼ヲ見ヨ  
 鞭 見(鹽尻三ノ二三)  
 (安隨一ノ二二)

藤 (安隨二ノ八)  
 草津の——(二上二九)

●ムツ むつかし さいふ詞(安隨五ノ八)  
 六借(松筆三八ノ一五)  
 むづかり科 (松筆一五ノ二四)  
 むづげ さいふ詞(松筆七八ノ二二)  
 陸奥 みちの國むつ(玉々五ノ三)  
 郡數考(比古一ノ六二)(孝經二ノ九)  
 白筆上ノ二五(同上ノ七〇)  
 郡の郡郷は坂東諸國の地名を移せるか多し(如關二五ノ二七)  
 秀衡領 六郡(安隨一八ノ一〇)  
 名處(玉々一ノ一四)  
 紀行(奥の細道一卷)  
 海濱紀行(磯傳一)  
 五節風俗(龍花九)  
 北方邊地の者の愚直(春波六八)  
 貞觀十一年の大水(續昆二一八)  
 陸奥話記 に付き(鹽尻一五ノ一四)  
 陸月 「シヤ」正月ヲ見ヨ  
 横樫 (半日一ノ六)  
 六の緒 「コト」琴ヲ見ヨ  
 ●ムテ

むてつぼう さいふ詞(柳記上ノ四七)

●ムト 武藤頼尙 父子(白紳一〇ノ一五)  
 身人部王 (安隨四ノ四二)

●ムナ むな手 一、むな車(松筆五ノ一三)  
 藏の——をうしといふ(南敵上ノ二)  
 棟木 藏の——をうしといふ(南敵上ノ二)  
 胸ぐらを取る 一、胸づくしを取る(四ノ四八)  
 空手 (松筆九ノ二二)  
 梁簡 紀貫之の銘(閑耕一ノ三二)  
 武州矢部八幡天文中の——(松筆三九ノ九)  
 無南 僧——の逸話(窓道五)

●ムニ 無人島 (鹽尻九)

●ム子 むね 「タウ」刀劍ヲ見ヨ  
 胸 鳩 (松筆九ノ九四)

胸無宿物 さいふ語(松筆一〇九ノ六四)  
 胸叩 さいふ物貫(嬉遊二ノ一八)  
 棟上 上梁文(餘餘五ノ二五)  
 上梁文(東屋上ノ七)  
 の式付量如堂縁起——圖(梅日二ノ三九)  
 宗良親王 征夷將軍——(鹽尻三六)  
 信濃宮遺跡考(如關一三ノ二)  
 遠州甲州に於ける——の事蹟并和歌(鹽尻三六ノ一)  
 贈答の和歌(鹽尻三六ノ一三)  
 信濃宮といふ(安隨一〇ノ五二)  
 宗尊親王 の歌不吉の事(燕石二ノ一五)

●ムノ 無能 一、人の年寄(松筆八五ノ六四)

●ムハ 母望 の字義(鹽尻四ノ七)

●ムフ 無佛齋 「サイ」齋藤叔藏ヲ見ヨ

●ムヘ 牟倍 さいふ果并——獻上(閑耕三ノ一)  
 郁子といふもの(松筆一〇五ノ五四)

無邊法界 又めつさうかい (玉か八ノ四 三)

●ムホ 謀叛 後醍醐天皇御 (隨意六ノ一)

●ムマ むまや<sup>く</sup> といま<sup>つ</sup><sup>く</sup> (松筆八ノ一 八)

●ムミ 無名抄 の記事 (理齋五ノ一九) 中の歌一首 (安隨六ノ三 七)

●ムム 無夢園集 陳仁錫 (附餘五ノ 一三)

●ムモ むもれ木 は埋れ木にあらず (牛馬二三) 無文和尚 の入唐 (隨履三六ノ一三)

●ムヤ 身屋 (松筆三八ノ五)

無用物 天下 (理齋三ノ八) 北 邊三ノ一三) 不可用 (傍廂一五〇) 無用の器を貯 (右川の器を缺く (松筆八 六ノ六二) 堀家流面之士并武田土大藏左衛門 (雨窓 一六) 無用の古物の喩 (松筆一〇五ノ二) 物用無究 (我發二ノ二三) 遺金を受けて私用せず (老長一五) 大寶院長老の (老長一二) 防方齋八の (老長八) レン廉潔ナレ見

●ムラ 村 さいふもの (松筆九五ノ二四) むらさき 鱒 (見) といふ「イソ」鱒 のゆきしめのゆき (安隨一九ノ 三二)

村上刀自女 の長壽 (支同三ノ中ノ七)

村上義明 (周防守) 之事 (談小五ノ二四)

村上頼平 長尾為景と戦ふ (白神四ノ一)

村上元齋 (忠孝) の歌 (松話二七)

村田春海 阿小傳并歌 (松話二九)

村田春郷 歌并 賦物 の業に優れし語 (松話一九)

村田春道 歌 (松話二八)

村田進會堂 (忠孝) の歌 (松話二七)

村田 武州 といふ地 (松筆一二〇ノ三 九)

村松喜兵衛 の辭世 (梅叢一八)

村山等安 等の擢難 (談小三ノ七)

紫 (安隨八ノ八、一三ノ一) (安夜四ノ六) (才憲下ノ一) (いふ (隨履三三ノ三) 朱を奪ふの (いふ (隨履三三ノ三) 古 (圓珠五八) (居龍四三) 初 (圓珠五八) (比古三ノ四九) 伊かりの色 (傍廂七)

紫草 (居龍三三)

紫式部 といふ名 (孝經三ノ四) (四方書 八七)

を日本紀局といふ (隨履一〇ノ 二)

の才 (理齋六ノ二三) の見解 (北邊三ノ四) 繪像 (一話一ノ三五)

紫句 「カッ」中句ヲ見

紫の朱を奪ふ (松筆九六ノ二六)

紫のゆかり 解題 (紫句一)

紫水 と赤克 (柳記上ノ三五)

迹 (支同三ノ上ノ五) (南留三ノ三)

●ムリ 無量壽經 「アミ」阿彌陀經ヲ見 無量壽佛 「アミ」阿彌陀ヲ見

●ムル みる おさむる等の (いふ助語 (安隨 六ノ八)

●ムレ 牟禮氏 僕を附せんとせし語 (白神四ノ 五)

●ムロ むろのはや早稻 (難江五ノ四八) 室 付やくら (解遊一ノ上ノ一) うるし、廻 (松筆八六ノ三四)

室鳩巢 (新助) 之事 (難田二九) 王子試筆の詞 (隨履信ノ五 三)

室咲花 (松筆一七ノ六九)

室戸崎 (松筆一六ノ六)

室の木 (牛馬二三) (續見五六) (玉か三ノ 二〇)

室の八島 (難江三ノ五三) (開次一ノ一四) (安埃七ノ二七)

●メ 目の字 (安隨七ノ一一) いるはの中 (いふ) の二字は訓を用ひ たりさいふ説 (安隨一七ノ一五) (二 上七八) (隣女一ノ三三) 一貫等のの字 (談小四ノ一六) 何年日などの目の字 (安隨三ノ一〇) 「め」と「まな」 (圓珠六) といふ名稱 (燕石一ノ二二) を明にする法 (隨意六ノ三五) の傷本治する法 (松筆七ノ一六) を断たる治法 (球わけ出し時の治法 (談小四ノ一九) 兩板で綴るに (隨履上ノ一四) 清行詩文 (隨意六ノ一六) 肉 戀 (松筆二八ノ二三)

●マイ 名義考 齋藤彦磨の (後言三 二)

●マア 名義考 といふ書 (一話六ノ二)

●マエ 名刺 名紙 (見陽一三七) (松筆七四ノ一) 手札 (松筆八五ノ一七)

●マシ 名所 (玉か一四ノ三〇) 本署のある事 (玉か六ノ四一) 諸國 古今編の相違 (附一ノ三三) 名物の附合 (假世六四) (安埃五ノ二 二) 保存の感 (隨履一〇ノ四) 諸國 いた (隨履四七ノ三五)

●マヤ 名臣言行録 考 (難末三ノ三五)

●マロ 名符 「ミヤ」名符ヲ見

●マロ 名物 名所 (安隨四ノ四二) 名符 「ミヤ」名符ヲ見

●マロ 名譽 署名 (松筆八七ノ四〇)



**メチ** 目路 といふ詞(松筆五ノ一、八六ノ四)

**メツ** めつかち 片目の首なるを(如開三ノ二二)

めつさうかい 又めつぼうかいといふ  
滅法又滅法界(松筆一〇五ノ二五)

めつた といふ詞(松筆八五ノ三九)

めつたやたら といふ俗語(安隨八ノ  
無木 といふ戯(骨董中ノ二六)

**メフ** 目付 といふ役(松筆九三ノ一四)

**メフ** 目付繪 (おろ下)

**メフ** 滅慶 國史の甲斐(は滅慶なるへき説  
(談小二ノ三二))

**メフ** 滅亡 三亡(松筆八九ノ四四)

**メフ** 珍らしき事 (北遊二ノ三)

**メフ** 珍らしき物 を驚するは人により心す(き事(花月七八))

**メフ** めてたし といふ詞(南留三ノ四)

**メフ** めてたき物 はめてたからず(假世一〇)

**メフ** 馬手指 「タウ」刀剣に見ヨ  
目てしらす(松筆一ノ六二)

**メフ** めどにけつりば(安隨五ノ二五)

**メフ** めなれ木 (松筆一〇ノ八)

**メフ** 瑪瑙 (自筆考卷四)(自遺考八)

**メフ** 瑪瑙石(藝苑二ノ一三)

**メフ** 目に付く といふ詞(幽遠上ノ一〇)

**メフ** 眼貫 (書層三)(孝經四ノ三八)(秋齊四ノ  
二二)(玉一ノ三三)(遊遊附ノ  
大刀の空(安隨一〇ノ二八)(二上八  
衛府の大刀化粧(安隨一ノ二五)  
宗現一輪牡丹の(奇跡四六)

**メフ** めのこ算 (松筆九〇ノ九)

**メフ** めはじき (松筆三八ノ二五)

**メフ** 目は空 (松筆五ノ二二)

**メフ** 目八分に持つ (松筆一〇五ノ一、四  
五)

**メフ** 姪 といふ名(圓珠六九)

**メフ** 馬部 (松筆八四ノ五二)

**メフ** めしし といふ詞(松筆九六ノ二三)

**メフ** 目安 (松筆九三ノ一七)

**メフ** めら 奴一男一等(松筆五ノ三)

**メフ** めらう といふ語(南留二ノ一五)

**メフ** 米良 肥後國(提筆四ノ二三)

**メフ** 梅鹿 一の使最後の詩(松筆一ノ七)

**メフ** もかう 布の(一ノ二五)

**メフ** もがり 「カキ」垣に見ヨ

**メフ** 最上義光 の馬揃の事(隨見一ノ七)  
話三ノ一九)

**メフ** 著裳 に半の年を忌む(松筆一三ノ一五)

**メフ** 木菴 僧(一ノ二七)

**メフ** 木魚 さいふ佛具(世事五四)

**メフ** 木魚講 (遊遊五ノ七)

**メフ** 木犀 の詩(隨見三四ノ三五)

**メフ** 木村 水中に埋みし(一ノ二四)

**メフ** 寶永五年木曾川の一流矢に付廻文(隨  
見四五ノ九)

**メフ** 紫檀 桐松材の價(續見九三)

**メフ** 木像 木中に佛像あらはる(世事一三)

**メリ** めりやす 長唄にて「といふ(遊事九ノ  
上ノ二)

**メリ** 莫大小 (遊遊二ノ上ノ一五)(松筆九七ノ  
三三)(談小三ノ三)

**メリ** めんを取らぬもの (松筆一〇五ノ二)

**メリ** めんち (遊遊四ノ三四)

**メリ** めんとうな さいふ事(自神二ノ二四)

**メリ** めんぼう 「メン」假面に見ヨ

**メリ** めんめ 髪を——といふ(おろ下ノ二  
〇)

**メリ** めんらう の義(安隨六ノ三一)

**メリ** 假面 (老牛上ノ三二)(松筆五ノ一九)  
「メン」ホウといふ(松筆一〇二  
ノ四〇)

**メリ** 狗 といふ(遊遊六ノ下ノ三三)

**メリ** 古代の——(笑埃八ノ四)

**メリ** 元興寺の鬼面(南政下ノ二五)

**メリ** 工の妙手(柳菴一ノ九)

**メリ** 「フカ」舞樂(見ヨ)

**メリ** 麴條魚 (昆陽七六)

**メリ** 細茄 といふ植物(隨見三三ノ八)

**メリ** 細鈴 房中の邪術(隨見二ノ二三)

**メリ** 眼藏 (松筆八七ノ一)

**メリ** 毛受庄助 兄弟の忠孝并評論(隨見  
二六ノ七)

**メリ** 食桶 (松筆三ノ六)

**メリ** 綿袍 といふもの(松筆六一ノ一一)

**メリ** 面縛 の義(筆上ノ三)

**メリ** も 「む」と古音相通(筆中ノ六)(松  
筆八ノ九)

**メリ** 裳 意須比と(順風一〇ノ五)

**メリ** 上「シ」の辨(難江一ノ五三)

**メリ** 「シ」褶(見ヨ)

**メリ** 摸 と撫と同意に用ふる事(一話一八ノ四  
三)

**メリ** もうろくにうらしかと の義(安隨  
二〇ノ四  
五)

**メリ** 蒙求 非熊非熊の説(眼雲二ノ一〇)

**メリ** 蒙求和歌 といふ書(安隨一八ノ四三)

**メリ** 蒙古 北狄稱銀白(隨見三ノ一六)

**メリ** 以銀爲國號(續見九)

**メリ** 木像 「サウ」僞「フツ」佛像に見ヨ



木食上人 大阪(登城の事)(一話三四ノ二七)

木馬 (婦遊四ノ五) な徳願屋の看板にせる事(我衣一七)

木幡上人 の歌(松筆二ノ四)

木母寺 の名(老長五)

艾 (さいふもの) 媛小四ノ三六

目授 (伊吹) (提燈五ノ五) (隠居二ノ一四) 關十郎 (世談一七三)

目代 (南留四ノ二〇) (松筆九ノ四九)

目禮 (松筆五ノ五八、九六ノ八八)

目錄 (といふ名稱) 孝經四ノ三六

目論見 (先の字を) (玉か九ノ三九)

土龍 (金銀等を) (といふ) (松筆九八ノ一)

モクモク (鹿島跡の) (燕石四ノ八)

猛者 (といふ稱) (松筆一六ノ二)

茂才 (松筆八五ノ五)

モシ (官を) (といふ) (玉か一ノ三五)

文字 (物名を) (いふ) (玉か一ノ三五)

文字合せ (小野篁の歌) (松筆三ノ一五)

文字占 (歌字盡し) (柳記上ノ五八)

文字鎖 (相字) (松筆二ノ三)

文字結 (紙綴) (松筆三ノ五)

漢沙 (の流行) (我衣三九)

慕寫 (と臨寫の相異) (閑次三ノ四)

モス (百舌鳥といふ) (松筆四ノ四)

鵲 (なす) (松筆一〇四ノ二六)

鵲の草莖 (一鳥の早登) (松筆二ノ二)

茂睡記 (といふ書) (一話一四ノ二)

モセ (野) (等いふ) (北邊三ノ一三)

モタ (いふ詞) (松筆七ノ一六)

もたひ浦 (考) (閑次一ノ三六)

モチ (の假字) (松筆七ノ一七)

もちひ (用の字) (松筆七ノ一七)

戻招 (上ノ二)

餅 (松筆一〇ノ八) (松筆八ノ二)

羊躑躅 (の質) (苑小中ノ一五七)

柿 (松筆三ノ一九) (婦遊一〇ノ上ノ三)

餅 (松筆三ノ一九)

餅 (松筆三ノ一九)

餅 (松筆三ノ一九)

餅 (松筆三ノ一九)

餅 (松筆三ノ一九)

餅 (松筆三ノ一九)

餅 (松筆三ノ一九)

餅 (松筆三ノ一九)

餅 (松筆三ノ一九)

餅 (松筆三ノ一九)

餅 (松筆三ノ一九)

餅 (松筆三ノ一九)

餅 (松筆三ノ一九)

餅 (松筆三ノ一九)

きん(一) (近事一) (世談八) (談正六六) (柳筆上) (二) (三) (二) (世事一三) (傍廂一〇)

モナ

もなか といふ詞 (玉か一三〇三) 蒙なし衣 (松筆九五ノ一四)

モノ

もの 鬼字を... (松筆一〇九ノ三) ものあらかひ といふ詞 (難江一) ものか 又もとはといふ詞 (松筆一五ノ四) ものから といふ詞 (松筆六五ノ三五) ものふの八十氏 (南留三ノ七) (南留一七) 物頭なさいふの意味 (南留三ノ二四) 物 萬の人の爲になりいづ (傍廂六五) 物合せ (安隨一七ノ四三) 物争 「カケ」賭事ヲ見ヨ (傍廂一六七) 物忌 (傍廂一五)

御 (松筆六ノ六) 忌跡: 五月忌、正五九月に婚嫁を忌む (辯遊八ノ一) 正五九月をいふ事、燕石一ノ四、六ノ二 (安隨一ノ二六、二七、三三、二) 七日跡を忌む (春淡下ノ七、梅日三ノ一) 寄者を訪はさる理由 (談小二ノ三九) 人の去りと跡を掃く事を忌む (辯遊八ノ一) (玉リ八ノ四八) (同) (〇) (辯遊八ノ一) 俗語の言 (難意三ノ三) (開次一ノ一〇) 悪死の言 (難意三ノ三) (隨意二ノ二八) 「キエ」忌穢イミ忌詞ヲ見ヨ

物忌簡 (松筆一〇五ノ五二) 古 (春淡上ノ九) (北邊一ノ二九) 草子に當時の右様を知るに必要なり (開次二ノ五) 古の名 (辯遊九ノ五二) 古の元祖 (安隨一ノ二四) 十語五草 (秋聲四ノ二四) (半日五ノ四) 日記草子とのさだめ (三ノ下ノ一六) 會我 (義經記等の虚實) (松筆一ノ二六) 古の語 (安隨八ノ三四) ふみの詞 (北邊二ノ二八) 本の帝號 (春淡中ノ一四) 本にあるうた (安隨四ノ八) (二上七) 「サワ」草紙ヲ見ヨ

物川 (松筆九五ノ四三) 物かは遠江守 の氏の由来 (鹽尻八ノ一) 物語顔 する人の話 (四方雪ノ一三)

物鳴り (辯遊二ノ下ノ三) 物、具 といふ名稱 (松筆八ノ三六) 物、具裝束抄 といふ書名 (安隨一八ノ四) 物の怪 「クツ」怪異、レイ、鏡鬼ヲ見ヨ (燕石一ノ二二) (意維前ノ下ノ三九) 物の名 (松筆三ノ二八) 古今の相違 (開耕二ノ二七) は世の誤に倣ふ (玉リ二ノ二五) 儒者の誤謬 (隨意三ノ四二) 産物之名不約當文字 (隨意一ノ五) 倭名と漢名 (隨意二ノ四六) 和漢通名 (技藝一ノ一三) 禁裡にて食物の異名 (辯遊九ノ三八) 蠻名の威 (理齋二ノ七)

物部 (拾玉二ノ一八) 物部守屋 の論 (燕石六ノ一八) 馬子 執事 (隨意三ノ二) 物真似 (辯遊一ノ上ノ二六) (都手六) 物見車 俳諧一の駁論 (一話四二) 物見松 「マツ」松ヲ見ヨ 物貴 「コシ」食ヲ見ヨ 物吉 「コシ」食ヲ見ヨ 不届 のよみ方 (安隨一ノ四〇) 斥候 軍家足輕一七ヶ條 (鹽尻九ノ二九) 二宮與三右衛門巧に退く (白)

秘 (一三) の二十各往近の道を異にする事 (白秘一四)

モハ

もはや さいふ詞 (安隨一三ノ四一) 夜五ノ一) の字 (安隨八ノ二五) (安

モヒ

もひ 水か... (圓珠三五) 盆か... (圓珠三五)

モフ

喪服 女房の小忌衣 (安隨五ノ三四) 一フチふち衣ヲモ見ヨ

モミ

紅 甚三一 (世談一八) 紅裏 (松筆八七ノ一三) 紅子 か歌の語 (松話二六) 紅葉 (年々二ノ四) (難江五ノ三五) (モミチといふ字) (松筆九五ノ一〇〇) (黄葉の文字を用ふ) (鑑曆四二) (の名々) (年々六ノ九) (題詩の故事) (傍廂下ノ二三) (七夕に 爲媒妁) (難江六ノ二四)

の詞 (雲津三ノ四) 成島道筑か 文并歌 (一話八ノ一) 「コウ」紅葉イハ、岩垣ヲモ見ヨ

紅葉をちらす 顔に (松筆九)

紅葉洞 (玉リ九ノ二二)

紅葉山 拾玉四ノ三二)

紅葉山靈廟 紅葉十六將神牌 (一話一〇)

萩井日記 中記載の和歌 (松筆二一)

萩藏 「キサ」義合ヲ見ヨ

モメ

木綿 (安隨七ノ一) (辯遊二ノ上ノ七) (藝死二ノ一) (春波七二) (雲錦三ノ二六) 天工開物の世説 (鹽尻四ノ二八) (鹽尻二ノ二二) (拾玉三ノ三四) (種) (和聲) (乘烟四ノ一六、二七) 法令綿 (安隨九ノ二二) (辯遊二ノ上ノ八) (二上ノ三〇) 足利末世の代價 (鹽尻三六ノ二〇) 池中の綿 (開耕三ノ三三) 「ユフ」木綿ヲモ見ヨ 木綿賣 高荷 (一) (塵塚四九) 木綿織 (藝苑一ノ一一) 毛、 毛、んが 又もいふ付しんぢい (辯遊六ノ下ノ六) (おる下ノ二二)

桃 模、具和 (世談一八二) 丸祭祀に用ひす (鹽尻五ノ四) 安樂國佐東新庄地境のの質 (半日五ノ五)

桃栗三年 (三義四ノ二二) (松筆七七ノ三九)

桃園天皇 龍甘露寺篤長卿 (開自一) の御學問 (開自一ノ一六)

桃太郎 (燕石四ノ二四) (辯遊九ノ四九)

桃木 (辯遊二ノ四二)

桃花 (南留三ノ一八) 駒原の (一話二六ノ六)

百井塘雨 の小傳 (笈埃一ノ序)

百敷 といふ歌語 (安隨一三ノ三五) (鹽尻大内を) (圓珠二九)

百千鳥 さいふ物 (圓珠二二) (開耕三ノ一三) (牛馬六ノ〇) (桃園上ノ二) (難江三ノ一五) (年々五ノ三) (年打上ノ七〇) (牙窓中ノ五) (松筆一ノ二二) (三三)

股立 務の (辯遊二ノ上ノ一三) 玉か

股引 (松筆五ノ三四)

股ばき (辯遊二ノ上ノ一二)

毛々那比苔 の義解 (如蘭三ノ一二)

モヤ

模様 泡の紋地(屠龍二九)
後室 小袖裏(屠龍二九)
松竹梅を文とする事(婚遊二ノ上ノ三六)

モラウ

もらう さいふ詞(玉カ九ノ五、二ノ三)

モリ

森 の俗字表の事(安隨一三ノ一)
森氏 の系譜(白紳九ノ二〇)
森二郎兵衛 大阪の役(味方の)

モロ

森田興枝 贈へ平春海みつから歌書で
贈られし時のうた(松話二)
森田庄兵衛 (後家)か技藝の名譽(水八)

モロ

諸輪差 に結ぶ(松筆四〇ノ六)
唐 「シナ」支那ヲ見ヨ
唐 佐國 (松筆六〇ノ一八)

「シ」真宗ヲモ見コ

門閥 門地(如蘭三ノ一六)
門地 不必可爲俊士出處(松筆九七ノ四〇)
門閥表 (松筆一八ノ九)
紋 の起因(白紳四ノ二六)

文字

の效用(笈埃四ノ二五)
各門自(五)あり(多波下ノ四)
四聲(松筆六四ノ七、八、二、三)

文字辨證書

篆象の 各用處により異なる事(鹽尻三ノ八)
二合字の事(南嶺三ノ一六)
魚燕の二字の下の火(安隨六ノ三四)

八 (圓珠二六)  
司の訓 (安隨三ノ四三、一六ノ二八)  
俗字にあらす (牛馬六五)  
一文目 (松筆八九ノ四四)

ヤ

助語「ヤ」の別 (安隨八ノ三六)  
天羽々 (安隨一八ノ二二)  
見と階 (安隨一五ノ二六)  
うはさしの (松筆三八ノ三三)  
畫湖録 (安隨一六ノ八)  
三十具 (安隨二二ノ二二)  
入の天制 (安隨二一ノ三六)  
扇朝の (安隨二〇ノ四)  
扇朝の (安隨三三ノ二二)  
「ヤ」の折敷ヲ見ヨ

ヤイ

横井時般傳 (一話二九ノ二三)  
の句 (一話四ノ一) (春波五ノ一)

ヤウ

「ヤウ」折敷ヲ見ヨ

矢入 (松筆九六ノ三三)

ヤウ

の字義 (長陽八九)

洋學 蠻書の流行 (花月八二)

陽 字未見州國之陽 (隨意二ノ三七)

陽九陰六 (長陽六〇)

陽明 御家 (松筆一三ノ六)

養安院 藏書印ある書籍 (一話三六ノ三九)

養源寺 駒込の由緒 (聖海四六)

養子 説 (隨意四三ノ二四) (病間二ノ一)

揚子 説 (隨意七ノ三二)

揚名 揚名集 (松筆四ノ一九)

揚名 揚名集 (松筆四ノ一九)

養生 一の法 (隨意一ノ三九) (一話一五)

無病の法 (松筆八五ノ五九)

齊戰疾 保生術 節色慾 無神光 技藝二ノ一七

の第一 (辨拾二三)

平常の心得 (雲錦四ノ一六)

捨つべきものを食ふ事 (不問一〇)

死に臨んでの事付松永輝正の事 (白秘二)

「ケン」健康「シユ」壽命ヲ見ヨ

養川院 法印 (一話二九ノ二三)

養老 の典 (説小一ノ二五)

養老 津觀侯の笑話 (説小三ノ一四)

楊雄 仕玉養之辨 (隨意三ノ二九)

楊雲 楊子雲 (隨餘二ノ九)

楊弓 付ほういた (辯遊四ノ二二)

楊貴妃 楊國忠 (隨一ノ一〇) (一話一七)

楊玉院 忍岡坂本 一の事 (隨一ノ三)

楊子 楊子雲 (隨餘二ノ九)

楊雲 楊子雲 (隨餘二ノ九)

楊弓 付ほういた (辯遊四ノ二二)

楊貴妃 楊國忠 (隨一ノ一〇) (一話一七)

楊玉院 忍岡坂本 一の事 (隨一ノ三)

楊子 楊子雲 (隨餘二ノ九)

楊雲 楊子雲 (隨餘二ノ九)

楊弓 付ほういた (辯遊四ノ二二)

楊貴妃 楊國忠 (隨一ノ一〇) (一話一七)

楊玉院 忍岡坂本 一の事 (隨一ノ三)

楊子 楊子雲 (隨餘二ノ九)

楊雲 楊子雲 (隨餘二ノ九)

楊弓 付ほういた (辯遊四ノ二二)

楊貴妃 楊國忠 (隨一ノ一〇) (一話一七)

楊玉院 忍岡坂本 一の事 (隨一ノ三)

楊去思碑 (如蘭一ノ二〇)

楊子 楊雲 (隨餘二ノ九)

楊枝 世談八二 (談正七二) (松筆一四ノ九)

瓜 紋 猿屋 平 雷打 (辯遊二ノ中ノ二八)

野郎紋 (柳筆下ノ一九) (おろ下ノ九)

黒文字 (おろ下ノ一五)

楊枝店 淺草 一の始 (奇跡一五)

楊大年 祭皇居文 (一話四三ノ二)

楊朴 の詩 (一話一四ノ一八)

楊補之 の詩 (隨餘五ノ二三)

楊茂 名工 (一話四一ノ一九)

八日 月の (松筆八ノ二八)

羊角而上 の義 (技藝一ノ三)

羊羹 (辯遊一〇ノ上ノ三〇)

羊頭削 忽解 一の義 (蕙樓上ノ一六)

羊牌 (筆上ノ四)

機器 「ヤ」折敷ヲ見ヨ

ヤウ一ノ一

様子 といふ語 (松筆七八ノ八四)

揚震 一の揚と揚雄の揚 (隨意八ノ一七)

揚誠齋集 (一話二三ノ一四)

揚名介 揚名集 (松筆四ノ一九)

ヤカ といふ詞 (圓珠二七)

ヤガテ 體の字 (松筆一五ノ二四)

ヤカましき といふ詞 (隨遊上ノ一一)

家 一のよみ様 (安隨四ノ一八) (南留二ノ三)

屋號 (孝經四ノ三) (辯遊二ノ一) (松筆九三ノ四〇)

屋形 といふ文字 (松筆四ノ六〇)

戴帽魚 (乘燭四ノ二〇)

矢からみ (安隨二ノ二六)

野干 「ヤ」折敷ヲ見ヨ

ヤキ 威和 (九ノ七) (柳筆下ノ五)

ヤキモチ 威和 (九ノ七) (柳筆下ノ五)

ヤウ一ノ一

ヤウ一ノ一

ヤウ一ノ一

焼石 「ヤ」折敷ヲ見ヨ

焼半 一の初 (寛天二五)

焼繪 (安隨三ノ五三) (孝經四ノ二八) (辯遊三ノ一四)

焼尾 焼尾といふ事 (玉一ノ三三)

焼切 「ヤ」折敷ヲ見ヨ

焼米 (松筆三九ノ二五)

焼糺 陶器の (隨餘六三) (辯遊二ノ下)

焼附 一の料理 (松筆九六ノ九)

柳本信堯 (自傳一〇ノ一九)

ヤク といふ俗語付三焼野 (手をやく、やき)

やくざ といふ詞 (柳筆下ノ五)

やくた といふ詞 (柳筆下ノ五)

役 職と一の別 (南留五ノ九)

役替初寄合 蕙樓 (暇小)

役者 評判記 (八文字屋)

役人 文政度役人 役者見立、同わいらん話

ヤウ一ノ一

ヤウ一ノ一

ヤウ一ノ一

(半日一四ノ二三)  
 夜具 「ヨキ」夜着ヲ見ヨ  
 夜光壁 (北邊二ノ六)  
 接珠貝 (安隨四ノ七、二ノ四) (鑄曆三  
 七) (鑄遊四ノ二〇)  
 阿久夜王 (松筆九六ノ九七)  
 披取人と錦貝 (安隨一五ノ一六)  
 藥劑 「クヌ」藥ヲ見ヨ  
 藥草吉兵衛 植木屋 (奴風一九)  
 藥師經 (鹽尻二一ノ一六)  
 藥師寺 下野國 (世事三八)  
 尾州春日井郡 (鹽尻一〇ノ  
 三八)  
 大和國 (六重の塔) (鑄書一ノ二五)  
 藥師寺氏 の姓 (白神一〇ノ一九)  
 藥師寺公義 「ケン」元可法師ヲ見ヨ  
 藥師如來 の功徳をかける書 (一話一ノ  
 三四)  
 藥師の前地藏の後 (鑄遊九ノ四三)  
 藥種商 の定員 (一話四ノ三九)  
 藥石 といふ字 (隨意七ノ一一)  
 藥斑布 (綴良一〇二)  
 藥王 といふ義 (梅日五ノ一九)  
 藥鐘 隠元 (世談七三)

約す 約法三章の解 (擲海上ノ三)  
 厄落し に錢を乞食にとらす (松筆五ノ七)  
 厄介 厄會やつかい者 (松筆九ノ一)  
 厄年 (安隨一九ノ二五、五二) (鹽尻一三ノ  
 三三) (燕石一ノ六) (牛馬七六ノ一)  
 書四ノ七、三七) (岩橋四ノ一四)  
 唐土名士の (安隨一九ノ二二) (世談一  
 四二) (橋本初ノ四ノ二)  
 厄拂 (安隨三ノ一一)  
 厄除 初觀世音參 (孝經四ノ二〇)  
 厄落 (鑄遊八ノ三)  
 災除 (藥苑七ノ二二)  
 さいふ非人 (慶長五ノ一)  
 厄病 「エキ」疫病ヲ見ヨ  
 厄病神 「エキ」疫病ヲ見ヨ  
 矢口餅 (梅日四ノ三三)  
 加味 梅日四ノ三六)  
 役味、加役、きみ物、辛味 (松筆二〇五ノ  
 五八)  
 八雲御抄 のよみ方 (鹽尻二一ノ二〇)  
 八雲の道 (松筆七ノ四二)  
 櫛 屋藏 (老牛中ノ四二)  
 家座、土矢倉 (松筆一〇九ノ三七)

やげのやん八 といふ詞 (鑄遊九ノ四六)  
 宅 のよみ方 (南留二ノ三) (南辨一〇)  
 「ヤカ」家ヲ見ヨ  
 驛家 (松筆九四ノ六〇)  
 火傷 の療法 (雲錦四ノ一七) (松筆七ノ  
 一五、七四ノ三〇、八六ノ二二)  
 の咒 (燕石五ノ三)  
 湯 を治す法 (藥叢三ノ一三) (松筆七  
 一ノ三三)  
 石決明の効能 (願風八ノ一〇)  
 藥研堀 兩國 の理立成る (半日二  
 一ノ一七)  
 燒山關 (松筆一一五ノ一一)  
 ●ヤコ  
 矢聲 (鑄曆二三)  
 矢越山 (樞閣下ノ三五)  
 矢どたへの童子 (松筆九五ノ七五)  
 彌五郎 はイヤ五郎とよむ (松筆一〇  
 〇ノ四三)  
 ●ヤサ  
 やさし とほつかし同じ (圓珠一〇)  
 野榮 「サイ」菜蔬ヲ見ヨ  
 野叟獨語 解題 (溫知叢書第四編ノ内)  
 八阪遊女屋 (鑄遊九ノ二八)

八道行成 (シフ)十六武蔵ヲ見ヨ

椰子 椰を消す (筆中ノ一五)  
 屋敷 武家 (柳菴四ノ一一)  
 百姓 の定法 (柳菴三ノ九)  
 (安隨八ノ一六) (安夜四ノ一九)  
 屋島 讃州 (筑紫二ノ二九)  
 屋代弘賢 小傳 (溫知叢書第七編道成寺  
 後言の 考解題ノ内) (見小首  
 後言の 論を駁す) (後言四  
 卷)  
 其妻に與へし文 (如關七ノ三三)  
 の和歌 (一話二ノ三)  
 夜耳 列子湯問篇の義 (葦樓上ノ二二)  
 夜叉頭 焉藥花開菩薩面、機綱葉散  
 の作者 (乘烟三ノ一九)  
 養 切 (松筆九八ノ五一)  
 鐵 の字訓 (安隨一ノ二二)  
 矢根 (安隨一四ノ三)  
 宛夾 (安隨九ノ二八)  
 古 (安隨九ノ二八) (二上二七)  
 爲朝の (鹽尻一ノ四)  
 分陀河原より擲出たる (眞顔か之をよ  
 むる歌) (擲書四ノ三一)  
 の射込たるを抜く藥法 (安隨一九ノ九)  
 (秋齋三ノ七)  
 「ヤ」矢ヲ見ヨ  
 鐵石 (傍廂五八) (如蘭三六ノ一六)  
 石簪 (鑄苑一ノ二二) (昆陽六ノ二)  
 能州石簪 (白神三ノ二)  
 出羽遊佐濱に 降る (隨意六ノ三三)

矢鏃鑿鑑 といふ書 (一話二ノ二三)  
 矢代 の圖 (安隨二〇ノ七)  
 社 「シン」神社ヲ見ヨ  
 野心 といふ字の出處 (安隨二ノ二二、一  
 五ノ一)  
 ●ヤヌ  
 やす暮 (松筆二六ノ一八)  
 錯 ミい、漁具 (鑄遊二ノ三三)  
 安賣札廻 (我衣六一)  
 安田一菴 (源躬鼓) 略傳并歌 (擲書二ノ  
 三〇)  
 源躬鼓の和文并和歌 (一話三六ノ四)  
 安大事 (松筆九三ノ二二)  
 安富領 (松筆九七ノ四三)  
 安松金右衛門 河越に堀割を穿つ (二話  
 八) (郊行尋春の詩) (半日三ノ四  
 八)  
 安原花の祭 (安隨二〇ノ二〇)  
 野洲郡 (安隨三〇ノ一四) (屏遊二)  
 泰姫 徳川光圀の室 (一話) (年打上ノ  
 七二)  
 休所 阪崎の入宿 (松筆九二ノ一一)  
 夜須禮 (安隨一九ノ五一)  
 荻鏃 (鑄曆一ノ七) (同四  
 ノ三四)

鬼神餘論の中安良比花の事 (燕石三ノ一)  
 ●ヤセ  
 やせ坊 (足跡一ノ五八)  
 八瀬 山城國の言葉 (鑄遊二一ノ一四)  
 八瀬童子 (考) (安隨一五ノ一三)  
 ●ヤソ  
 耶蘇教 徂徠崎人跋 (一話一四ノ四二)  
 五維祖所載の天主教 (安隨七ノ四〇)  
 吉利支丹 (松筆八五ノ四五、四四)  
 天主教 (松筆八五ノ四五)  
 續耳談に記する (鹽尻四ノ三二)  
 信すべからず (春波二)  
 切支丹 恐るに足らず (春波九三)  
 耶蘇の賊 (松筆八五ノ五六)  
 日本人三眼 (松筆八五ノ五六)  
 天主教の禁、多波下 (一八)  
 我天主教の禁、多波下 (一八)  
 書簡 (一話五ノ五)  
 寛永中羅馬人布教の爲渡來の事 (二話三  
 五ノ一六)  
 島原に城申より奉りたる陳情書 (一話三  
 一ノ一六)  
 阿蘭陀人申渡したる書付二通寫 (一話三  
 一ノ三三)  
 禁制の控書 (一話三七ノ七)  
 寛永十九年平戸入敷改帳の中 (一話三五  
 元ノ一五)  
 元禄八年唐人共申渡書付 (一話三五ノ  
 一六)  
 長崎の踏繪 (鹽尻八ノ四一)  
 支那に 渡來 (橋本四ノ五)  
 「ヤホ」大村氏ヲ見ヨ

耶蘇教徒 轉切支丹類族(二話二四ノ二)

井上筑後入道の話 一の取締の事  
御文右衛門、原美濃守を改むる事を  
拒む(白神二ノ一)

八十島氏 の後(一話一三ノ二九)

八十島祭 の使(安隨一〇ノ一五)(二上  
七三)(玉が三ノ二四)(二上  
玉が三ノ三九)

●ヤタ

やたばり の文字(鹽尻四六ノ四)

やたら といふ詞(松筆八五ノ三九)

やたら漬 (松筆三八ノ四)

屋臺 (辯遊七ノ二二)

八咫鏡 (サン)三種神器ヲ見ヨ

八咫鳥 の説(筆す下ノ二三)

箭筒 (安隨二ノ七)

矢立 (拾玉四ノ二九)(梅日一ノ一九)(老  
牛中ノ一六)(松筆五ノ二二)

●ヤチ

やぢ馬 (辯遊四ノ五)

●ヤツ

やつがれ といふ詞(辯遊九ノ四二)

やつ付る といふ詞(松筆七八ノ七四)

八ッ橋 (松筆七八ノ二)

八ッ橋 三州(関掛一ノ三八)(関次一  
三ノ一六)(鹽尻二ノ二二)(同五  
六ノ六八)(橋本初ノ一六)(比古  
十境(鹽尻五ノ一五)  
の燕子花(理窟二ノ五)  
をよめる歌(鹽尻四九ノ一九)

八咫宮 (鹽尻二ノ一八)

屋作り 一カオ一家庭ヲ見ヨ

奴 賤者を一といふ(居龍五ノ一)

奴 一オト男達ヲ見ヨ

奴詞 (辯遊九ノ四)

六方調 といふ六方、よく原六方(用

●ヤト

拾上ノ一五)

奴師勞之 解題(奴風二)

奴茶屋 (世談一六六)

奴豆腐 一トワ豆腐ヲ見ヨ

奴小嵩 正慶尼茶屋の死を悼む文(蘇  
段五ノ一六)

●ヤト

矢頭教兼 赤穂義士 一の逸事(如  
蘭三四ノ六)

寄居子 「カウ」蟹類ヲ見ヨ

寄生木 全「や」又は「よ」といふ(圓珠  
九)

宿城 「シヤ」城下ヲ見ヨ

雇人 人を使ふ心得(病問二七)(如蘭一ノ  
二二)(白禮三三)

旅宿 古の(玉か一〇ノ一七)

●ヤナ

慶長年間の宿帳(柳菴一ノ一九)

馬喰町の景況(柳菴一ノ二三)

の取締(一話四ノ四二)

「ハタ」旅籠ヲ見ヨ

●ヤシ

家根 といふ名(燕石一ノ二二)

板(松筆五ノ二一)(松筆一〇ノ四七)

木根(松筆一〇ノ四七)

木根(安隨一ノ二二)

江戶五洲の始(北平中ノ二二)(松筆一ノ  
五ノ九)

支那にて茅屋を瓦舎に改めし事(一話二  
五ノ八)

家根板 種々、月役(辯遊一ノ上ノ  
「ソギ」モミヲ見ヨ)

家根をふく といふ隠語(松筆六七ノ二)

家根ふき士 (松筆九八ノ二三)

家根屋 (松筆一六ノ一〇)

●ヤノ

矢の根石 「ヤシ」礫石ヲ見ヨ

●ヤハ

やはり といふ俗語の字(安隨八ノ二五)

梁 「ア」綱代ヲ見ヨ

梁川星巖 梁嶽詩(擁書四ノ三三)

梁田才右衛門 の花押(一話四三ノ二七)

梁田蛭巖 書翰の寫(一話二六ノ二五)

柳箱 (安隨一ノ五二)(九ノ二三)(鹽尻四  
ノ二三)(辨遊五ノ三三)(四ノ三三)  
(秋齋一ノ八)(玉が八ノ三)(同三ノ  
二上三三)(松筆四ノ五五)(松筆三六  
ノ一九)

柳川城 筑後 主の事(白神五ノ二)

柳 の木(南留三ノ一)

に數種あり(茶筆三ノ二三)

「うむり」(年打上ノ二八)

「はら」(葉三ノ一五)

「さいふ」(昆陽一八四)

遊園(鹽落三ノ二九)

柳原殿の花にあらす(筆す下ノ一六)

柳井詩(四方ノ二〇)

柳の花をよめる事(北邊四ノ一〇)

柳順剛 の車轍(撈漣下ノ三三)

柳腰 (松筆八三ノ一一)

柳澤淇園 (里談)小傳(百家説林卷八雲  
雜志の首)

柳澤青保 の事(かける書(難江五ノ一  
〇一))

昇進の次第(瀬田二二)(長春上ノ一  
六)(松筆二五二)

柳代 一の詩(一話二三ノ三四)

柳代(松筆九五ノ七九)

柳樽 といふ名(鹽尻一ノ三二)(松筆六  
ノ三三)

柳に鞠 (柳筆上ノ一三三)

柳は緑 といふ語の作者(橋本初ノ二ノ七)

柳橋 考(傍廂一四八)

柳原家 柳を植ふる事(閑自三ノ二)

の紅梅の古樹(閑自三ノ一)

の念誦堂(閑自三ノ二)(同三ノ八)

の描繪(閑自三ノ三)

の辨財天(閑自三ノ四)

中筋鋪地の事(閑自三ノ六)

天明火後小佛數多現はれし事(閑自三ノ  
六)

の古人形(閑自三ノ八)

所藏の震翰(閑自一ノ四)

柳原紀光 小傳(百家説林卷九、閑自白適  
の首)

柳町 大橋 考(奇跡一五三)

柳松 といふ植物(鹽尻二五ノ二八)

柳瀬美伸 隱口美伸の歌の話并同人の碑  
文(泊々一)

胡蝶 「エヒ」類ヲ見ヨ

●ヤニ

やには といふ詞(辯遊附ノ一二)

家根 といふ名(燕石一ノ二二)

「けり」(辨遊一ノ上ノ一九)

「板」(松筆五ノ二一)(松筆一〇ノ四七)

「木根」(松筆一〇ノ四七)

「木根」(安隨一ノ二二)

江戶五洲の始(北平中ノ二二)(松筆一ノ  
五ノ九)

支那にて茅屋を瓦舎に改めし事(一話二  
五ノ八)

家根板 種々、月役(辯遊一ノ上ノ  
「ソギ」モミヲ見ヨ)

家根をふく といふ隠語(松筆六七ノ二)

家根ふき士 (松筆九八ノ二三)

家根屋 (松筆一六ノ一〇)

●ヤノ

矢の根石 「ヤシ」礫石ヲ見ヨ

●ヤハ

やはり といふ俗語の字(安隨八ノ二五)

矢筈 (松筆八三ノ二、八六ノ四八)  
 菊の形 (長陽二八)  
 鐵掃帚 (羅江四ノ五三)  
 八鉢手綱 「ウマ」馬ヲ見ヨ  
 耶馬臺國 (隨意一ノ一六) (隨意五ノ四)  
 「ニホ」日本ヲモ見ヨ  
 耶馬臺詩 (隨意一ノ一七)  
 柔術 「シワ」柔術ヲ見ヨ  
 ●ヤヒ  
 野郎 一團團 (松筆九七ノ三九)  
 八開手 (秋齋一ノ二)  
 ●ヤフ  
 藪 といふ名 (圓珠八二)  
 藪醫 「イシ」醫師ヲ見ヨ  
 藪入 (燕石四ノ二) (辯遊八ノ四)  
 走百病 (世談二四)  
 藪を敲て蛇を出す といふ諺 (松筆八  
 藪柑子 「ヤマ」山柑 「ホタ」牡丹ヲ見ヨ  
 藪神 (松筆九三ノ二三)  
 藪里瘦男 の木名 (一話一九ノ五)  
 藪に香の物 さいふ語 (笈埃三ノ二七)  
 (曲漫一ノ二二) (牛馬六

一) (兎集三二) (兎小中ノ一七二) (南  
 嶺二ノ五) (松筆九ノ一五)  
 野府記 (安隨一九ノ一六)  
 寄か さいふ字訓 (橋寄初ノ四ノ九)  
 流鏑馬 宇佐八幡 (安隨一八ノ三九)  
 安永四年高田馬場 (半日四ノ二)  
 「キシ」騎射ヲ見ヨ  
 養父明神 俱馬國 (笈埃五ノ一  
 ●ヤヘ  
 八重山 箱根の中 (一話二九ノ四〇)  
 ●ヤホ  
 ヤぼ といふ俗語の木字 (年々四ノ七)  
 八百日集 の話 (泊々四〇)  
 八百膳 の料理 (笈天七)  
 八百屋 「アオ」青物商ヲ見ヨ  
 八百屋七七 の實談 (江著二一) (世事一  
 七四ノ一七) (我衣一三〇) (松筆  
 一) の語 (一話三ノ二二)  
 ●ヤマ  
 やまのうづげり 「キシ」雄子ヲ見ヨ  
 山 さいふ語の意味 (南留二ノ一四)

は元海なりし説 (鹽尻五〇ノ二〇)  
 新に突出す (松筆八八ノ七)  
 草一石 (松筆九七ノ二四)  
 雄一雌一 (松筆八ノ三八)  
 高に登る時の心得 (一話二ノ二二)  
 世界第一の大 (長陽六六)  
 山おる 山藍と山間 (櫻園下ノ一)  
 山おる染 (雨窓六六)  
 山姥 嶺山の (笈埃三ノ八)  
 山の住みし處 (笈埃五ノ二)  
 山緒 といふもの (松筆六六ノ三九)  
 山岡凌明 の略傳 (葉二)  
 (明阿彌)の傳 (假世四) (一話一ノ四四)  
 一生不寝の話 (泊々三二)  
 藏書跋文數珠 (半日九ノ二七)  
 百卷と明阿のうた (一話二ノ二七)  
 明阿が伊香保口遊のうた (攤書一ノ一五)  
 山岡瀨兵衛 山緒書上 (半日七ノ一六)  
 山岡道阿彌 (備前入道) (俗生の事 (一  
 山送り 「サウ」葬式ヲ見ヨ  
 山男 (鹽尻一ノ一七)  
 山女 陸奥の (奥波二二)  
 山女 (植「アケ」山女ヲ見ヨ  
 山家 朴翁居士の (記) (年打二ノ七三)  
 志水法師の (の冬をよめる歌 (鹽  
 尻四五ノ六)  
 山家大師 (胎餘二ノ一九)  
 山家者 さいふ語 (松筆一〇〇ノ三六)

山鹿素行 (甚五左衛門)の事 (福田二六)  
 山形 八を—さいふ (松筆九七ノ二〇)  
 山形 出羽國—の風俗 (笈埃四ノ二二)  
 山形氏 系圖 (鹽尻六ノ三三、三六ノ三八)  
 山縣大貳 (如關三〇ノ二八)  
 山左 さいふ字 (一話二五ノ三二)  
 山か (一) (幽遠下ノ三三)  
 山雀 本詠める古歌 (鹽尻四一ノ三三) (鹽尻  
 一〇ノ一六)  
 の水が汲むさいふ事 (おる下ノ一六)  
 のもとどり打といふ事 (松筆九五ノ八)  
 山口氏 の先 (鹽尻七ノ三五、八ノ三一)  
 山口小辨 か武勇 (一話四ノ四四)  
 山國川 豐後の—の勝景 (茶筆四ノ八)  
 山言葉 (松筆三八ノ九)  
 山崎關齋 の傳 (鹽尻九ノ三二)  
 の履襪并逸事 (閑散上ノ一四、一七)  
 垂加翁の嚴格 (假世五二)  
 の神道及其三高弟 (閑散上ノ二四、  
 二九)  
 山崎宗鑑 (鹽尻一〇ノ一八)  
 の傳 (半日五ノ一)  
 逸事 (橋寄二ノ五ノ一三)  
 の幼時 (鹽尻四一ノ一一)  
 (宗周)の物數寄 (八水一五)  
 の居の地 (一話四ノ四)  
 の遊 (遊一ノ上ノ二六)  
 の港に揚げし語 (一話五ノ二九)

山崎橋 の興廢 (一話二〇ノ六)  
 山崎美成 小傳 (談正一) (兎小首ノ一)  
 好問堂の號 (兎小上ノ三八)  
 山里御番 五 被仰付 (一話三ノ  
 山下廣丙 の上書 (梧拾九)  
 山科御堂 の敷地 (白神四ノ四)  
 山城 國號考 (鹽尻四八ノ二七) (松落  
 一ノ四)  
 以 國處之第一 (孝經二ノ七)  
 山菅 (安隨三ノ二九)  
 山田 寶永三年勢州山田の大火 (鹽尻三三  
 ノ二二)  
 山田大佐 の奇才 (閑散下ノ三三)  
 山田長政 (仁左衛門)の事 (一話一ノ  
 二) (談小一ノ一一)  
 山田の曾富騰 といふ東北邊 (一話二ノ  
 山だち (松筆六八ノ二六)  
 山橋 (安隨三ノ二九) (支同二ノ一一) (難  
 江三ノ五四)  
 山路徳風 (才助)の傳書の編成 (一話二  
 五ノ四三)  
 山茶 「イッ」遊女ヲ見ヨ  
 山中長俊 の姓 (白神一〇ノ一七)  
 山中平九郎 名傳 (長春上ノ  
 二九)  
 山中幸盛 鬼女の語 (卷跡三七) (江著七二)  
 (白神二ノ七)

山鳴 を枕うちて止む (四方花ノ一七)  
 山猫 虎を—といふ (世事一〇)  
 一といふ鹽賣女 (瀬田一一)  
 山猫舞し (談小六三) (塵埃九) (病問二  
 二)  
 山内一豊 の履歴 (一話四ノ二九)  
 山神 の怪異 (笈埃一ノ一一)  
 山の根 といふ事 (秋齋二ノ七) (半日五  
 三)  
 山鳩 ぼ希なる事及其羽色 (内安一九)  
 山開 (松筆八三ノ五一)  
 山吹 の本字 (半馬四一)  
 款冬、康菜 (乘燭四ノ二二)  
 桃菜花 (二上七) (花月九八)  
 款冬、仙翁花 (松筆九一ノ二五)  
 の實の桃菜と款冬と訓の別なる事  
 (攤書四ノ五)  
 七重八重のうた (孝經一ノ一九)  
 (攤書四ノ五)  
 山伏 (安隨四ノ一九) (藝苑一ノ三三) (居  
 龍四四) (病問三〇) (松筆一三ノ一  
 二)  
 の打扮 (嬉遊二ノ上ノ一五)  
 偽 (嬉遊一ノ一)  
 我國の修驗道 (鹽尻三九ノ三一)  
 源氏物語のソミカグダ (鹽尻五〇ノ四)  
 七代まで染りし語 (奥波二七)  
 山伏筒 (松筆九〇ノ九)  
 山邊赤人 (年打下ノ二四)  
 のよみ様 (鹽尻二〇ノ六)  
 赤人の遺跡、赤人屋敷、山邊御井、赤人硯

水 (玉が三ノ一)  
 山邊阿麻真人 (春添中ノ一五)  
 山録 「キオ」祇園祭ヲ見ヨ  
 山牡丹 「ホタ」牡丹ヲ見ヨ  
 山鷺 野鷺 (松筆一ノ六)  
 山宮雪樓 儒者 (官兵衛) カサカサ  
 山村良景 カサカサの詩歌 (鹽尻二四ノ一)  
 山本角太夫 淨瑠璃講子 (六ノ上ノ三五)  
 山本源右衛門 漢上 (二ノ話 三一ノ一六)  
 山本春松 (松筆一〇四ノ一六)  
 山本清溪 (正臣) カサカサ (松筆一八)  
 山本晴幸 の明眼 (傍廂九八)  
 山本北山 (信右) の詩 (松話三二)  
 山守 芝居の金主となる (松筆一四ノ一) の哀辭 (訓淺三四)  
 山百合 (松落四ノ五六)  
 豪猪 (閑耕三ノ四) (春霞二ノ一七) 獻上 (平日一ノ二五)  
 投機師 山カカシの傳、撮合山記 (戲文) (松筆三ノ九)  
 養徳 のよみ (松筆六三ノ二三)  
 大和 の名 (安隨六ノ二九) (鹽尻三九ノ三)

大和 日本ヲ見ヨ  
 大和大路 (玉が六ノ二三)  
 大和國 方塔記 (鹽尻六ノ四) の方言 (世事六九)  
 大和小學 (松筆三ノ二七)  
 大和舞 (松筆九四ノ三〇)  
 倭 日本ヲ見ヨ  
 倭歌 といふ事 (圓珠三六) (松筆八九ノ七)  
 倭繪 (ワキ) 淨世繪ヲ見ヨ  
 倭繪師 「エシ」 繪師ヲ見ヨ  
 倭錦 「エシ」 錦ヲ見ヨ  
 倭日向武日向彦八綱田 の名の唱比 (古三ノ二六)  
 倭姫命 (熊谷四ノ二三)  
 倭姫命世記 倭姫命の御名の唱 (比古三ノ三)  
 日本武尊 倭建命の御名の唱 (比古三ノ三) 伊勢能保野の建碑並倭建命の御歌を論ル (折々夏ノ六)  
 薯蕷 東征地名考 (如蘭八ノ二三) 殿となる (閑耕三ノ一九) (松筆三ノ五、六、二ノ二二)  
 病 「ヒヤ」 病氣ヲ見ヨ  
 石斑魚 (理齋五ノ二七)

山女といふ魚 (談小五ノ三一)  
 揚梅亞相 (筆下ノ三)  
 谷村 甲斐—娘 (松筆九八ノ三三)  
 宇宮 (傍廂一五八)  
 やま といふ詞 (傍廂三〇)  
 やま といふ詞 (傍廂三〇)  
 矢來 朝鮮— (傍廂一ノ上ノ一六) (松筆八六ノ三〇、三八) 「カキ」 垣ヲ見ヨ  
 野郎 といふ字 (橋本二ノ三八) 男子心— といふ (柳記上ノ二七) 人を罵る— といふ (松筆一四ノ七) 「カケ」 娼童ヲ見ヨ  
 やりくわんばう といふ詞 (松筆八五ノ六二)  
 鎗 (松筆八四ノ六九)  
 戈戟 (談小五ノ二二)  
 矛鏃根元 (如蘭二九ノ六)

の名義と時代 (傍廂四七)  
 の東山 (牙窓中ノ三三)  
 大島毛の— (安隨一ノ二二)  
 管の管 (八水二二)  
 月山殿 (松筆一五ノ二〇)  
 長柄の— (鹽尻三ノ一五)  
 尾の— (長刀なる事 (傍廂八一))  
 の目貫の掛けし時の心得 (白秘五八)  
 武功の士のみに免す—の事 (一話四ノ四九)  
 平松金三郎の— (一話四ノ三八) 「サツ」 箱ヲ見ヨ

槍柄 竹の— (松筆一〇九ノ四二)  
 槍持 大小をさす (松筆八四ノ七八)  
 遣り手 又火事又おんぼう (嬉遊九ノ八) (柳筆下ノ六) (屠龍一〇) 「イウ」 遊廓ヲ見ヨ  
 遣り戸 「ト」 戸ヲ見ヨ  
 耶律楚材 の墓 (松筆一七ノ六四)  
 ヤレ といふ詞 (松筆四ノ一一)  
 ヤン (足新一ノ五八) (川捨中ノ二) (理齋五ノ四〇) (二上三五) (理齋五ノ四〇)

ノ一八)  
 ヌ  
 湯 早く沸く法 (安隨一ノ二三)  
 ニア 湯淺常山 (元續) カカける書を見て思へるやう (松落三ノ四二)  
 ヌイ 山井 といふ人名と地名 (松筆九四ノ二六) (一話一八ノ六)  
 山井正雪 正雪は松雪なる事 (我衣一三八) 謀反の實説 (編田一九四二) 謀反訴入跡目 (一話四ノ三) 梅屋 舊跡并菩提寺正雪の古墳 (曲波上九)

山緒 といふ説 (松筆七ノ三五)  
 由緒書 (松筆九二ノ七一)  
 唯稱上人 (鹽尻六ノ三〇)  
 湯一提 (松筆七五ノ二九) 無垢稱經 (鹽尻二二ノ二三) 同 (四〇ノ一六)  
 維摩會 興福寺—の講師の請 (玉が三ノ二三)

勇 眞の—武 (我宿三二) 小—大 (鹽尻九ノ一四) 荒木文右衛門の幼時 (閑耕一三) 「アユ」 武勇「チン」 沈勇ヲ見ヨ  
 勇 弘毅 (技藝一ノ二六)  
 熊經 「タウ」 導引ヲ見ヨ  
 ヌカ ゆかしきもの (假世五二) ゆかりの色 「ムラ」 葉ヲ見ヨ  
 床 林の名義 (碩鼠九ノ二八) 支那の—の構造 (傍海下ノ二九)  
 指懸 の緒のとめ様 (安隨一ノ一六)  
 浴衣 (孝經三ノ二二) 湯帷子を振ふ (松筆九六ノ三四)  
 由加物 (安隨一〇ノ四) (二上五六)  
 ヌキ 雪 一説 (雲津三ノ二) 一説 (大レ) といふ (圓珠二九) 夏— (閑耕一ノ六) 冬— (閑耕一ノ九) 袋の— (藤江二ノ八九) 文化六年の大— (鹽尻四ノ四〇) 吹—に遇ひし時の心得 (四方月ノ二七)



雪指 (北邊四ノ六)  
 水に肥料とす (昆陽三八)  
 一にて岩又は山を作る (嬉遊六ノ下ノ三)  
 花との優劣 (足新一ノ二六)  
 友まつ (一話八ノ三九)  
 白石の詩付南歌か月花の詩 (一話一  
 七ノ二〇) (南歌上ノ三二)  
 春日祭に降りしは歌 (鹽尻五四ノ三  
 〇)  
 一日唱和 (駿臺信ノ四一)  
 重きものしめり茶磨に笠の (足新一ノ  
 二二)  
 初いや犬の足あさ梅の花の出處 (三養二  
 七ノ二七)  
 跋野一字 (餘餘一ノ二四)  
 雪打 (嬉遊六ノ下ノ三二)  
 雪女 (嬉遊六ノ下ノ三二)  
 雪轉し (嬉遊六ノ下ノ三二)  
 雪こころ (嬉遊六ノ下ノ三二) (才窓上  
 ノ二五)  
 雪灯籠 (嬉遊六ノ下ノ三二)  
 雪顔れ に遇ふて命を免れし盗人の話 (折  
 々春ノ二二)  
 雪の浦 上總 (松筆九ノ二二)  
 雪のさかり (松筆九ノ二二)  
 雪の竿 (世事二九)  
 雪の下 (さいふ物語 (松筆八七ノ八))  
 雪ののり物 (さいふ事 (隣女二四五))  
 雪ほど黒きものはなし (さいふ事松  
 筆一五ノ

ユキ

雪見 (嬉遊六ノ下ノ三〇)  
 雪の風情 (鹽尻三九ノ四)  
 雪餅 (閑次ノ三〇)  
 雪やけ 「シモ」凍着ヲ見ヨ  
 山木 (松筆九六ノ三二)  
 山木郷 武蔵國 (松筆九四ノ七)  
 鞍負 (安隨一ノ二二)  
 行かけの駄賃 (松筆九三ノ一六)  
 行かれて 患度 (五ノ一九) のうた (笈埃  
 六〇、六七、七二)  
 行平鍋 (松筆一〇〇ノ三九)  
 悠紀、主基 御世のの大典月日 (一  
 二九、八〇、八三)  
 悠紀主紀 (兼燭四ノ一五) (松筆六六ノ一  
 七)  
 虎耳草 「タイ」大管管ヲ見ヨ  
 虎耳草 の名詞 (燕石一ノ二二)  
 遊寄 (松筆一ノ五)  
 遊行上人 (鹽尻五四ノ四)  
 遊行寺 藤澤山宇賀神社緣起付南朝門跡の  
 (清淨光寺) 座次列坐次 (鹽尻七ノ一五)

ユキ

遊行札 六十萬人 (松筆九二ノ九)  
 遊行柳 (鹽尻上ノ二九)  
 湯起請 「クカ」探湯ヲ見ヨ  
 ゆくて (松筆八三ノ五)  
 之く (さいふ字 (昆陽三九))  
 行く の字訓 (安隨一〇ノ二二) (二上七九)  
 「イク」いくヲ見ヨ  
 弓削道鏡 の墳 (世事四〇)  
 湯桁 伊豫の (安隨一九ノ四二)  
 遊佐氏 の姓 (自神一〇ノ一六)  
 遊山 (さいふ語 (松筆一三〇ノ三六))  
 鞆 (嬉遊六ノ下ノ二五)  
 柞 又は、そ (圓珠二八)  
 湯島大根島 「タイ」天根圃ヲ見ヨ

湯島天神

の開帳并奉納細工物 (平日一  
 二ノ七)  
 の開帳 (平日一三ノ三六)

ユス

柚 の漬け様 (北邊三ノ八)  
 ユス 元服の時用ふる一の事 (鹽尻一〇  
 ノ六)

ユタ

ゆたのたゆた (さいふ事 (居龍五〇))  
 湯立 (孝經四ノ八) (暗語一〇ノ一八) (隨  
 意五ノ四二) (玉) (二ノ七) (南  
 三ノ九) (松筆一〇九ノ四三)  
 「クカ」探湯ヲ見ヨ  
 油罩 (嬉遊二ノ上ノ一三)  
 油断 兩皮 (安隨一五ノ一四、二九)  
 「カツ」合羽ヲ見ヨ  
 油斷 大猷 (雲華三ノ二三) (駿臺智ノ  
 五九) (松筆八〇ノ二七)  
 明日ありと思ふ心 (理齋二ノ二六)  
 名將 なし (窓す九)  
 非伊直季 (窓す九)  
 無難の時長る (し) (松筆六四ノ三九)  
 弓丈 (松筆九六ノ三〇)

ユチ

俞長城 清 (一) の儒學 (隨意八ノ八)

ユツ

ゆづ (さいふ詞 (北邊三ノ七))  
 湯漬 (安隨一九ノ五四) (松筆六ノ一三)  
 標葉 又親子草 (孝經四ノ一) (安隨一  
 九ノ四〇)  
 「マツ」松飾ヲ見ヨ

ユテ

ゆでやのおさやさん 大阪寶聲の内  
 (浪花三二)

ユト

湯殿 (松筆三八ノ二)  
 湯桶文章 (松筆三ノ二二)  
 湯桶讀 (安隨一四ノ二二) (瓦礫一ノ三  
 一)  
 湯殿の上 考 (鹽尻三五ノ一六)  
 湯殿鳴弦 「ヒキ」鳴弦ヲ見ヨ

ユナ

湯女 「フロ」風呂ヲ見ヨ

ユハ

湯婆 豆腐皮 (燕苑八ノ三四) (骨董下後ノ  
 二六)

ユヒ

湯原氏日記 抄録 (一話三二ノ五)  
 ゆひ 把を (さいふ) (松筆七八ノ三)  
 指 および (安隨八ノ二九) (安夜五ノ九)  
 指 の名 (松筆七ノ三九)  
 たか (松筆七ノ三九) (松筆五ノ二三)  
 十を六波羅密といふ (南宮三ノ二〇)  
 指切 (嬉遊六ノ下ノ三) (松筆六六ノ四四)  
 指輪 (嬉遊二ノ上ノ四二) (遊事一〇)  
 兪爾 左傳僖公二十年條 考 (鹽尻上ノ二  
 結駁 (松筆九六ノ一六))

ユフ

ゆふつけ鳥 (松筆七ノ二〇)  
 ゆふづ、長庚星を (一) (松筆一ノ二)  
 木綿 (閑耕三ノ一六) (松筆三ノ二)  
 「アラ」麗妙「モメ」木綿ヲ見ヨ  
 木綿たすき (居龍三一) (老牛上ノ二五)  
 (安隨五ノ一四)  
 木綿布山 豊後國遠見郡 (鹽尻  
 五ノ四)

ユク

夕顔 夕顔の下涼 (居龍三九)  
 夕顔 夕顔の下涼 (居龍三九)  
 夕霧 扇屋のの死 (二話二ノ二九)

夕つく夜 といふ事 (維新二ノ三四)

夕ぐれ といふ事 (園珠一三)

夕ぐれ といふ事 (年々五ノ一九)

結城氏 五の祖と代々の稱號 (鹽尻三ノ五)

結城陣 の年月 (一話二四ノ二〇)

湯巻 シタ下帯ヲ見ヨ

弓 〔た〕らし、又〔あ〕るさといふ (園珠三)

弓矢 我國の神代よりあり (理齋六ノ八)

弓取 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓弦 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓始 (松筆九ノ五〇)

弓場殿 のよみ方 (松筆七三ノ三一)

弓袋 の縫遷 (松筆七九)

弓矢 我國の種類 (安隨一〇二)

天鹿兎 (鹽尻一七ノ三三)

夕つく夜 といふ事 (維新二ノ三四)

夕ぐれ といふ事 (園珠一三)

夕ぐれ といふ事 (年々五ノ一九)

結城氏 五の祖と代々の稱號 (鹽尻三ノ五)

結城陣 の年月 (一話二四ノ二〇)

湯巻 シタ下帯ヲ見ヨ

弓 〔た〕らし、又〔あ〕るさといふ (園珠三)

弓矢 我國の神代よりあり (理齋六ノ八)

弓取 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓弦 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓始 (松筆九ノ五〇)

弓場殿 のよみ方 (松筆七三ノ三一)

弓袋 の縫遷 (松筆七九)

弓矢 我國の種類 (安隨一〇二)

天鹿兎 (鹽尻一七ノ三三)

夕つく夜 といふ事 (維新二ノ三四)

夕ぐれ といふ事 (園珠一三)

夕ぐれ といふ事 (年々五ノ一九)

結城氏 五の祖と代々の稱號 (鹽尻三ノ五)

結城陣 の年月 (一話二四ノ二〇)

湯巻 シタ下帯ヲ見ヨ

弓 〔た〕らし、又〔あ〕るさといふ (園珠三)

弓矢 我國の神代よりあり (理齋六ノ八)

弓取 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓弦 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓始 (松筆九ノ五〇)

弓場殿 のよみ方 (松筆七三ノ三一)

弓袋 の縫遷 (松筆七九)

弓矢 我國の種類 (安隨一〇二)

石弓 (安隨一〇二)

弓袋 の縫遷 (松筆七九)

弓矢 我國の種類 (安隨一〇二)

弓取 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓弦 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓始 (松筆九ノ五〇)

弓場殿 のよみ方 (松筆七三ノ三一)

弓袋 の縫遷 (松筆七九)

弓矢 我國の種類 (安隨一〇二)

弓取 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓弦 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓始 (松筆九ノ五〇)

弓場殿 のよみ方 (松筆七三ノ三一)

弓袋 の縫遷 (松筆七九)

弓矢 我國の種類 (安隨一〇二)

弓取 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓弦 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓始 (松筆九ノ五〇)

弓場殿 のよみ方 (松筆七三ノ三一)

弓袋 の縫遷 (松筆七九)

弓矢 我國の種類 (安隨一〇二)

弓取 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓弦 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓始 (松筆九ノ五〇)

弓場殿 のよみ方 (松筆七三ノ三一)

弓袋 の縫遷 (松筆七九)

弓矢 我國の種類 (安隨一〇二)

弓取 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓弦 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓矢取 の稱 (南留四ノ一七)

弓矢奉行 (鹽尻四ノ三四)

ゆめ といふ事 (梅日三ノ二四)

ゆめ といふ事 (園珠三)

ゆめ といふ事 (年々五ノ一九)

ゆめ といふ事 (維新二ノ三四)

ゆめ といふ事 (園珠一三)

ゆめ といふ事 (年々五ノ一九)

ゆめ といふ事 (維新二ノ三四)

ゆめ といふ事 (園珠一三)

ゆめ といふ事 (年々五ノ一九)

ゆめ といふ事 (維新二ノ三四)

ゆめ といふ事 (園珠一三)

ゆめ といふ事 (年々五ノ一九)

ゆめ といふ事 (維新二ノ三四)

ゆめ といふ事 (園珠一三)

ゆめ といふ事 (年々五ノ一九)

ゆめ といふ事 (維新二ノ三四)

ゆめ といふ事 (園珠一三)

ゆめ といふ事 (年々五ノ一九)

ゆめ といふ事 (維新二ノ三四)

ゆめ といふ事 (園珠一三)

ゆめ といふ事 (年々五ノ一九)

ゆめ といふ事 (維新二ノ三四)

ゆめ といふ事 (園珠一三)

ゆめ といふ事 (年々五ノ一九)

ゆめ といふ事 (維新二ノ三四)

ゆめ といふ事 (園珠一三)

ゆめ といふ事 (年々五ノ一九)

夢 といふ事 (園珠一三)

夢野の鹿 (比古六ノ一三)

夢の世 榊尾鹿木上人の (ゆた松筆二ノ九九)

夢々物語 の作者 (鳥おとし首)

夢野の鹿 (比古六ノ一三)

夢の世 榊尾鹿木上人の (ゆた松筆二ノ九九)

夢々物語 の作者 (鳥おとし首)

湯屋 「フロ」風呂ヲ見ヨ

熊野 宗盛の妾「クマ」熊野ヲ見ヨ

夢野の鹿 (比古六ノ一三)

夢の世 榊尾鹿木上人の (ゆた松筆二ノ九九)

夢々物語 の作者 (鳥おとし首)

湯屋 「フロ」風呂ヲ見ヨ

熊野 宗盛の妾「クマ」熊野ヲ見ヨ

ゆめ といふ事 (園珠一三)

ゆめ といふ事 (梅日三ノ二四)

ゆめ といふ事 (園珠三)

ゆめ といふ事 (年々五ノ一九)

ゆめ といふ事 (維新二ノ三四)

ゆめ といふ事 (園珠一三)

ゆめ といふ事 (年々五ノ一九)

ゆめ といふ事 (維新二ノ三四)

ゆめ といふ事 (園珠一三)

ゆめ といふ事 (年々五ノ一九)

ゆめ といふ事 (維新二ノ三四)

ゆめ といふ事 (園珠一三)

ゆめ といふ事 (年々五ノ一九)

ゆめ といふ事 (維新二ノ三四)

弓 〔た〕らし、又〔あ〕るさといふ (園珠三)

弓矢 我國の神代よりあり (理齋六ノ八)

弓取 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓弦 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓始 (松筆九ノ五〇)

弓場殿 のよみ方 (松筆七三ノ三一)

弓袋 の縫遷 (松筆七九)

弓矢 我國の種類 (安隨一〇二)

弓取 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓弦 鼠に―を驚か (松筆八ノ二八)

弓始 (松筆九ノ五〇)

弓場殿 のよみ方 (松筆七三ノ三一)

弓袋 の縫遷 (松筆七九)

弓矢 我國の種類 (安隨一〇二)

用捨箱 解題(溫知叢書第二篇ノ内)

用心 さいふ字(雲華三ノ二九)

無遠慮の者(花月八五)

老鯉の言(花月九二)

用水 水溜(鳥口(春淡下ノ一六))

用無き物 「ムヨ」無用ヲ見ヨ

用明天皇 既(安隨一八ノ三八)

踊躑 一ハコ」羽子ヲ見ヨ

慵齋叢話 の作者(采燭一ノ一五)

擁書城 近藤正孝(後言一八)

夜討 の心得(白秘三九)

癡癡 聖人の異相并異相のもの事(消閑)

容貌 取人(脩餘三ノ三九)

以 親思(松筆一ノ九)

府布 「ソヤ」租庸調ヲ見ヨ

ヨカ

夜川十五七百村 遠州松の内

與勘平音藥賣 (平日一三ノ三三)

ヨキ

夜着 (世談二九)

昔の 北の物といふ(遊遊二ノ上ノ四)

紙套(遊遊二ノ上ノ六)

草野文左衛門(片袖)

興吉か女房 といふ諺(遊遊九ノ四)

ヨク

善く 善病などいふの字(海海上ノ一)

欲情 三の不惑(安隨一ノ八)

入輪茶にのける慾を捨てよ(春波三ノ四)

酒食慾の戒(梅菴一)

欲に頂なし(欲の釣、欲の熊鷹(松筆七九)

磁石引鐵(海西二ノ二)

欲心の火 といふ佛語(松筆一八ノ二)

欲に目がくらむ といふ事(松筆九)

欲の鵬股を割く といふ事(松筆六六)

欲の釣 (松筆八一ノ二)

浴鏡 の字義(愚樓上ノ八)

ヨク

よけい 数の餘りをいふ(安隨)

よごさんせう といふ詞(遊遊九ノ四)

よこ楳 「ツチ」種ヲ見ヨ

よごる といふ詞(松筆八ノ一六)

余語氏 系圖略(鹽尻四六ノ七)

横井氏 平姓(鹽尻九ノ四六)

横井時般 「ヤイ」也ヲ見ヨ

横川宗利 (勘平)の書狀(一話二ノ一)

横須賀 遠州一城并一の三社明神(松筆一〇六ノ二五)

横田袋翁 の和歌(一話二ノ四三)

横疔 (松筆九三ノ八二)

横目 監官(隨意四ノ七)松筆九三ノ

横谷宗珉 の烟管(遊遊一〇ノ上ノ四二)

横山數馬 のうた(一話二ノ三九)

磯銀杏 話の名人(遊遊九ノ五二)

ヨサ

豫參 といふ調古今意味に相異なる事(安隨一七ノ九)

夜さり 夜心といふ(玉一ノ二)

ヨシ

よしなし 徒然草(四ノ二)

よしばみ といふ詞(松筆九二ノ二五)

蘆 大蘆(秋里下ノ二)

吉岡建法 (松筆九四ノ三)

吉川惟足 (牟打上ノ三七)

吉田 傳(鹽尻九ノ三〇)

吉田 神道の奥義を受ける事(白紳一〇ノ二)

吉野 逸事(一話一三ノ三八)

吉野 のうた(鹽尻一七ノ三)

吉野 けうた(鹽尻一七ノ三)

吉野 越前(白紳四ノ四)

吉田家 諸州の神社に合せんとする事(鹽尻九ノ三四)

吉田家 一は侍證の家なる事(白紳四ノ二三)

吉田兼俱 が日本紀の談義(玉一ノ二)

吉田兼見 より神祇道を司る事(一話二)

吉田兼從 が奥義の傳授(白紳一〇ノ二)

吉田久左衛門 (修理)陣中に鶴を飼ふ

吉田兼好 「ケン」兼好ヲ見ヨ

吉田助六 大鼓の名人(一話二)

吉田仙吉 の御答(平日一三ノ一〇)

吉田秀仲 (白紳一〇ノ一八)

吉田北渚 攝州奥田の(一話下)

吉田笏 「シヤ」笏ヲ見ヨ

吉田ノ神主 (松筆八一ノ四六)

吉田領 (白紳一〇ノ四五)

吉野 遊女(傳井蟹の毒圖説(曲淺中)

吉野 遊女の爲に發狂せるもの三人(假世)

吉野拾遺 の作者(安隨一九ノ四八)

吉野山 (折々春ノ一五)

吉野山 (折々春ノ一五)

吉野山 (折々春ノ一五)

吉野山 (折々春ノ一五)

吉野山 (折々春ノ一五)

吉野山 (折々春ノ一五)

吉野山 (折々春ノ一五)

吉野山 (折々春ノ一五)

吉野山 (折々春ノ一五)

吉野山 (折々春ノ一五)

吉野山 (折々春ノ一五)

吉野山 (折々春ノ一五)

吉野山 (折々春ノ一五)

吉野山 といふ小説(足跡一ノ三四)

吉原遊廓 異本洞房語園三卷(温知叢書)

吉原遊廓 第一編ノ内)

吉原遊廓 第二編ノ内)

吉原遊廓 第三編ノ内)

吉原遊廓 第四編ノ内)

吉原遊廓 第五編ノ内)

吉原遊廓 第六編ノ内)

吉原遊廓 第七編ノ内)

吉原遊廓 第八編ノ内)

吉原遊廓 第九編ノ内)

吉原遊廓 第十編ノ内)

吉原遊廓 第十一編ノ内)

吉原遊廓 第十二編ノ内)

吉原遊廓 第十三編ノ内)

吉原遊廓 第十四編ノ内)

吉原遊廓 第十五編ノ内)

吉原遊廓 第十六編ノ内)

吉原遊廓 第十七編ノ内)

吉原遊廓 第十八編ノ内)

吉原遊廓 第十九編ノ内)

吉原遊廓 第二十編ノ内)

吉原遊廓 第二十一編ノ内)

吉原遊廓 第二十二編ノ内)

吉原遊廓 第二十三編ノ内)

吉原遊廓 第二十四編ノ内)

吉原遊廓 第二十五編ノ内)

吉原遊廓 第二十六編ノ内)

**吉原細見** 延享三年寅——序文(半口一ノ七)

**吉原雑話** 解題(温知叢書第十二編ノ内)

**吉原雀** さいふ詞(白神三ノ二一)

**吉原千人斬** 佐野次郎左衛門と八橋(江著八四)

**吉益東洞** の傳(如蘭三五ノ二七)

**吉見氏** 系譜(支那三ノ下ノ二九)

**吉見幸和** (泰軒)略傳(臨尻三〇ノ二〇)  
風水散人(安隨七ノ一七)

**吉村又右衛門** (雨窓三〇)(白樺一九ノ一五)

**芳澤あやめ** (春水)事(江著六〇)

**義經記** の時代(南留一ノ二七)

**義經堂** 平泉醫王山毛越寺——棟札寫(一話三三ノ二七)

**餘章王** は扶餘章なるの考(乘畑一ノ一)

**餘崧** の畫(一話二三ノ一四)

**豫讓** ——論(談小四ノ三八)

**與次郎人形** 嬉遊六ノ下ノ四四

**ヨス**

**よすが** さいふ詞(松筆八ノ二〇)

**よすめ** かいちてあちつく さいふ詞(松筆八ノ二〇)

**四角四堺祭** (玉ツ二ノ五)

**ヨセ**

**寄掛** は隠装なり(梅日五ノ二一、二四)

**寄席** (嬉遊九ノ五二)

**寄場** 鬼政頭の一(寛天八)  
「ニン」入足——ヲ見ヨ

**ヨタ**

**よたけく** さいふ詞(松筆二一八ノ三九)

**依田信蕃** ——系圖(談小二ノ四七)

**夜鷹** さいふ鳥(傍廟六七)

**夜鷹** 「イウ」遊女ヲ見ヨ

**與齋** の字義(安隨一ノ五五)

**涎かけ** (藝苑一ノ三九)

**ヨチ**

**餘地** 物事——の大切なる事(花月五一)

**ヨツ**

**四ツ堂** 讃州小豆島——(雲錦一ノ二七)

**四ツ竹** (嬉遊六ノ上ノ二三)(柳筆上ノ二)

**四ツの緒** 「ヒ」琵琶ヲ見ヨ

**四ツ目屋** 兩國——(都手七)

**四ツ物** (蒼梧三ノ一四)

**四ツ谷** ——新屋敷(瀬田一六)

**世織物語** 辨(半日五ノ五)  
と花物語(二)上四七  
(安隨九ノ三四)  
の作者(臨尻二ノ二三)年打下ノ二八  
といふ語(松筆八五ノ三)

**ヨト**

**淀川** 尾藤三州下——詩(半日五ノ七)

**淀君** 高台寺政所湖月尼公の事(臨尻八ノ四)

**淀殿草** といふ植物(一話二ノ二五)

**淀の水車** (安埃五ノ五)(春波二ノ一)半日三ノ一四)

**淀舟** のつきつけ賣付うろ／舟(嬉遊七ノ一〇)

**淀屋三郎右衛門** 關所道具(一話三七ノ四〇)

**ヨナ**

**夜長のお膳** (松筆三八ノ四)

**夜啼** の児(臨尻四五ノ二)

**夜なべ** (閑歌四ノ一五)(嬉遊二ノ上ノ四ノ三二)(拾玉四ノ二六)  
の字義(燕石四ノ六)

**ヨビ**

**よにあふ坂の開はゆるさじ** (松筆五ノ一五)

**世にあるもの** 又世になきもの(松筆九二ノ三三)

**ヨネ**

**米** ミヨメ(圓珠一九)

**米倉昌尹** 武州金澤藩祖——は佐渡にて生れしといふ説(如蘭一七ノ二〇)

**米蝶** 深川藝妓——(武俗二三ノ八)

**米饅頭** (嬉遊一〇ノ上ノ三四)(世談三ノ一)

**散米** 金龍山——の名義(用拾上ノ二四)(曾遊上ノ一六)

**ヨノ**

**よの子** 歌井木曾路の記の話(松話二六)

**世間** 世の變遷(假世二六)(くせ一九)臨尻八ノ三八)

後のうばさ(花月九)

世事得失悉く天に出てす(餘餘一ノ二三)

世を渡りよるに見よ(居龍一七)

「ウキ」浮世「ヨソ」世渡リヲ見ヨ

世の中をわたりくらし(といふ事六ノ二三)

**ヨソ**

**よはしり草** 草鳥頭(南留二ノ一六)

**夜半** さいふ詞(松筆一三ノ一二)

**夜這** といふ俗語(臨三ノ二四)(松筆九四ノ四九)

**夜這星** (嬉遊六ノ下ノ二九)

**ヨヒ**

**宵** 「ヨ」よる「ヨ」昔同じ(圓珠一〇)

**ヨフ**

**嘆子鳥** ——考(楓樹上ノ四)(南留三ノ五)(松筆三ノ二九)

**ヨマ**

**夜ませ目ませ** といふ俗語(幽遊上ノ三九)

**ヨミ**

**よみかへる** 蘇生を——といふ(隨三九)

**よみづと** の解(安隨八ノ二九)(安夜五ノ一〇)

**讀合、古物合** 「イセ」伊勢神宮ヲ見ヨ

**讀賣** 付辻賣給草子(嬉遊一ノ九)

の取締(一話四ノ三六、三七)

**讀方** よみくせ(二)上四二(傍海下ノ四)

**湯桶頭**(安隨一四ノ二)(冥燈一ノ三一)

**帝城井公卿姓氏**の——(安隨一ノ三五)

**世短意多** (松筆八ノ三五)

**黄泉穴** 出雲國——(玉ツ一〇ノ二五)

**黄泉園** 人死して——(行くといふ事伊非諾尊入——)(安隨一ノ三二)安夜一ノ一九)

**夜店** 「ホシ」露店ヲ見ヨ

**ヨメ**

**婿** といふ語(隣女二ノ八)

**嫁の語の拾所**(理齋一ノ八)

**嫁か君** 「ヨメ」風ヲ見ヨ

**ヨモ**

**よもや** といふ俗語の字(安隨八ノ二八)

**四方** の字訓(安隨九ノ七)(二上二〇)

**四方観** と命題せし理由(四方雲一)

**四方山** といふ詞の義(松話三ノ三四)

(玉ツ九ノ三八)年々五ノ一九

の物語(三卷二ノ二三)(松筆九五ノ九)

**與皇都** 伊勢——(柳筆下ノ二)

**蓬草** は「ヨモキ」にあらず(臨尻一ノ三三)

(松筆六四ノ三四)

蓬か袖さい 蓬か袖さい 蓬か袖さい (松語四)

蓬田 下田の地名 (一話二二ノ四五)

夜もすから といふ詞 (北邊三ノ三三)

**ヨ**

よむ といふ詞 (隣女二ノ五)

**ヨリ**

より 東より等の「一」の字 (安隨三ノ四七)

より 山從の二五五に用ふる事 (談小二ノ四八)

より 漢文自字の便方 (談小三ノ九)

より といふ詞 (松筆一五ノ二八)

寄合 といふ詞 (松筆一五ノ二八)

頼朝橋 の饅 (如蘭三ノ一〇)

神子 (松筆一五ノ一)

**ヨル**

山 因るといふ詞 (談小四ノ四五)

夜 「よ」なる「よ」皆同し (圓珠一〇)

夜の衣 をかえしていふ事 (居龍五〇)

夜の錦 の故事 (松筆一四ノ四)

**ヨロ**

雷鼓 (松筆六三ノ三八)

雷獸 (錦厨一三) (支同一ノ上ノ二八)

落雷と (居龍一五)

雷神 雷公連鼓を負ふ圖 (三養四ノ一九)

雷挺 三河龍興寺什物 (一話二二)

雷鳥 (錦厨一三) (支同七ノ二五)

越山鶴 (松筆八六ノ四七)

雷洞 (松筆三七ノ七)

雷斧 (松筆六三ノ一一)

雷文 (松筆一〇六ノ五九)

雷除け 解毒丸 (内安一四)

降眞香 (南留二ノ二七)

頼山陽 左藤一齋批 (支同二ノ二四)

頼山陽 佐藤一齋批 (支同二ノ二四)

頼山陽 佐藤一齋批 (支同二ノ二四)

頼山陽 佐藤一齋批 (支同二ノ二四)

頼山陽 佐藤一齋批 (支同二ノ二四)

頼山陽 佐藤一齋批 (支同二ノ二四)

頼山陽 佐藤一齋批 (支同二ノ二四)

養綾 小一の職 (松筆七八ノ二五)

喜「キ」三喜怒ヲ見ヨ

弱法師 謡曲 (一) (隨虎三三ノ一〇)

鑑「カツ」甲胃ヲ見ヨ

鑑 毎年一七一に連歌のいわね (隨虎三八)

鑑毛 鳥の「(松筆七六ノ一)

鑑通 「タツ」刀劍ヲ見ヨ

鑑直垂 (安隨二ノ二一、一五ノ二八)

「九」は水干なるべき考 (白筆下ノ七)

「スイ」水干ヲモ見ヨ

**ヨロ**

世渡り 處世の道 (一話一ノ三六)

「生」五分松筆八七ノ二 (不問七)

「ヨ」世間ヲモ見ヨ

**ヨシ**

よんべ 昨夜を「い」いふ (隨邊上ノ八)

據なく といふ詞 (松筆九七ノ四二)

ラ

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

朗詠集 重相公任自筆の「(四方雪

らしい紙 (居龍四〇)

らしいやう藤 (南留一ノ二二)

らしいしよ 和州郡山の「ヨミ」ヲモ見ヨ

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

雷 一説 (隨邊下ノ二〇) (隨意一ノ二二)

**老物** さいふ詞(隨意六ノ二〇)  
**廊下** めだう(嬉遊一ノ上ノ一八)  
**勞咳** さいふ字の出處(鹽尻一三ノ七)  
**勞働者** 耕牛無宿食(論餘一ノ五)  
**勞力** 四民の一と所得(柳菴三ノ一)  
**琅玕** (嶺南八)  
**牢獄** 水獄(善菴一ノ二一) 松筆五三ノ四  
 土牢(松筆九四ノ五二)  
 元禄十六年 燒失并假移轉(一話二六ノ三七)  
**牢溜** (柳記上ノ一八)  
**弄齋節** 「ゴウ」不唄ヲモ見ヨ  
**郎當** の義(梅日五ノ七)  
**浪人** の字(松筆四六ノ六) 松筆一三ノ一  
 一人(安隨三ノ二〇)  
 軍用金を抱て餓死す(安隨一七ノ五七)  
**狼藉** を訪ふ時の心得(自秘三五)  
 の字義(松筆九一ノ一九)  
**狼狽** といふ詞(隨意七ノ五)(同八ノ二)  
**ラカ**  
**ラカルタ** さいふ歌(二管一ノ二〇)  
**羅漢** 一像(桂林上ノ四)  
 十八一話二二ノ四一(奴風九)

**明兆祭** 一文(如闇一ノ二二)  
**羅漢寺** 明前迹田村(提醒一ノ一)  
 同寺の五百羅漢(鹽尻五五ノ四)  
 の掛札及碑(一話二ノ三二)  
**羅漢樹** 高野嶺と一と異り(白筆上ノ五四)  
**羅漢泉** (鹽尻五三ノ六)  
**羅漢洞** 豐前國(嶺南二八)(東原上ノ二一)  
**ラマ**  
**落** の字義(一話八ノ二七)  
 毛詩を始と訓する説(隨意六ノ三二)  
**落書** (孝經四ノ二六) 玉(八ノ四四)(松筆六九ノ三)  
 の説文(嬉遊附ノ七)  
 神社佛閣の「ラマ」らうらうら(嬉遊七ノ一六)  
**落雁** といふ菓子(嬉遊一ノ上ノ三八)  
 といふ文字(鹽尻一〇ノ一八)  
**落花生** (世談五九)  
**落語** 「オ」落語ヲ見ヨ  
**落斜** の字義 如闇三五ノ三三)  
 は異噴なり(桂林上ノ一四)  
 町々入用減方に付(半日四ノ二九)  
 安永元年に付(半日二ノ二九)  
 安永二年の(半日二ノ三九)  
 島居坂出火の(鹽塚四四)

**羅谷** 初比奈氏出火の(半日一ノ三三)  
**落成** といふ語(松筆八一ノ四五)  
**落磯** の解(安隨四ノ八)  
**駱駝不屬** といふ語(談小一ノ二九)  
 の川(一話二〇ノ四五)  
 の故事(山王靈聖の事)(免小上ノ八六)  
**駱駝主** の文才(論餘一ノ二二)  
**樂燒** 御宿慶(嬉遊三ノ下ノ二六)(世談七一)(談正三三)  
 といふ師(筆上ノ一三)  
**ラコク** 奇南香の(考嬉遊附ノ一三)  
**羅喉星** の像(孝經一ノ一七)  
**羅侯羅** 羅迦の子(鹽尻二ノ二〇)  
**ラン**  
**羅紗** (長陽四三)  
**羅城門** (及埃七ノ八)(乘燭五ノ一三)  
 の若跡(理齋四ノ一三)  
 綱の禁札(一話二ノ三〇)(免小中ノ七四)  
**ラセ**  
**羅切** といふ語(松筆六〇ノ九)

**ラチ**  
**塚か明く** といふ詞(一話二ノ二七)  
 八(居龍四七)(鹽尻四七ノ一)  
**羅仲素** 宋一の學(隨意四ノ八)  
**ラツ**  
 らつひらんくわい さいふ詞(嬉遊九ノ四〇)  
**亂波** 盜賊を(さいふ)(嬉遊四ノ八)  
**ラテ**  
**螺鈿** (嬉遊二ノ下ノ二九)(鹽尻二ノ二二)  
 (安隨六ノ三二)(七ノ二七、八ノ三三)  
 「メヒ」羅活ヲモ見ヨ  
**ラフ**  
**蠟** 僧家に用ふるの字(長陽一六四)  
**蠟樹** (楳丘一七)  
**蠟燭** (安隨一四ノ六、一九ノ九)(松筆一六ノ六)  
 (談小四ノ一三)  
 蜀黍心の「米かけの」(嬉遊一〇ノ下ノ三)  
 仰願寺(世談七九)(談正六二)(八水一〇)  
 會津(松筆一五ノ二二)  
 懷中(嬉遊一〇ノ下ノ四)  
 の始(翁草五ノ三)  
 を知らざる田舎(鹽塚九七)  
 の尻を吹く理由(橋菴初ノ五ノ五)

**蘭** 蘭殿を櫻にせず(提醒二ノ三)  
 水詩(松筆九八ノ一)  
 「トモ」烟火ヲモ見ヨ  
**臘梅** (鹽尻一七ノ七)(世談五三)  
**臘八粥** 「カニ粥ヲ見ヨ  
**臘風** さいふ戲(蕪樓下ノ一六)  
**ラホ**  
**羅木** 癸辛雜識に記せる(談小一ノ三六)  
**ラマ**  
**喇嘛** (嬉遊六ノ下ノ四一)  
**蘭** ふちばか、文りに(圓珠六)  
 といふちばかまの別(居龍一九)  
 とありき(松筆六一ノ二二)  
 伊賀國の寒(一話一ノ二七)  
 花讀(銀層四〇)(一話二ノ二九)  
**蘭亭帖** おらんだといふ國の學び(玉が七ノ一二)  
**蘭亭** の義(蕪樓下ノ一三)  
**蘭若** (及埃八ノ三)(半馬九四)(鹽尻八ノ三三)  
**蘭香待** 「カ」香ヲモ見ヨ  
**蘭亭帖** の故事(論餘二ノ三七)

**欄架** (橋菴二ノ一ノ五)  
**爛柯** の故事(善菴一ノ二二)  
**亂曲** のよみ方(一話八ノ二六)  
 一の事(又曲舞の事)(南留五ノ一三)  
 「フカ」舞樂ヲモ見ヨ  
**亂聲振舞** 「エン」振舞ヲ見ヨ  
**亂世** 世の亂る(基)(多波上ノ一)(同上ノ二六)  
 の寶(多波中ノ一)  
 鹽鐵論(白紳三ノ一三)  
 「アシ」足利時代ヲモ見ヨ  
**亂暴** 宮樣御門跡あはれもの(半日一五ノ町入徒黨の事(半日一五ノ一四)  
 高田の臣暴人を懲したる話(急す一七六)  
 後漢書桓帝紀中(考)蕪樓上ノ五)  
**覽箱** (安隨一ノ一七、一七ノ二二)(白紳四ノ一九)  
 (松筆一一五ノ四九)  
**藍尾** の字義(梅日三ノ三七)  
**リ**  
**里** の字(白筆上ノ八、一一、一三)  
 町里(乘燭二ノ一〇)  
 條(松筆一〇五ノ六三)  
 一程(茶筆一ノ一六)(談小三ノ四九)  
 (長陽六四)  
 一の町敷(梅日四ノ二三)(孝經二ノ六)  
 (玉が二ノ三八)(松筆一六ノ三三)  
 朝鮮用本邦の敷(松筆四ノ一八)

履 「トリ」度量衡ヲモ見ヨ  
は履なり(隨志七ノ三四)

●リウ

りう ありやりやんりや等の——といふ俗  
語(遊六ノ下ノ七)

龍 の説(隨虎一七ノ三)

求(説)(一話四ノ五)

白(白(隨志五ノ二〇))

解(と(松筆七ノ四四))

の爪の(松筆六ノ二二三)

骨(長陽一六一)(提解三ノ六)(松筆  
五〇ノ一八)

遠州頭陀寺の——竹付天龍川の名(隨虎二  
ノ一八)

氷の山奥にすめる(閑次四ノ五)

「昇天の」(宮川五ノ一三)

現(昇天) (松筆三ノ一六)

器物の彫刻に用(筆五ノ一七)

龍雲禪師 のい(松筆三ノ四三)

龍穩寺 武州生越(松筆九八ノ三三)

龍岳和尚 (望海四七)

龍顔 ——の(隨虎一ノ二二)

龍眼樹 と(松筆二ノ二六)

龍龜手鑑 に朝鮮版あり(白筆上ノ六二)

龍宮 (安隨七ノ二三)

海神宮(比古六ノ五二)

火々出見尊の行考(屠龍九五)

龍宮大鼓 (松筆八〇ノ九)

龍華 (松筆八一ノ二六)

龍華寺 駿州(支同ノ下ノ一〇、  
二四)

龍興寺 小石川——什物(二話三九ノ  
一八)

龍造寺 の姓(白紳一〇ノ一七)

龍作 「ナ」納言ヲ見ヨ

龍珠館 「クハ」桑山修理ヲ見ヨ

龍鐘 の解(隨虎四四ノ一九)

龍脣 孟浩然詩中——(雲樓上ノ一五)

龍石 の妖(折々夏ノ一四)

龍尊 天龍寺の僧——と木村主馬か名歌ヲ  
みける話(松話二四)

龍頭 「カ」鐘ヲ見ヨ

龍頭太 (難江二ノ八六)

龍潭寺 遠州伊佐郡非伊谷萬松山  
(隨虎三六ノ一七)

龍燈 (松筆七八ノ六、九五ノ一〇)

龍吐水 翻車、龍骨車、湯島(松筆一一五ノ  
四)

龍尾道 (松筆八五ノ四)

龍鬚 「タ」、鱗ヲ見ヨ

龍伏 柱の——「カ」家屋ヲ見ヨ

龍紋 (白筆上ノ六〇)

龍門登魚 (松筆六七ノ四九)

劉友益 (廣餘一ノ二八)

劉禹錫 白樂天——唱和の事(茶筆四ノ  
一五)

柳營 の出處(山下八)

柳雅 の傳(溫知叢書第十編江戸箱根元記  
解題ノ内)

柳絮 柳花——との別(隨志五ノ二二)

柳亭種彦 小傳(溫知叢書第二編用捨箱  
解題ノ内)

柳春和尚 淺草橋場總持寺——頓話  
(武俗五)

流行 時の——(雲澤三ノ二六)

流行病 「ユキ」疫病ヲ見ヨ

流黃 といふ色(撈海下ノ二〇)

流官 ——付流内流外(難未四ノ六)

流刑 「カ」加役流ヲ見ヨ

流月流頭日 (桂林上ノ五)

流言 もろこの國の王商といひし人のい  
る言(玉一ノ三三)

流蘇 の解(撈海下ノ二〇)

流入 の義(理齋五ノ二五)

流匪 の義(眠雲二ノ一七)

琉球 (二話一八ノ三)(松筆六六ノ五八)

ウルマ島は——なる説(ウルマ島ヲ  
見ヨ)

事(一話六ノ一五)

の地形(風俗等)(白筆下ノ三四)

風俗(牙窓上ノ三五)

島津家久(松筆一〇六ノ五〇)

賜(中山王使に付薩州銅貨請の事)(一話  
一九ノ三)

より薩摩(買米の高)(隨虎四ノ二)

島島(綴見三)

の寶物(重金丸)(安隨二ノ一九)

の官名に付(白筆下ノ三五)

の音(玉一ノ一七)

の音(玉一ノ一七)

うた(井唐曲)(一話九ノ九)

琉球人 の(隨虎一〇ノ三)

宜野濤王子(詩)(一話九ノ二〇)

獻上(硯屏詩外二首)(一話九ノ二〇)

演松に於ける——(燕氏の(隨虎四三  
ノ九))

琉球征伐 島津貴久記抄(平日六ノ七)

琉球來聘 の(長一三)

復琉球(國字返簡)(長陽二)

中山王(琉球人來朝書類)(一話九ノ四)

琉球人(登城の節の書付)(同しく道筋)(  
正徳四年)

天和二年 (隨虎三二ノ二六)

(隨虎三二ノ二六)

寛政三年——姓名(一話九ノ一三)

寛政八年同(上)(一話九ノ一三)

觀中山國聘使入觀歌并序(一話二〇ノ一)

琉球王 の世系(隨虎三二ノ二六)

琉球王子 祭——文(隨虎一〇ノ三  
六)

隆光 護持院——碑(一話一五ノ三)

隆志 俳人(錦花翁——橋樁初ノ三ノ八)

隆達 (隨虎一ノ二)

隆達節 ——、なげ節(遊遊六ノ上ノ一  
足新三ノ四五)(北葉下ノ四)(三養二  
ノ二)

立鼓 ——、ちぎり、就轉提(瓦礫三ノ八)

輪鼓(音葉下後ノ二四)(松筆一〇六ノ二)

李于鱗 の詩選(二話四一ノ一)

●リエ

俚語 あるさとびつた(玉ハ八ノ三八)

「はやり」たの(後書一〇)

戸隠開帳及五百羅漢建立の時——(一  
話三四ノ三九)

「トウ」童謡ヲ見ヨ

小得而大喪(調淺五)

利無 無敵得——者(松筆八九ノ七八)

離縁 の古律(隨虎一四ノ二二)

七去(如蘭九ノ一八)

龍門登魚 (松筆六七ノ四九)

劉友益 (廣餘一ノ二八)

劉禹錫 白樂天——唱和の事(茶筆四ノ  
一五)

柳營 の出處(山下八)

柳雅 の傳(溫知叢書第十編江戸箱根元記  
解題ノ内)

柳絮 柳花——との別(隨志五ノ二二)

柳亭種彦 小傳(溫知叢書第二編用捨箱  
解題ノ内)

柳春和尚 淺草橋場總持寺——頓話  
(武俗五)

流行 時の——(雲澤三ノ二六)

流行病 「ユキ」疫病ヲ見ヨ

流黃 といふ色(撈海下ノ二〇)

流官 ——付流内流外(難未四ノ六)

流刑 「カ」加役流ヲ見ヨ

流月流頭日 (桂林上ノ五)

流言 もろこの國の王商といひし人のい  
る言(玉一ノ三三)

流蘇 の解(撈海下ノ二〇)

流入 の義(理齋五ノ二五)

流匪 の義(眠雲二ノ一七)

琉球 (二話一八ノ三)(松筆六六ノ五八)

棄妻七出の狀(安隨四ノ五〇)

離縁狀 清人の休書(一話九ノ三四)

●リカ

利害 (花月八五)

「一利一害(餘餘五ノ一四)

「リ」利益ヲ見ヨ(隨志二ノ一〇)

李嘉雄 の詩句水田飛白鶴云々に付(乘烟  
三ノ一八)

李香 南京名妓——(一話三五ノ二五)

李綱 欣慕——(隨志一ノ四〇)

理學 少しは——を心掛け(病問四六)

見聞の理(隨志一ノ一)

●リキ

りきみ といふ俗語(松筆六七ノ六)

理氣 林用の説を駁す(驗羅仁ノ二八)

利器 ——不可假入(松筆九〇ノ二四)

離宮 といふ名稱(松筆六三ノ二七)

力士 「スマ」相撲ヲ見ヨ

力士儼 (遊遊五ノ八)

力者 (遊遊二ノ下ノ九)

力田 (松筆九二ノ七二)

力量 「タイ天力ヲ見ヨ」 鯉魚風 (葦樓下ノ二)	●リク 六書 一説(雜末三ノ五) 六朝 (乘燭五ノ二〇) 六典 六代の解(白筆下ノ二〇) の珍木(一話四ノ一七) といふ書(松筆一〇五ノ二七) 六微 の解(葦樓下ノ二四) 六部八省 (東屋下ノ三) 理窟 (花月三〇)	●リケ 李矯雜詠 といふ書(難江二ノ二四) 俚言抄 「テリ」註釋本ヲ見ヨ ●リコ 離魂病 影の病(與波五五)(餘一ノ二) ●リス 李闔 の音刺(乘燭五ノ一六) 離騷 の秘事(駿臺信ノ五) 里倉 (松筆六ノ一六)	●リシ 利子 利息子母錢(橋本二ノ一三) 利を子といふ(屠龍三二)	●リセ 理説 説神代用——「シン」神代ヲ見ヨ ●リタ 李唐 國姓の人間號を以て名とす(東屋上ノ二)	●リテ 律義 薩摩野郎の事(雨窓三八)	●リツ 李竹隱 宋——(松筆一〇四ノ三六)	律宗 の僧手つから草木を折らす(鹽尻八ノ二) 律呂新書 の誤字(鹽小三ノ一五、一六) 律令 (松筆一九ノ一三) 古——(安隨六ノ一六、七ノ三八) 本邦の——は唐の開元令を本とせし事(安隨一八ノ四三) 格式(海西三ノ六) 大寶令前に令書あり(安隨六ノ二五) 天武十年定「法式」(安隨二ノ二二) 「ハツ」法律ヲ見ヨ	栗原寺 の靈柩の記文并四塚の記(擁書一ノ二三) 立樂 「リカ」舞樂ヲ見ヨ 立秋 の詩(鹽尻四九ノ二五) 立春 攝政大臣の——の和歌の評(鹽尻五ノ四) 立春大吉 禪寺の門札——(我衣一ノ一八)	李白 得仙(隨意四ノ二三) の人物(餘餘三ノ三〇) 之阿諛(隨意三ノ一六) の碑(一話二五ノ八) の生地 東山——といふ理由(餘餘四ノ一一) 李攀龍 李風塵(餘餘二ノ三九)
-----------------------------	--	---	---	--	------------------------	--------------------------	---	---	---

理髮 といふ詞(雜末四ノ一〇)	●リヒ 病病 の熱毒を去る法(葦樓三ノ一四) 「ケリ」下病ヲ見ヨ	●リフ 吏部 と李部(安隨一〇ノ一八)(二上七五) 李部王記 といふ書名(玉か四ノ二二) 李夫人 一入夢(鹽尻二ノ一七、三ノ二) 立券之 (松筆一〇五ノ五九)	●リヘ 離別 の字義(松筆五二ノ一七)	●リム 李夢陽 逸事(餘餘二ノ三八)	●リヌ 利瑪竇 (松筆九ノ三三) 請道還 疏(一話四〇ノ二三)	●リヤ りやらめき といふ詞(松筆一六ノ一八) 諒闇 (松筆六二ノ五三)	諒闇服 (松筆九〇ノ三七) 景移 の解(撈海下ノ二二) 景目 京目(松筆六五ノ二二) 支那古代の——(鹽尻三八ノ一九) 「トリ」度量衡ヲ見ヨ	梁惠公 問政(眼雲二ノ一九) 梁武帝 杜衡數——句(東屋下ノ一〇) 梁牟 の解(安隨四ノ五二) 梁父吟 義并當梁の事(梅日二ノ二) (眼雲一ノ二六)	良友 僧——か強記(閑耕二ノ四) 良雲院 家康の妾——か事(一話二ノ四)	良純親王 八の宮——(長春上ノ一〇〇)	眞還法師 (雜末六ノ九) 「菴」及「こ」しもまたで初音聞つる」 ノ歌(梅日二ノ九) 「うた」(春添上ノ一四)	兩替店 の見世先の格子の事(急迫四) 昔の——(鹽小六八) 享保七年兩替商の數(一話四〇ノ三七)	兩眼 (松筆八五ノ五一)	兩國棍之助 力士——(奇跡三二)	兩國橋 の架設(一話三二ノ三六) 掛直る(我衣三〇) 落成渡初め(半日一ノ二) 時の景況(羅手三)(紫ゆ一八) 向の築出(一話四四ノ三七)	兩御番士 か召仕の著黨(鹽塚二九) 兩段再拜 「ハイ」拜禮ヲ見ヨ 兩兵庫 (一話四ノ三九) 兩部神道 「シン」神道ヲ見ヨ 兩部唯一 「シン」神社ヲ見ヨ 領家 (松筆九七ノ三五) 領狀をかる (松筆六七ノ二三) 領主 (松筆九七ノ五一)	領地 諸侯の——(鹽小二ノ二二) 女の采地(松筆四ノ二四) 糧食 買飯爲糧(長陽三九) 令 大寶以前の——(安隨二ノ二二) の卷數(安隨二ノ二三)	令義解 及令集解、三代格政事要略鉄木考 の朱書(松筆八六ノ五六) 靈鷲山 (松筆八〇ノ三九)	略 地 入等いふ(鹽小三ノ一五)	●リヨ 凌雲院 上野——の燒失(半日一三ノ三) 凌遲 といふ刑(乘燭五ノ二〇) 楞嚴經 (餘餘三ノ二二) 陵王舞 の手の名(玉か三ノ三二) 「リカ」舞樂ヲ見ヨ
-----------------	--	---	------------------------	-----------------------	---------------------------------------	--	--	--	---	---------------------	---	--	--------------	------------------	---	--	---	--	------------------	--



**旅行** 道行馬駕を替ふる事(世談一六五)  
 遊七ノ(影膳、鹿島立、阪迎、ぬき袋、旅籠、嬉)  
 旅のつれ(嬉遊七ノ三)  
 旅の樂(陰餘五ノ三四)  
 旅のあはれなるこそよけれ(不問一八)  
 中いるのの目にあひし事(笑埃一ノ九)  
 以前門出(暗語上ノ一四)  
 客情の詩(鹽尻三九ノ三七)(同九ノ五)  
 旅籠をよめるうた(鹽尻四七ノ四)  
 「カン」鹿島立「サカ」阪向ヲモ見ヨ  
**旅宿問答** といふ書(安隨二ノ九)  
**旅店** 「ヤト」旅宿ヲ見ヨ  
**利慾** 上下利を争ふへからず(雲華二ノ二六)  
 利に耽る(からざる話(雲華二八)  
 の俗情(隨意六ノ三六)  
 守義之水(射利之火(松筆六ノ二)  
 「メイ」名利ヲモ見ヨ  
**緑竹** 倚々の義(技藝一ノ一八)  
**緑林** 「タツ」盜賊ヲ見ヨ  
**呂后** 千夫の相(鹽尻三ノ八二)  
**呂子義** の性行(見陽一三〇)  
**呂氏春秋** (隨意七ノ二)  
**リリ**  
**李笠翁** の詩聯(一話二ノ一一)  
**驪龍珠** 「サク」鮮答ヲ見ヨ  
**リワ**

**理惑論** 後漢牟融の(隨意二ノ二)  
**リン**  
**鱗** 角(安隨一〇ノ五)(二上五七)  
 角を祭りし社(笑埃八ノ二三)  
**霖雨集** 抄録(一話二ノ四三)  
**林歌** 高麗部曲の内(典苑四ノ一七)  
**林檎** 考(白雜考五)(白遺考五)  
 林檎をつくる戯(嬉遊二ノ四二)  
**林雪** さいふ調子(松筆九ノ三四)  
**林和靖** の僂伴(隨意七ノ二八)  
 林氏印(桂林下ノ二五)  
 林の草(陰餘四ノ一五)  
**鄰交提醒** といふ書并其技書(一話二ノ四)  
**隣松** 喬工(一話小四八、七〇)  
**沙果** 考(白雜考五)(白遺考五)  
**輪囷** といふ詞(鹽尻四ノ五四)  
**輪子** 宗尊親王女(の悲敬(隨意三ノ二八))  
**輪油堂** 「ヤシ」屋代弘賢ヲ見ヨ  
**輪鉢** ば神紋なり(安隨六ノ八)(二上五二)  
 一名羯摩金剛(安隨一〇ノ一)  
**燐火** 火を避くる法(鹽尻一八ノ二)  
**繪言、繪旨** さいふ詞(隨意五ノ三八)  
**倫子** 従一位の長壽(支同三ノ中ノ七)

**倫理** 「シン」人倫ヲ見ヨ  
**臨寫** と摹寫との相違(閑次三ノ四)  
 「トツ」勝寫ヲモ見ヨ  
**吝嗇** 吝嗇(鹽尻三七ノ一七)  
 と儉約の辨(梅叢六〇)  
 驕奢は大患なり(醜陋下ノ四)  
 なる者の言(花月七二)  
 なる僧の語(慈道九)  
 「サイ」財貨「セツ」節儉ヲモ見ヨ  
**痲病** 治(一話三ノ二三)  
 「セキ」石痲ヲモ見ヨ  
**ル**  
**ルイ**  
 誅 さいふ事(松筆二ノ一〇六)  
 類 の字紛はしき事(くせ三八)  
**類葉抄** の詞部(閑次二ノ四三)  
**類字函** の銘(松筆三ノ一)  
**類聚國史** 考(安隨一〇ノ二)  
 (附餘五ノ二四)  
 并其目錄に付て(白筆下ノ三一、  
 三二、三四、三七、三九、四〇、四四、四  
 五、四六、五〇、五三)  
 を水戸にて寫す事(白紳九ノ二  
 一)  
 按書(安隨一九ノ一六)  
**類聚雜要抄** の作者(安隨二〇ノ四四)

**類聚名義抄** の古抄本(遊京下ノ一八)  
 といふ書(雜末一ノ一六)  
**類聚名物考** (擁書一ノ一五)  
**類書** の沿革(雜末四ノ九)  
**類別** に種々あり(閑次三ノ二九)  
**累代** といふ語(松筆七ノ三四)  
**ルサ**  
**流罪** 延喜式に見えたるのの種類(鹽尻  
 一ノ一四)  
**ルス**  
**留守** といふ語(松筆七三ノ二八、七七ノ  
 三六)  
**留守退藏** (閑散下ノ三六)  
**留守居** 諸侯の虚刑(平日八ノ二六)  
**留守居組頭** (一話二五ノ三〇)  
**留守所** (松筆八九ノ一九)  
**呂宋國** より送りたる書簡(一話五ノ五)  
 關文左衛門の王となる(慈道四〇)  
**ルニ**  
**流入** 禮所の月(笑埃二ノ二二)  
**ルリ**  
**瑠璃** (見陽六七)(鹽尻一八ノ二)(居龍五  
 二)(白雜考四)(白遺考八)(松筆

**ルイ**  
 九〇ノ四〇)  
**ルイ**  
 復(眼雲一ノ一八)  
 萬事の基(醜陋下ノ四)  
 の古今(四方花ノ九)  
 時宜を知るは即心知る(閑耕四ノ二)  
 非も必要なり(病問四一)  
 非も主人の意に従へば却て(松  
 筆九ノ八)  
 讀と論(鹽尻二八ノ一五)  
**禮運** の二章に付て(談小三ノ四二)  
**禮をする** 又禮を申すといふ事(松筆七  
 八ノ七五、八六、四六)  
**禮儀** の要(安隨一七ノ四八)  
 親明の制(白小三一)  
 親明往來の禮(鹽尻三七ノ四三)  
 古天下の朝廷にのみあり(白紳三ノ  
 六)  
 我邦に冠婚喪祭の禮なし(前留一ノ一四)  
 (附餘五)  
 部(神官等)の(閑次一九)  
 唐法による(き詔書の事(玉か一三ノ三  
 七))  
 推古定禮容(安隨二ノ二二)  
 和漢官儀の相違(鹽尻三ノ三九)  
 百寮進止威儀之(安隨二ノ三三)  
 延喜式の拜禮(安隨一九ノ四)  
 答拜(安隨一九ノ四)  
 答拜(安隨一九ノ四)  
 攝(安隨一九ノ一八)

**禮儀類典** 編纂始末(年打下ノ二)  
**靈岩寺** 師弟の訴訟(我衣二九)  
**靈岩島** の埋立(我衣一一)  
**靈岩洞** 肥後國(一話四〇ノ二二)  
**靈鬼** ば我心より生ず(鹽尻二五ノ八)  
 物怪を先靈の祟に寄する事を戒めし遺勅  
 (鹽尻三七ノ三〇)  
 怨靈説(松筆一〇ノ三〇)  
 生靈(松筆九六ノ四)  
 物怪(安隨八ノ二三)(安夜四ノ三三)  
 弱の妖怪(鹽尻四〇ノ一、五二ノ二二)  
 延喜以後所祭の御靈と今宮御靈(鹽尻四  
 六ノ二九)  
 欺散(安隨一七ノ五八)  
 「ダ、愚」カッ怪異ヲモ見ヨ  
**靈空** といふ僧二人あり(見小中ノ二七六)  
**靈會日鑑** といふ書(一話三ノ七)  
**靈驗** 神佛の(笑埃五ノ二五)(答問一  
 九)  
**靈元上皇** 能く下情に通し給ふ(筆下中  
 太上皇御落飾御詔書(鹽尻四五ノ八)  
**靈源禪師** の寂(鹽尻四四ノ二二)  
**靈魂** (鹽尻六ノ二六)



蓮社 一の號(松筆八六ノ二九)

蓮生寺 武州多磨郡(一)一、享祿四年  
蓮生法師 「クマ」飛谷直實ヲ見ヨ

蓮池 野亭小像記(白紳三ノ二)

蓮如上人子守歌 (遊京下ノ八)

廉潔 (餘五ノ三五)  
見得思義(松反下ノ八)  
居官積財者必不廉(隨念一ノ三二)  
清官の後多不振(續見四九)  
の武士の話(隨見六ノ二七)  
渡部孫左衛門の(自秘五三)  
なる乞見(隨見四ノ一八)  
譯三期(隨見四ノ一八)  
「ム」無欲(イシ)石川總茂(ア)「阿部  
患秋「ア」天野康景ヲ見ヨ  
廉臺 (安隨二ノ六)

魯 齊「優劣辨(難江三ノ八二)(鹽尻五三ノ五)  
の三家(鹽尻二八ノ二一)

櫛 一と梳(圓珠二三)

爐 袖、手(松筆二一〇ノ九)

ろうさい といふもの(松筆二一五ノ五)  
ろうさうの袍 (松筆二〇ノ七)

龍山 十二年の山より(玉か二ノ三〇)  
明「贈卓明府序の最跋(談小一ノ九)

斐宿 一説(難江六ノ二一)  
「トケ」時計ヲ見ヨ  
弄臣 といふ事(松筆五二ノ二一)  
弄痛 の字義(昆陽七三)  
弄川 (松筆六三ノ二二)  
羅馬人 寛永中「屋久島(来リ)時  
の事(二)話三五ノ一六

虚を呼ぶ といふ義(餘二ノ二八)  
虚を呼ぶ といふもの(牛馬八三)  
露銀 「ク」貨幣ヲ見ヨ  
露 といふもの(半馬八三)  
露銀 「ク」貨幣ヲ見ヨ

祿 一の字義(松筆六四ノ一)

古の「一」(松筆五ノ一五)  
古の「一」(松筆五ノ一五)

淡人の「石」(松筆五ノ一五)  
百貫の知行(居龍五九)  
職田位田(南留四ノ二二)

六阿彌陀 (理齋一ノ一四)  
武藏「四番本尊(二)話二五ノ一〇」  
「ア」阿彌陀ヲ見ヨ  
六有 張橋軍(鹽尻二六ノ一)

六郷山 (一)話一六ノ四二(三義一ノ八)  
六郷橋 (柳筆上ノ一八)(用捨上ノ八)  
六角堂 の燒失(玉か二ノ二四)  
六具 (安隨二〇ノ六)

六月 名後(如蘭二九ノ一四)

六月六日 一期日水くふ事始(白紳一〇ノ六)

六月無禮 (松筆八九ノ七七)

六根清淨 一「ク」觀世音ヲ見ヨ

六十六部 「ロク」六部ヲ見ヨ

六尺 祝夫を「といふ(南嶺三ノ一)(梅日四ノ一四)(遊遊二ノ下ノ一〇)

六尺袖 「フリ」振袖ヲ見ヨ

六尺之孤 (技藝一ノ二三)

六所分配宮 (松棟一ノ三三)

六所明神 (孝經一ノ一七)(鹽尻三五ノ六)

六色禁法 (鹽尻七ノ一八)

六代御前 の碑(暗照下ノ二八)

六道銭 (松筆九〇ノ八)

六玉川 といふ俳書(賤小六九)

六段目 といふ語(還魂上ノ二七)

六地藏 「チサ」地蔵ヲ見ヨ

六法 (奇跡一六)

六方詞 「ヤツ」奴詞ヲ見ヨ

六波羅寺 の額(茅塞上ノ一九)

六部 六十六部(遊遊七ノ一五)

六門 といふ職(松筆六五ノ一)

六林翁 「ホツ」畑田方苗ヲ見ヨ

陸女 淺草地内茶屋女(武俗六九)

鹿茸 といふ田器(骨董下ノ前ノ七)

轆轤 (松筆一六ノ二)

露寮 の字義(松筆九二ノ七)

露 といふもの(半馬八三)

露銀 「ク」貨幣ヲ見ヨ

露 といふもの(半馬八三)

露銀 「ク」貨幣ヲ見ヨ

露 といふもの(半馬八三)

露銀 「ク」貨幣ヲ見ヨ

露 といふもの(半馬八三)

露銀 「ク」貨幣ヲ見ヨ

魯西亞文館 (一)話一六ノ二五)

魯執政唯強 (三)話一三ノ二

魯人 左氏十五年條「の事(談小二ノ四二)

盧生夢 の故事(筆中ノ一五)

露地 (南留四ノ二二)

魯直 筆蹟額(一)話三三ノ二二)

盧同茶歌 の註解(難未三ノ七三)

盧年大日 の解(鹽尻二二ノ二二)

盧馬 琉球貢(一)話四ノ五)

盧馬 琉球貢(一)話四ノ五)

盧馬 琉球貢(一)話四ノ五)

盧馬 琉球貢(一)話四ノ五)

盧馬 琉球貢(一)話四ノ五)

盧馬 琉球貢(一)話四ノ五)

盧馬 琉球貢(一)話四ノ五)

盧馬 琉球貢(一)話四ノ五)

盧馬 琉球貢(一)話四ノ五)

●ロヒ 茶寮の事(松筆九八ノ一二)  
 ●ロハ といふ語(松筆四ノ七)  
 ●ロホ 盧簿(松筆六三ノ二六、八一ノ二〇)  
 ●ロレ ろれつ か廻らぬといふ俗語(橋菴初ノ五ノ一二)  
 ●ロワ 魯王 明ノ監國—の名(護小五ノ二二)  
 ●ロン 論 の字義(鹽尻五三ノ一五)  
 論議 之間答との別(南留一ノ一一)  
 論語 名圓珠經といふ(閑散上ノ五)(南留一ノ二)  
 —の評(松筆二ノ三〇)(玉一ノ四ノ二六)  
 清原家の訓點(世事一)

—嬰文(一話二八ノ二八)  
 —の義數條(年々三ノ一八、一九)  
 —の大車小車のよみ方(乘烟三ノ四)  
 —集訓に偏其反而の偏を訓に作る事(松筆三ノ三)  
 名相喜讀(隨意二ノ八)  
 小兒學問止(隨意二ノ一八)  
 古寫本の(假世二六)  
 古版の板ある事久し(昆陽六)  
 金泥の(安隨四ノ五)  
 正平版(如蘭三ノ三三、三三ノ七)  
 王仁獻する所の(鹽尻七ノ三三)(柳隨初ノ一)  
 論語集解 古本—(隨意一ノ九)  
 論語筆解 といふ書(雜末三ノ三〇)  
 論語讀の論語知らず(病問四)  
 ●ワ 人名の—の字(玉一ノ四ノ九)  
 他人を—さいふ(松筆九六ノ二二)  
 吾 わぎの、わわし、わこりよ等の—字(松筆八五ノ三六)  
 ●ワイ 賄賂 まひなむといふ詞(孝經四ノ五)  
 —まひ、まひなむ(松筆一〇九ノ三五)  
 神佛の—(くせ二六)

—山政(安隨一七ノ二二)  
 —決斷(松筆九三ノ二八)  
 官吏收賄に付正徳五年の命(鹽尻三七ノ三九)  
 「シ」倍物ヲモ見ヨ  
 和韻 詩の聲和(昆陽二二四)  
 ●ワウ 王 かナホキミといふ(南留二ノ五)  
 —の字訓(安隨一九ノ二六)  
 「ク」皇族「テ」帝王ヲモ見ヨ  
 王安石 論王介甫(眠雲二ノ六)  
 假學術以肆其義者(隨意四ノ四)  
 王攸ノ十略(松筆六三ノ三六)  
 王幼學(餘餘一ノ二八)  
 王家統 のよみ方(閑散四ノ二七)  
 王羲之 の書(餘餘三ノ三二)  
 王元 か詩(餘餘四ノ七)  
 王三保 清—傳(松筆一〇九ノ六三)  
 王子權現 武州—(望海五)(紫ゆ玉子田樂(一話三三ノ三五))  
 王充 か俊談(隨意一ノ二二)  
 王肅 の同名異人(隨意三ノ四一)  
 王世吉 清人—の詩(一話二一ノ一〇)  
 王世貞 明—(隨意五ノ三七)  
 —十五歳の詩(餘餘二ノ三九)

王寧宇 醫藥竹堂五雲子傳(半日七ノ二〇)  
 王の鼻 「デン」天狗ヲ見ヨ  
 王文恪 の氣字(一話八ノ二六)  
 王鳳州 を論ず(鹽筆信ノ三二)  
 王勃 (子安)が十三歳にして滕王閣序を作るの考(乘烟二ノ一九)  
 —の詩(一話二九ノ二六)  
 王莽 平務廉か持たりし—の鏡の話(松筆三二)  
 王陽明 の大膽(隨意六ノ三六)  
 —の學評(五條)(隨意二ノ六、七)  
 —の學を敬す(鹽筆仁ノ二五)  
 —十一歳の詩(東屋上ノ二〇)  
 畦給ノ仲人(松筆八一ノ九、九八ノ一三)  
 畦弱 (松筆九一ノ二二)  
 輪鼓 紡車につきたる—(鹽尻三九ノ三三)  
 汪克寛 (餘餘一ノ二八)  
 黃金臺 (松筆一一七ノ六三)  
 黃丹 (松筆八七ノ八)  
 黃蘗山 繼席代々の事(一話三七ノ八)  
 遊—詩(醜圃下ノ二〇)  
 横着 といふ語(松筆九八ノ五二、一〇〇ノ五七)  
 枕飯 の解(安隨四ノ四四)  
 —といふ語(鹽尻三九ノ三〇)  
 枕飯始 (松筆九五ノ五五)

枕飯振舞 (嬉遊五ノ五)(鹽筆五九)  
 往來 を歩む心得(閑散四ノ一三)  
 —は通行の手形(昆陽四七)  
 書名に—の字をつくる事(橋菴初ノ四ノ一六)  
 枉惑 といふ語(順風四ノ一〇、四ノ附)  
 —といふ詞(松筆一〇〇ノ五七)  
 ●ワカ わかくぬき 小櫛木を—と訓む(白筆下ノ二三)  
 わかさびたる様 といふ事(松筆一ノ五ノ三五)  
 わかむとうり 源氏物語に見えたる—の字(安隨一ノ九ノ六六)  
 わかんごほり 王統を—とよむ(閑散四ノ二七)  
 和歌 「ワカ」歌ヲ見ヨ  
 和歌三神 考(温知叢書第十編ノ四ノ内)  
 —かよめる發句(半日三ノ五〇)  
 及三聖老牛上ノ九)  
 (安隨七ノ三七)(安夜二ノ二四)  
 (閑白一ノ三)(鹽尻二八ノ三)(松筆八五ノ三四)(嬉遊附ノ一)  
 和歌三神考 解題温知叢書第十編ノ内)  
 和歌四天王 の異名(傍廂二二五)  
 和歌浦 山邊赤人—のうたの解(長頭六)  
 和合 の大切なる事(花月一〇二)  
 南條主従父子の—(白秘二六)

和布 鳴門—採の海人井福良の灰干—(雲錦二ノ一八)  
 若いか奇特 といふ詞(嬉遊九ノ四五)  
 若夷賣 (嬉遊八ノ七)  
 若尾彌平治 の勇剛(白秘二一)  
 若君 童女を—といふ(安隨四ノ一三)  
 若草のつま (安隨七ノ二六、一〇ノ二〇)  
 若狹小鯛 「タビ」鯛ヲ見ヨ  
 若し を少壯の義さす事(隨意一ノ一九)  
 若衆女郎 「イウ」遊女ヲ見ヨ  
 若俗 といふ詞(一話一ノ三四)  
 若黨 (松筆一〇四ノ一六)  
 若菜 徒上—の衣服と俵(柳菴二ノ二)  
 —のうた(鹽尻四一ノ二八)  
 古へ松を—してやせし事(如蘭一九ノ二三)  
 若菜集 の作者(奴風二五)  
 若の浦鶴 といふ書(如蘭二ノ二二)  
 若林新七 淺見の弟子—(閑散上ノ二九)  
 若水 (孝經一ノ一三)  
 非花水(白柳一〇ノ三)  
 若宮 女にも—といふ(安隨一九ノ五六)  
 若宮 尾州名古屋—の事(鹽尻二九ノ五)  
 若宮天神 (南留五ノ一五)  
 稚郎子 のよみ方(南留三ノ二二)

我衣 解題(我衣一) さいはれたる人々の名(談小一ノ一) 五)

倭寇 一作詩(如關一ノ一六)

倭漢合運 さいふ書(松筆三七ノ九)

ワキ わきをかく、といふ事(松筆七五ノ一六)

脇長之 事非其文(欄園下ノ四三)

脇くさ (傍用五一)

脇差 「タツ」万劍ヲ見ヨ

脇ふさぎ 元和七年女御一ノ事(一) 話三八ノ三九)

辨ふ 濟、弁濟、返濟なさいふ事(松筆一〇六ノ六一)

和君 さいふ語(松筆一〇六ノ六三)

ワシ 和訓 「オン」音訓ヲ見ヨ

或皇 六一一説(茶筆一ノ二〇)

和光同塵 といふ語(居龍二八)

ワケ 和氣 万葉集に見えたる一といふ稱(玉カ八ノ三三)

和氣仲世 の養去(鹽尻三四ノ二七) の忠勤(辨曆三八)

ワコ 倭言 といふ熟語(松筆六〇ノ三)

和子 男子をさいふ(幽遠上ノ九)

ワサ わざくれ さいふ詞(辯遊九ノ二五)

わざくれば橋 (そゝろ二八)

禍 災は人自ら招く(松筆八八ノ三)

禍は口より さいふ語の出處(隣女二)

禍始義皇一畫時 の類句(餘餘一ノ七)

山葵擦 古代の(奇跡八〇)

和讃 一談(松筆一五ノ二〇)

ワシ わし 私をさいふ(理窟五ノ一五)

鶯 につれし小兒救はれし話(閑次四ノ三) 五)

鶯津氏 尾張の先(鹽尻七ノ四二)

鶯尾武久 (鹽尻一〇ノ一二)

鶯尾山 の櫻(爰埃五ノ九)

鶯の山 (松筆七五ノ六九)

鶯美 一系圖(鹽尻六ノ三二)

鶯見 一系圖(鹽尻三六ノ三八)

和州諸將傳 解題(鹽尻三二ノ一六)

和字ノ状 (松筆九五ノ三八)

ワス わすれめや の本字(安隨六ノ三九)

忘貝 一忘草(鋤野二四)

忘草 (圓珠五五)松筆五ノ九、一〇六ノ六

忘れす草 「シオ」葉ヲ見ヨ

忘れぬ夢 後久我大臣の(藤江一ノ八〇)

ワセ 早稻 早さいふつひたる例(藤江五ノ四)

ワソ

倭俗 國俗をさいふ事(安隨一七ノ四九)

ワタ

わたたり 「ヤン」膳部ヲ見ヨ

わたくし物 「イン」陰莖ヲ見ヨ

わたす 過度さいふ詞(我撥二ノ三七)

わたのはら 海をさいふ(圓珠三)

わたまし粥 「カユ」粥ヲ見ヨ

和田氏 の姓(白柳一〇ノ一六)

和田惟政 (白柳一〇ノ一七)

綿 準者追考(如關七ノ一八)

綿打道具 (辯遊二ノ上ノ七)

綿嚙 (松筆九五ノ六三)

綿車 綿打弓輪(松筆九七ノ二二)

綿の如くなる さいふ事(松筆六二ノ二〇)

綿脂 「エノ」綿具ヲ見ヨ

綿子 (玉カ二ノ一〇)

綿摘 「イウ」遊女ヲ見ヨ

綿帽子 (露花七〇)(松筆七〇ノ三四) 新婦の(辯遊二ノ上ノ三)

綿帽子賣 (鹽尻五〇)

私の主 「シユ」主人ヲ見ヨ

渡し銭 大河の上り高(半日三ノ二九)

渡し船 個島(覆没(半日二ノ四)

渡津 (松筆八三ノ八)

渡邊氏 の祖先(鹽尻三ノ三〇)

渡邊永壽尼 の稱(松筆七八ノ九四)

渡邊大江橋 の築師(一話三三ノ一)

渡邊幸巷 (一話二六ノ一五)(假世七〇) の長壽(支同三ノ中)

渡邊水庵 の功名履歴(一話二九ノ四四)

渡邊助兵衛 の義氣浪士の汚辱を雪ぐ(一話二九ノ三五)

渡邊綱 の詠歌(一話二九ノ三八)

渡部氏 の家系(鹽尻七ノ七)

渡部番 の節義(鹽筆智ノ二二)

渡部鏡 の忠節(鹽筆智ノ二九)

渡會姓 賜(談小三ノ二四)

渡り合川 (松筆九ノ三)

渡瀬 奥州の氣候(茶筆四ノ五)

度會朝棟 のうた勅撰に入る(からす) (安隨一九ノ一一)

四月朔日氏 (松筆九三ノ八四)

ワツ わつこの柿 (松筆九三ノ一九)

わつそくにかげ さいふ事(松筆九二ノ五六)

僅 の字の用法(眠雲二ノ二七)(安隨五ノ八)

ワト 和同開珍 の珞の字(難米一ノ三三)

ワナ 和歌集 色葉(井閑居友の作者(年打上ノ三二))

ワニ 王仁 (安隨七ノ一八)(東) (東) 屋下(二六)

の事(拾玉一ノ二二) (二上三二六) の事(談小五ノ三)

鰐（一）の一口（辨府一〇〇）  
 鰐（孝子）を殺して仇を報ず（機傳六）  
 鰐足（ホアヤ）（宛小中）二四六  
 鰐口（アミ）脚ヲ見ヨ  
 鰐（桂林上）三〇（南嶺四）六〇（鹽尻三）三〇  
 象頭（山）の初（二上六四）  
 壬生寺（の）並圖（雲錦一）一〇一  
 既（に）元應二年にあり（安隨一〇八）  
 享祿四年（の）一（擁書四）一〇二  
 九部（難江七）五八  
 氏懸佛圖説（如蘭二八）二二  
 ●ワハ  
 和盤（の）解（采燭五）二二  
 ●ワフ  
 和文倉（の）棟札（一話二二）三六  
 ●ワヘ  
 和襪子（一話二四）三二  
 ●ワミ  
 和名（なくして漢語を用ひしもの（南留二）二二）  
 和名抄（といふ名（玉か）一〇）六  
 和名抄（の）假字有疑者（難未セ）  
 二六  
 偽註考（如蘭九）一〇  
 の古抄本（遊京下）一三  
 櫻井節手抄（の）一（談小四）三二  
 ●ワヤ  
 わやく（といふ俗語（松筆九八）五二）  
 ●ワヨ  
 和與（松筆八九）二四  
 ●ワラ  
 わらは（婦女自稱して一といふ（撈海上）二二）  
 わらば（といふ名（燕石）二二）  
 草鞋（松筆六）二二  
 の草の字（安隨一五）三五  
 中（の）一  
 圖（安隨一八）四一  
 八ッ日（の）（居龍五）三  
 くひ（玉）六三六）（松筆一〇五）  
 三、二〇七）  
 ●ワ  
 童（といふ名（松筆一〇〇）五六）  
 童（といふ名（松筆一〇〇）五六）  
 童隨身（「スイ」隨身ヲ見ヨ）  
 童相撲（「スマ」相撲ヲ見ヨ）  
 蕨（難苑一〇）二七  
 蕨（難苑一〇）二七  
 蕨（松筆五二）二六  
 齊魯俗語（爲魁）（隨意三）三九  
 蕨餅（難苑一〇）二七  
 笑（笑の字）に同じ（難苑一）二二  
 乾（冷）（松筆七四）二一  
 物（い）ひにて入笑はする馴者（松筆九六）  
 笑（八）  
 笑（チ）ハ千葉笑ヲ見ヨ  
 笑（草）  
 笑（松筆六三）九  
 笑平（といふ地（松筆一五）二二）  
 笑疾（閑次）二一六  
 ●ワリ  
 わり（なし）  
 といふ俗語（安隨八）二六  
 割子（「ヘン」行府ヲ見ヨ）  
 割符（「フ」符ヲ見ヨ）  
 ●ワル  
 わる（く）したし  
 といふ詞（居龍二）  
 悪（き）もの  
 （一話四五）四一）  
 悪口（人を誹るを）  
 といふ（松筆九七）  
 三七）  
 ●ワレ  
 われ（から）  
 といふ虫（閑耕三）二二  
 二二）  
 玉（一）二二）二八）（采燭中）二

●ワ  
 わ（れ）  
 といふ歌語（年々）二一九  
 吾有知乎哉（技渡）一〇二七  
 吾無隱乎爾（四方花）一九  
 破朝額（の）圖（鹽尻三）三〇  
 ●ワロ  
 倭論語（の）沙汰（松棟一）二二  
 四）  
 偽書（なり）（安隨二）二  
 ●ワ  
 わ（く）  
 といふ詞（松筆一四）一九、一〇  
 〇）五六）  
 わ（く）  
 心（松筆八五）六六  
 わ（ら）  
 ば（といふ詞（松筆一〇〇）五六）  
 ●ワン  
 わん（ば）  
 といふ俗語（の本字）（隣女二）二〇  
 浅黄（一）（遊遊二）下）一五  
 浅紫（一）（遊遊二）下）一八  
 坊主（一）（遊遊二）下）一八  
 河内（古）市玉（記）（一話三三）一八  
 の蓋（カサ）蓋ヲ見ヨ  
 椀久（一）  
 豆時（祝）付  
 の墓（遊遊九）三  
 の墓（并）へうたんかしくの圖説（山漫  
 下ノ七）  
 椀脱（丘）  
 及椀脱校郎（の）解（鹽尻二）一  
 和説（といふ詞（安隨一三）七）  
 ●ン  
 撥假字考（難未五）二二  
 文字（暗）語上）五（松筆六五）二八  
 一）は）なり（見陽七）四）  
 一）と）む（碩鼠二）二六）

本日隨筆索引尾

Table with multiple columns containing index entries and page numbers.

明治三十四年九月十五日印刷  
同年九月二十日出版

定價金壹圓五拾錢

著 作 者

太 田 爲 三 郎



東京市本郷區駒込曙町七番地

兼發行 者

田 中 市 之 助

東京市神田區道新石町三番地

著 作 所 有 權

發 行 所

東 陽 堂 支 店

東京市神田區道新石町三番地

(電話本局九七〇)

# 風俗畫報臨時增刊

<b>部之福難</b> <b>卷の難</b> ○三陸海嘯被害録 三冊 ○大洪水被害録 三冊 ○岐阜震災記聞 二冊 ○江戸の花 三冊 ○各地災害圖繪 二冊 ○臺灣土匪擄掠圖繪 二冊 定價一冊○印十二錢●印十八錢▲印廿四錢△印卅六錢●●一錢▲一錢五厘△印二錢	<b>部之俗風所名</b> ○京都名所圖會一冊 ○鎌倉名所圖會一冊 ○江の島名所圖會一冊 ○雪況圖會一冊 ○東京歲事記二冊 ○陸軍大演習一冊 ○東洋華俗圖會二冊	<b>新撰東京名所圖會</b> ○上野公園の部二冊 ○淺草公園の部三冊 ○芝公園の部三冊 ○麴町愛宕公園一冊 ○深川公園の部一冊 ○白山王子公園一冊 ○日比谷公園一冊 ○各公園一冊 ○隅田堤三冊 ○各區之部 ○東京總設井内區の部一冊 ○麹町區四冊 ○神田區五冊 ○日本橋區四冊 ○京橋區三冊 ○以下各區の部續刊
<b>卷の福</b> ○銀婚式一冊 △千代の祝一冊 ○日婚禮式三冊 △新年の祝一冊 ▲慶事集一冊 ○京都大博覽會一冊 ○豐三百年祭圖繪一冊 ○三國勸業博覽會一冊	○御大喪圖會二冊 ○東本葬式圖會一冊 ○願寺葬式圖會一冊 ○沖繩風俗圖會一冊 ○臺灣華俗圖會一冊	○三陸海嘯被害録 三冊 ○大洪水被害録 三冊 ○岐阜震災記聞 二冊 ○支那戰爭圖繪 三冊 ○臺灣征討圖繪 五冊 ○臺灣土匪擄掠圖繪 二冊

## 足尾銅山圖會

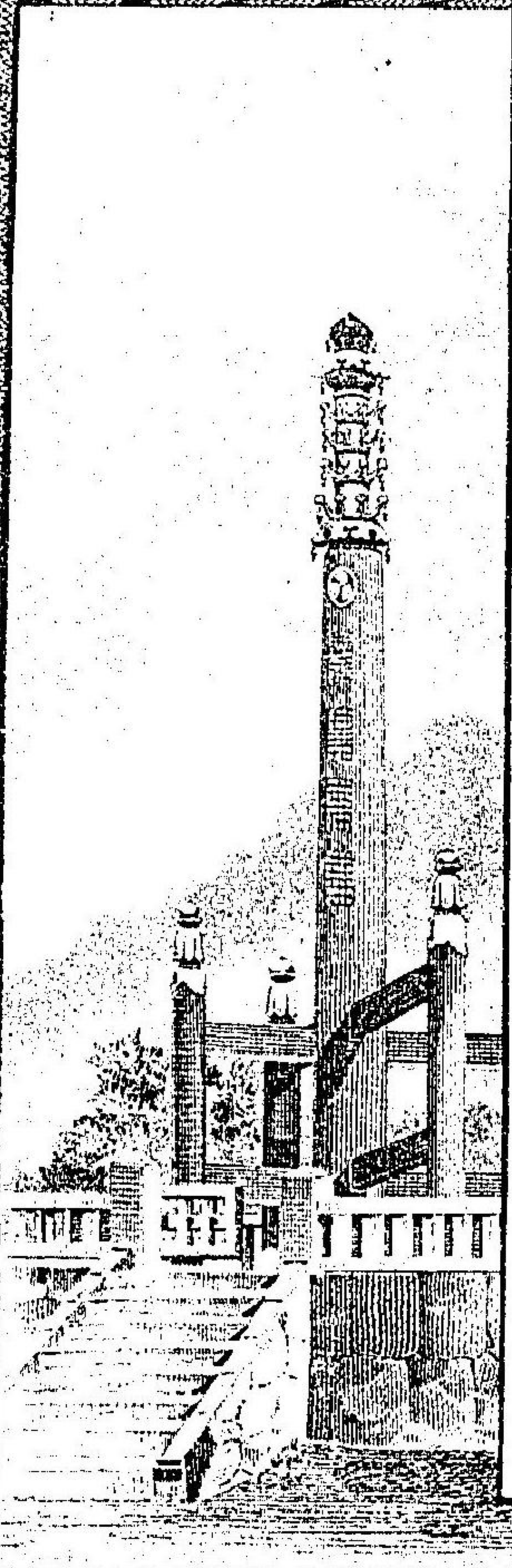
世界に其名を轟かせる本邦最大の鑛業所足尾銅山の實況を詳述したる一大美本にて萬國稀有の最新機械を具備し晝夜數千の鑛夫鑛石採掘の初めより之を對銅となすまでの顛末其他銅山に關する一切の事實及び附近の諸名跡勝地をさながら活動寫眞を見る如く着色緻密の石版畫と精巧なる寫眞を合せて一百數十圖を挿み恰も懇切なる説明を聽きながら足尾の別天地を歴覽するの想あり實業家は勿論學校の教科及び家庭教育上の好參考書たり又以て消夏避暑の好伴侶たる實に至珍の良書なり

## 發行所

東京市神田區  
通新石町三番地

(電話本局)  
九七〇番

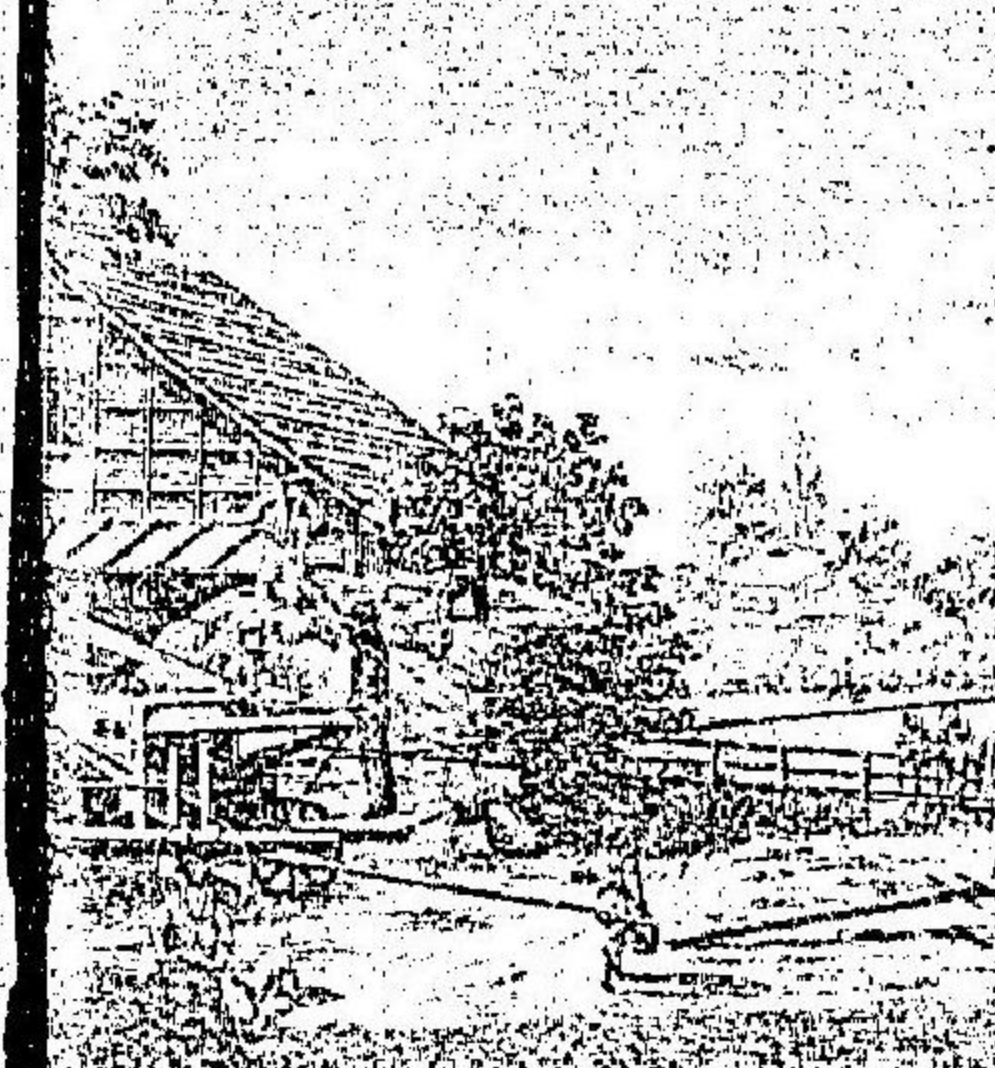
東陽堂支店

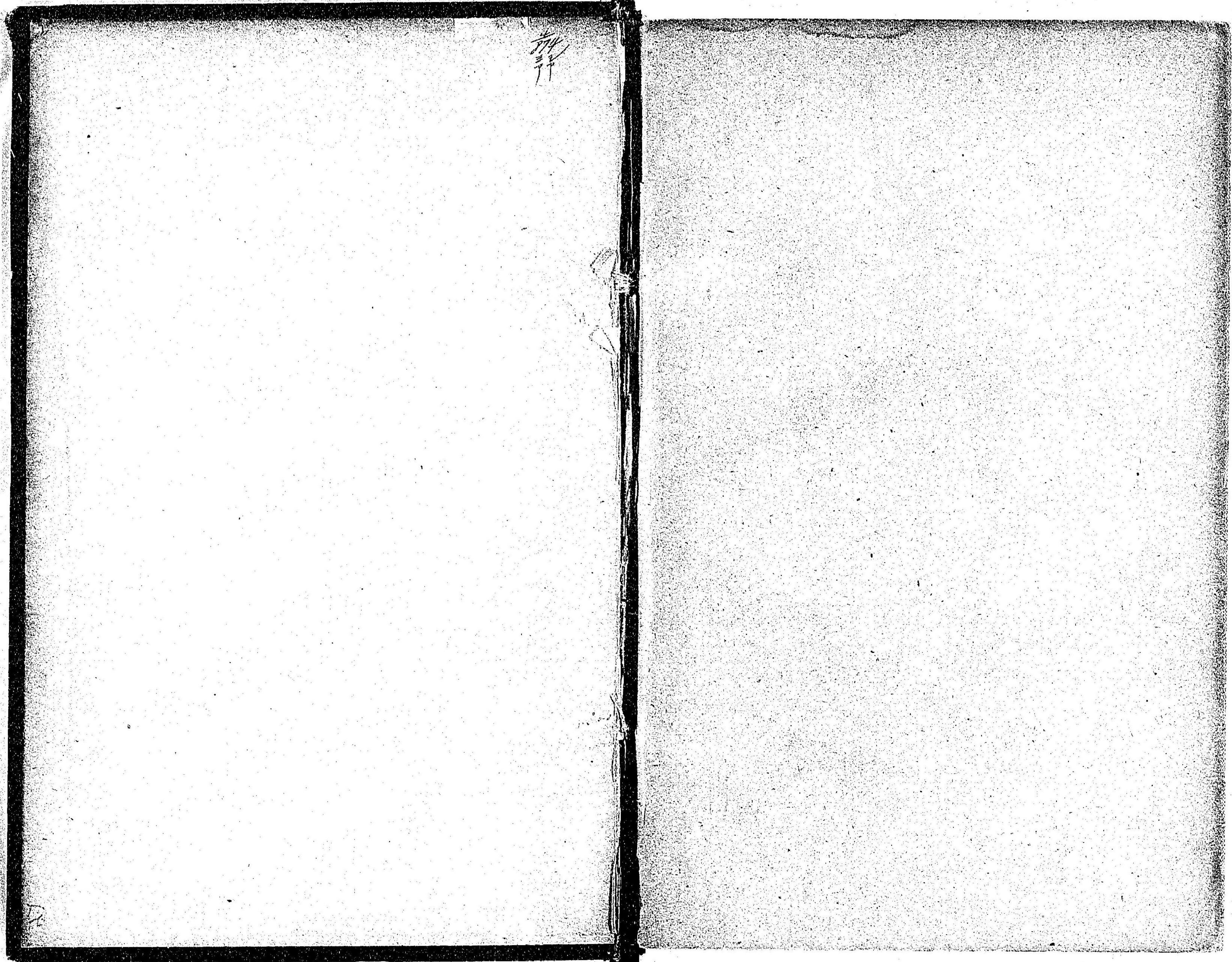




# 東陽堂出版目錄

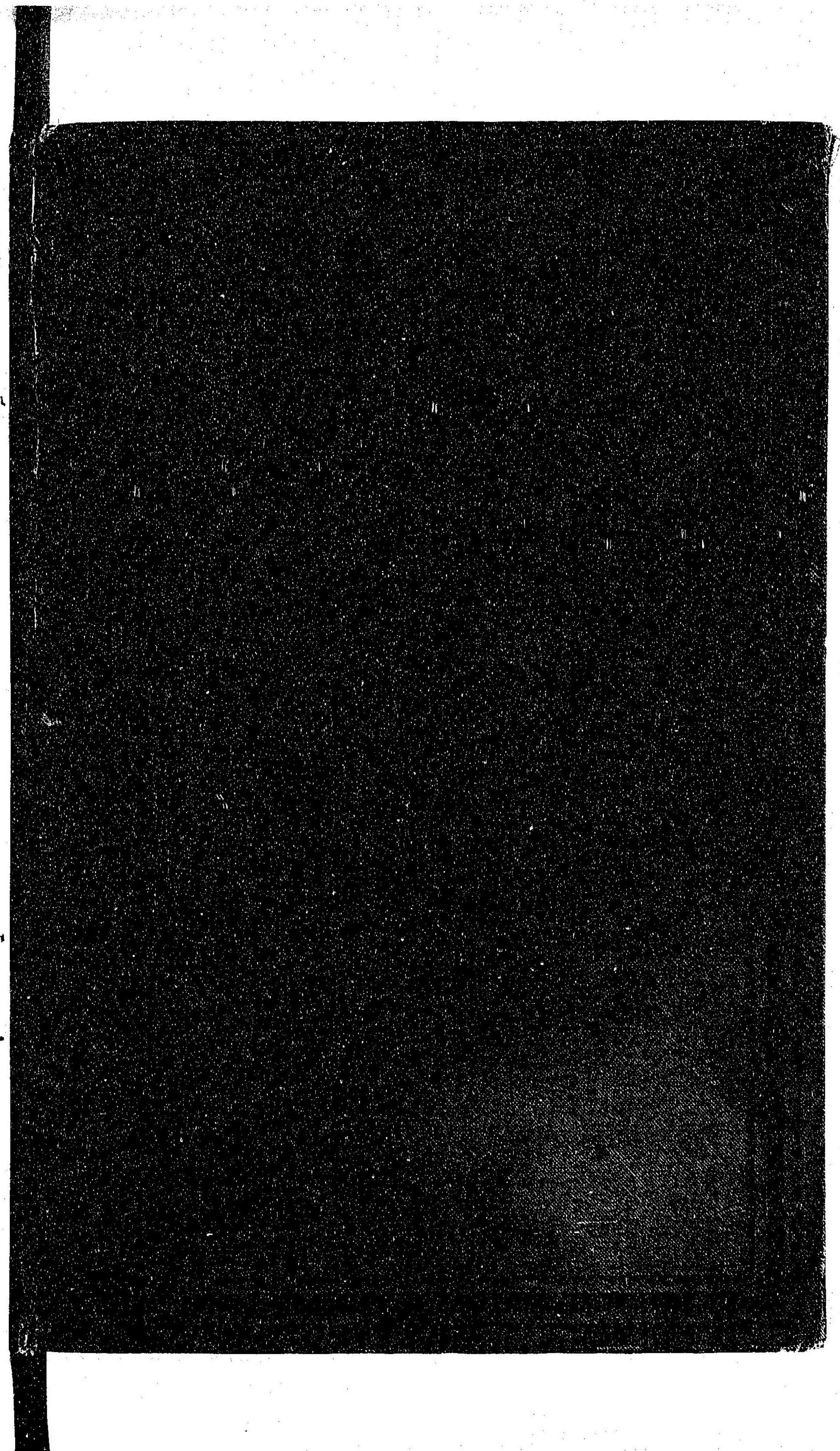
- 農商務省地質調査所編  
大日本地質全圖 十五枚綴  
比例尺百萬分の一  
全一部
- 正 無仕立 四冊五十錢  
折本立金 五圓小包二百目迄  
軸仕立金六圓 通 運 便
- 百萬分一 全國地質説明書全  
正價金一圓六十錢 小包二百目迄
- 本圖は全國地質の構造及分布、火山の位置、山脈の趨勢、金屬、石油、石炭、石油、硫黄、有用鑛床及鑛泉等の位置を精密に十五種の彩色を以て明示したる者加之説明書は重要な鑛山、炭田、油井等には一々鮮明なる彩色地質圖を挿みて説明したる者なり
- 大日本 地形全圖 十五枚綴  
比例尺百萬分の一  
全一部
- 和文ノ部 歐文ノ部  
無仕立立一圓廿五錢 三圓  
折本立立一圓十錢 一圓廿五錢  
軸仕立立一圓十錢 一圓廿五錢  
無仕立折本立立共小包二百目迄  
實測最新の地圖にして遠近高低險阻一目の下の瞭然たり
- 大日本豫察地質圖 全國五部  
比例尺四十萬分の一 再 版  
正價一部に付和文歐文共各  
金三圓廿錢 小包二百目迄
- 大日本豫察地形圖 全國五部  
比例尺四十萬分の一 再 版  
正價一部に付和文金一圓十錢  
歐文二圓六十錢 小包二百目迄
- 大日本地形詳圖 全國五十五部  
比例尺二十萬分の一  
正價一部に付和文金二十六錢  
歐文金三十錢 郵稅金二錢
- 大日本地質詳圖 全國九十五部  
比例尺二十萬分の一  
正價一部に付和文歐文共各  
金卅五錢 郵稅金二錢
- 邊信官鐵道局編  
近大日本鐵道線路圖全形  
正價金六十錢 郵稅二錢
- 風俗畫報 明治廿二年二月  
正價一冊金五錢 郵稅二錢  
以下同  
十冊金四十五錢 郵稅四錢  
二十冊金九十錢 郵稅八錢
- 繪畫叢誌 明治廿二年三月  
正價一冊金五錢 郵稅二錢  
以下同  
十冊金四十五錢 郵稅四錢  
二十冊金九十錢 郵稅八錢
- 宮内省博物館編  
新撰 畫 鑑 第二編  
正價 金六圓五拾錢 全貳冊
- 難幅圖卷物 桐箱入  
石川彌齊先生著  
正價金五圓小包四百目迄
- 夜窓鬼談 上下 白紙刷  
正價金壹圓參拾錢 郵稅金拾錢
- 故渡邊華山翁遺稿  
一掃百態 紙紙刷  
正價金六十錢 郵稅四錢 全壹冊
- 故菅原白龍翁遺稿 伯紙刷  
白龍畫譜 和紙刷  
正價金壹圓五十錢 郵稅金拾錢
- 邊山忠孝血淚譚 全壹冊  
正價金五十五錢 郵稅金四錢
- 佩文齋耕織圖 上下 全壹冊  
正價金壹圓小包二百目迄
- 宋元明清有名畫家筆  
精湖東嶽先生編  
名蹟撮要 和紙全貳冊  
正價金壹圓八十錢 小包四百目迄
- 山陽眞蹟西遊詩 全壹冊  
正價金壹圓小包二百目迄
- 弘法大師眞蹟  
綜藝種智院式 全壹冊  
正價金壹圓貳拾錢 郵稅拾錢
- 浮世繪編年史 全壹冊  
正價金壹圓貳拾錢 郵稅拾錢
- 桑書畫款印集覽 全四冊  
正價金壹圓貳拾錢 郵稅拾錢
- 草書千字文 全壹冊  
正價金三拾錢 郵稅金四錢
- 文學士藤岡作太郎合著  
日本風俗史 全三冊  
正價金壹圓貳拾錢 郵稅拾錢  
價中下卷壹圓貳拾錢 郵稅拾錢
- 波引月耕漫書  
初編七冊 二編七冊 三編  
卷ノ一二既刊以下近刊  
正價壹冊金三拾八錢 郵稅金四錢
- 故有住禮翁著  
類聚婚禮式 全壹冊  
正價金九拾錢 郵稅金拾錢
- 故生川春明翁著 大樹修二先生校訂  
近世女風俗考 全壹冊  
正價金五拾八錢 郵稅金六錢
- 西仙鄉奇談 全壹冊  
正價金七拾五錢 郵稅金六錢
- 小原重哉先生著  
王香堂畫譜 全貳冊  
正價金七十五錢 郵稅金十錢
- 德川江戸卅六城門畫帖全  
正價和文壹圓六十錢 歐文壹圓
- 歐洲山水奇勝 全壹冊  
正價金七十五錢 郵稅金八錢
- 浮世繪備考 全壹冊  
正價金二十五錢 郵稅金四錢
- 百體福祿壽 全壹冊  
正價金三十錢 郵稅金四錢
- 松谷漫書  
初編壹冊 以下近刊  
正價金卅八錢 郵稅金四錢





Handwritten markings, possibly initials or a signature, located near the top center of the left page.

A small handwritten mark or number located in the bottom left corner of the left page.



039  
0854n  
t

101965-000-9

039-0854nt

日本隨筆索引

太田 為三郎/編

M34

EAE-0678



